

現行執達吏法令大全

第貳卷

CZ

786

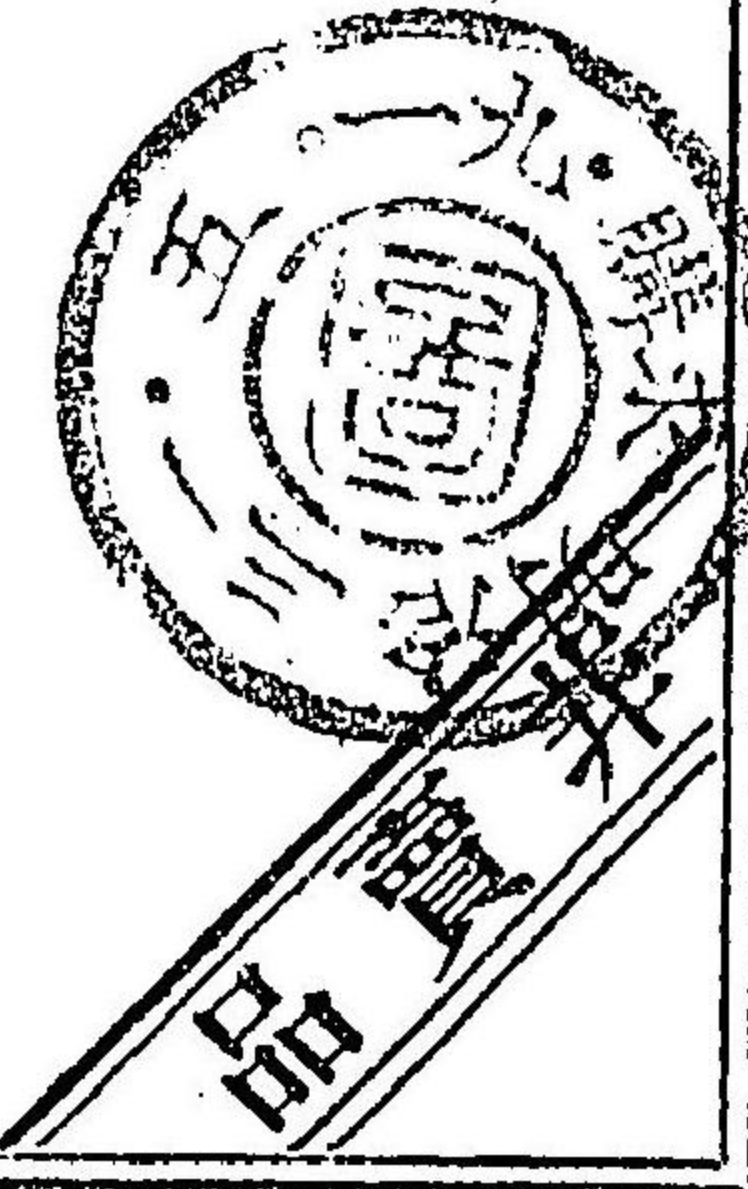
02

191  
578

和久利銀次郎編纂

現行  
執達吏法令大全  
第貳卷

鳳鳴會發行



CZ  
786  
02

現行執達吏法令大全第貳卷目錄  
出版書ニ掲載方御許可願膳本  
御承諾願膳本  
執達吏職務細則  
執達吏職務細則質議錄  
箕作司法次官演說筆記  
執達吏事務傳習筆記

一四四  
六一六  
六四六

出版書ニ掲載方御許可願(謄本)

一 執達吏職務細則

一 執達吏監督手續

一 司法省通牒中執達吏ニ關係ノ條項

(本文略ス)

(本文略ス)

私儀今般別紙豫約募集趣意書案ヲ記載ノ目的ヲ以テ現行執達吏法令大全(非賣品)ナルモノヲ出版仕其第貳第參卷中ニ前列記ノ條項ヲ掲載出版仕印刷實費ヲ以テ豫約シタル執達吏并ニ執達吏

臨時代理者等ニ限リ頒配シ以テ取扱ノ手續ヲ一  
致ナラシメ執達吏ノ重任ヲ完全ナラシメント  
ノ微意ニ御座候間何卒願意御洞察被成下掲載ノ  
儀御認可被成下度別紙豫約募集趣意書案添付此  
段奉願候也

明治三十一年三月二十三日

宮崎縣日向國宮崎郡宮崎町大字上別府  
三百二十番戶寄留島根縣平民

請願人 和久利 銀次郎印

司法省 御中

(別紙豫約募集趣意書案略ス)

森檢事  
長之印

司法省 庶第四二號

願之趣認可ス

但出願事項第四及第五ハ當省ニ於テ指令ノ  
限ニアラス

明治三十一年四月六日

司法省

司法省  
印

御承諾願 (謄本)

一明治二十三年十一月十七日ヨリ御開始相成候  
執達吏事務傳習筆記但箕作司法次官演說筆記  
附

今般私儀別紙豫約募集趣意書ニ記載ノ如ク現行  
執達吏法令大全(非賣品全部四册)ナルモノヲ出  
版仕度其第二第三卷中へ前記ノ御演說書ヲ掲載  
仕(中略)印刷シ以テ豫約シタル執達吏并ニ執達  
吏臨時代理者ニ限リ印刷實費ヲ以テ願配仕度候  
間何卒掲載ノ儀御許可被成下度別紙豫約募集趣

意書壹葉添付此段奉願候也

明治三十一年三月十一日

日向國宮崎郡宮崎町大字上別府

和久利 銀次郎 印

大審院判事

判事 今村 信行 殿

(別紙豫約募集趣意書略ス)

了承致候

今村 信行 印

第壹篇 執達吏職務細則篇

第壹節 執達吏職務細則ノ件

◎執達吏職務細則

明治二十三年十一月二十日  
司法省民第二四一〇號訓令

明治二十三年十二月司法省民第二六二二號全二  
十四年十月司法省參刑甲第三八四號ニテ改正

第一章 總則

第一條 執達吏其職務ヲ施行スルニ付テハ裁判所構成法民事訴訟法刑事訴訟法及ヒ執達吏規則ニ從フノ外尙ホ此細則ニ從フ可シ

第二條 執達吏ノ職務ヲ施行ス可キ管轄區ハ裁判所構成法第九十七條及ヒ執達吏規則第七條ノ規定ニ從フ可シ然レトモ執達吏ハ當事者ヨリ直接ニ委任ヲ受クルトキハ執達吏規則第七條ノ規定ニ拘ハテズ直チニ其委任ニ應スル義務アリ

第三條 執達吏ハ官廳又ハ官吏ヨリ委任ヲ受ケタルト人民ヨリ委任ヲ受ケタルトナ問ハス執達吏規則第八條ノ規定ニ依リ其

職務ノ施行ヨリ除外セラル、コトアル可シ

第四條 執達吏委任ヲ受ケタル後法律上又ハ事實上ノ理由ニ因リ職務施行ニ差支ヲ生シタルトキハ執達吏規則第十二條ノ規定ニ從フ可シ

第五條 委任者又ハ裁判所書記ヨリ職務施行ニ關スル書類ヲ執達吏ニ渡シ口頭ヲ以テ委任シタルトキハ其委任ハ執達吏ヲシテ其職務ヲ施行セシムルニ十分ナル効力ヲ有ス

裁判所又ハ検事局ヨリ命スル事件ニ付テハ裁判所書記ハ之ヲ執達吏ニ委任スル權アリトス裁判所書記ト執達吏トノ職務上交通ノ手續ハ裁判所書記職務章程中ニ之ヲ定ム

職務ヲ以テ命ス可キ事務ニ關スル委任又ハ裁判所書記ヲ經テ爲ス委任ノ授受方法ハ執達吏ノ所屬裁判所ニ於テ定ムル細則ニ從フ可キモノトス

委任ニ關スル書類ヲ書記課中ニ執達吏ノ爲メ設ケタル書函ニ差入アルトキハ口頭ヲ以テ委任セラレタルト同一ノ効アリトス

ス

第六條 執達吏ハ委任ヲ受ケタル事件ヲ遲滯ナク完結ス可シ

施行上期間ヲ定メタルモノハ其期間内ニ必ス之ヲ完結ス可シ若シ正當ノ差支アル場合ニ於テハ相當ノ時間内ニ代理人任命ノ求テ區裁判所ニ申立ツ可シ

其他ノ場合ニ於テハ執達吏ハ委任事件ノ緩急ニ從ヒ順序ヲ定メ之ヲ完結ス可シ若シ此際任意競賣事件ノ委任ヲ受ケタルトキハ他ノ事件ノ後ニ之ヲ廻ス可シ

第七條 執達吏ハ日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニハ判事又ハ檢事ノ許可アルニ非サレハ其職務ヲ施行スルコトヲ得ス此許可ノ命令ハ職務施行ノ際之ヲ示シ又此職務施行ニ付キ作ル可キ證書中ニ其旨ヲ記入シ又書類ヲ送達スルトキハ命令ノ謄本ヲ添附ス可シ

第八條 夜間ニ強制執行行爲ヲ爲ス可キトキハ執行裁判所ノ許可ヲ受ク可シ



夜間トハ日没ヨリ日出マテノ時間ヲ謂フ

第九條 裁判所ノ休暇ハ執達吏ノ委任事件ヲ完結スルニ付テノ義務ニ影響ヲ及ホサルモトス

第十條 執達吏ハ其職務上保管ス可キ金錢有價證券書類及ヒ物品ヲ貯藏スル爲メ土藏又ハ堅牢ナル建物ヲ有シ又ハ之ヲ借置ク可キ義務アリ

第十一條 執達吏ハ其職務上保管ス可キ金錢ヲ自己ノ金錢ト區別シ且之ヲ密封シテ貯藏スル義務アリ

第十二條 執達吏ハ其職務上保管ス可キ金錢有價證券書類及ヒ物品ヲ受取リタル場合ニ於テ之ヲ渡シタル官廳又ハ人民ヨリ其受取ノ證ヲ求ムルトキハ之ヲ交付ス可シ

民事訴訟法第五百三十五條ノ場合ニ於テハ右ノ求ナキモ受取ノ證ヲ交付ス可キモノトス

第十三條 執達吏ハ證書ヲ作ル場合ニ於テハ各證書ノ種類ニ付キ特別ノ規定ノ外尙ホ左ノ諸件ヲ遵守ス可シ

第一 各證書ニハ其作成ノ年月日時場所及ヒ住所官氏名ヲ記載シテ捺印ス可シ

第二 證書ハ明確ニ之ヲ作成シ且成ル可ク簡易ナル文字ヲ用ヰルコトニ注意ス可シ鉛筆ノ類ヲ用ヰルコトヲ許サス

第三 證書ハ其正本ナルト謄本ナルトヲ問ハス空行ナク之ヲ作ル可シ若シ抹消ヲ爲ス可キトキハ後日其文字ヲ讀ミ得ヘキコトニ注意シテ線ヲ引キ之ニ捺印ス可シ印刷シタル書式用紙中ニ記入ヲ爲ス可キ際其記入ス可キ事項ナキ部分ニ付テハ後日記入ヲ爲サシメサル爲メ其空間ニ線ヲ引ク可シ

第四 時間ニ從ヒ手数料ヲ受ク可キ職務施行ニ關スル調書ニハ執務時間ヲ明掲ス可シ殊ニ着手ノ日時及ヒ終了ノ日時並ニ執務ヲ停止シタルトキハ其停止ノ時間ヲ記載ス可シ

第五 謄本ニハ謄本タル旨ヲ記ス可シ又職務上ノ認證ハ認

證ナル語ヲ付シ之ニ署名捺印ス可シ執達吏ハ必ス謄本ト正本ト文字ノ符合シタルコトヲ確メタル上ニ非サレハ認證ヲ爲ス可カラス

第六 正本及謄本ニ付キ執達吏ハ本則第百十一條ノ規定ニ從ヒテ費用ノ計算ヲ爲ス可シ

第十四條 官印ハ鄭重ニ之ヲ貯藏シテ職務上ニ限り之ヲ使用シ職務外ノ事件ニ用サルコトヲ許サス

若シ執達吏職ヲ罷メタルトキハ直チニ區裁判所ニ官印ヲ返納ス可シ

第十五條 執達吏ノ職務上ノ通信ニシテ封緘ヲ要スルトキハ相當ノ封印ヲ捺ス可シ此封印ハ執達吏自費ヲ以テ之ヲ作ル可シ

第十六條 執達吏ハ職務黙秘ノ義務アルモノトス

第十七條 執達吏ハ強制執行ノ委任ヲ完結（民事訴訟法第五百六十四條第三項ノ場合ヲモ包含ス）シタルトキハ債權者ヲ満足セシメタルト否トヲ問ハス執行ノ成績ヲ裁判所ニ届出ルノ

義務アリ

第二章 職務

第一節 送達

第一款 通則

第十八條 送達ハ送達ス可キ書類ノ正本又ハ認證シタル謄本又ハ普通ノ謄本ヲ交付シ其送達施行濟ノ旨ヲ送達證書ニ記ス可シ（民事訴訟法第百二十七條、第百五十一條）

第十九條 書類送達ノ際遵守ス可キ手續ハ書類ノ旨趣及ヒ種類ニ關ハラス總テ同一ニ之ヲ行フ可シ

第二款 民事事件ニ關スル送達

第二十條 執達吏ハ民事事件ニ關スル送達ニ付テハ民事訴訟法第百三十六條乃至第百五十一條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

第二十一條 送達ノ委任ハ原告若クハ被告ヨリ又ハ其訴訟代理人ヨリ裁判所書記ヲ經テ之ヲ爲スヲ通例トス（民事訴訟法第百三十六條第一項）

裁判所書記ヲ經テ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其事件ニ關シ殊ニ手數料ニ關シテハ直接ニ原告又ハ被告ヨリ委任ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十二條 執達吏ハ送達ヲ施行スル前ニ十分施行上ノ準備ヲ爲シテ障碍若クハ延滞ヲ生セシメス且送達ノ効力ヲ害セシメサルコトニ注意シ殊ニ左ノ諸件ヲ調査ス可シ

第一 書類ニ署名捺印アルヤ否ヤ

第二 認證ヲ要スル謄本ニ認證アルヤ否ヤ

第三 謄本ハ必要ナル員數ヲ具備スルヤ否ヤ（民事訴訟法

第百八條）

第四 呼出狀ニハ期日及ヒ場所ヲ掲ケアルヤ否ヤ

若シ欠缺アル場合ニ於テ執達吏適宜ニ補充シ得ヘキモノナルトキハ自ラ之ヲ補フ可シ

第二十三條 執達吏ハ送達ヲ爲ス可キ書類ヲ受取タルトキハ二十四時内ニ送達ヲ爲ス可シ其住所地外ニ於テ送達ヲ爲ス可キ

トキハ遅クトモ三日ヲ過ク可カラス但別段ノ指定アルトキハ此限ニ在ラス

日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ハ右日數ニ算入セス

第二十四條 送達ハ何レノ地ヲ問ハス送達ヲ受ク可キ人ニ出會ヒタル地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ此受取人カ其地ニ住居又ハ事務所ヲ有スルトキハ其住居又ハ事務所ノ外ニ於テ送達ヲ受クルノ義務ナキモノトス此場合ニ於テ本人送達ノ受取ヲ拒ムトキハ執達吏ハ必ス其住居又ハ事務所ニ就キテ送達ヲ爲サ、ルヲ得ス（民事訴訟法第百四十四條）

住居又ハ事務所ノ外ニ於テ送達ヲ施行セントスルトキハ確實ニ書類ヲ交付シ且之ヲ受取ルニ適シタル場所及ヒ時機ヲ選ムコトヲ要ス

第二十五條 送達ハ之ヲ受ク可キ本人ニ爲スヲ通例トス訴訟能力ヲ有セサル原告又ハ被告ニ對スル送達ハ其法律上代理人ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第百三十八條第一項）

公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラル、コトヲ得ル會社又ハ社團ニ對スル送達ハ其首長又ハ事務擔當者ニ之ヲ爲ス可シ若シ數人ノ首長又ハ事務擔當者アル場合ニ於テハ其一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル（民事訴訟法第三百二十八條第二項第三項）

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對スル送達ハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第三百二十九條）

囚人ニ對スル送達ハ監獄署ノ首長ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第四百十條）

第二十六條 送達ハ之ヲ受ク可キ人ニ爲ス能ハサル場合ニ於テハ民事訴訟法第四百十五條乃至第四百十八條ノ規定ニ從ヒ其他ノ者ニ之ヲ爲シ又ハ送達ス可キ書類ヲ市町村長ニ預置キ告知書ヲ作り之ヲ貼附ス可シ此場合ニ於テハ以下數條ノ區別ニ從テ取扱フ可シ

第二十七條 住居ノ外ニ事務所ヲ有スル人ニ對スル送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ通例先ツ其事務所（店舗其他營業場ノ類）ニ到ル可シ若シ此事務所ニ於テ本人ニ出會ハサルトキハ送達ハ其事務所ニ在ル營業使用人（番頭手代職工其他雇傭人ヲ包含ス）之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第四百十六條ノ上段）

前項ノ手續ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ執達吏ハ本人ノ住居ニ到ル可シ若レ此住居ニ於テモ出會ハサルトキハ本則第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ從ヒ完結ス可シ

第二十八條 辯護士ニ對スル送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ通例先ツ其事務所ニ到ル可シ若シ此事務所ニ於テ本人ニ出會ハサルトキハ送達ハ其事務所ニ在ル補助人又ハ筆生ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第四百十六條下段）

前項ノ手續ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ執達吏ハ辯護士ノ住居ニ到ル可シ若シ此住居ニ於テモ出會ハサルトキハ本則第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ從ヒ完結ス可シ

第二十九條 公又ハ私ノ法人及ヒ會社又ハ社團ノ法律上代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ對シ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ通例其事務所ノ執務時間内ニ其事務所ニ到ル可シ若シ此等ノ者ニ出會ハサルトキ又ハ此等ノ者カ送達ヲ受取ルニ付キ差支アルトキハ送達ハ其事務所ニ在ル他ノ役員又ハ雇人ニ之ヲ爲ス可シ(民事訴訟法第二百二十八條、第四百十七條)

前項ノ手續ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ執達吏ハ此等ノ者ノ住居ニ到ル可シ若シ此住居ニ於テモ出會ハサルトキハ本則第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ從ヒ完結ス可シ

第三十條 本則第二十七條乃至第二十九條ニ掲ケタル以外ノ者ニ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ通例本人ノ住居ニ到ル可シ若シ住居ニ於テ本人ニ出會ハサルトキハ送達ハ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲ス可シ(民事訴訟法第四百十五條第一項)

第三十一條 前條ノ規定ニ從ヒ送達ヲ爲シ能ハサルトキハ執達

吏ハ民事訴訟法第四百十五條第二項ノ規定ニ從ヒ書類ヲ預置ク可シ

前項ノ場合ニ於テハ近隣ニ住居スル者二人ニ書類ヲ預置タル旨ヲ告ケ且本人ニ速カニ通知ス可キコトヲ囑託ス可シ又本人住居ノ戸ニ貼附スル告知書ニハ其預置タル場所並ニ書類ヲ速ニ受取ル可キ旨ヲ明記ス可シ

第三十二條 本則第二十七條乃至第三十條ニ掲ケタル人ニ對スル送達又ハ預置ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ執達吏ハ先ツ送達ヲ爲シ又ハ之ヲ試ミノトスル住居若クハ事務所ハ全ク受取人ノ住居若クハ事務所ナルコト及ヒ送達ノ際應對スル者ハ全ク適當ノ人ニ相違ナキコトヲ確カム可シ

執達吏ハ受取本人ニ代リテ送達書類ヲ受取ル者ニ其書類ヲ速ニ本人ニ付ス可キ義務アル旨ヲ告知ス可シ

第三十三條 送達ヲ受ク可キ者ハ正當ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ受取ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス若シ此場合ニ於テ送達ノ

受取ヲ拒ムトキハ執達吏ハ交付ス可キ書類ヲ送達ノ場所ニ差置ク可シ(民事訴訟法第四百十九條)

第三十四條 執達吏ハ其爲シタル送達ニ付キ證書ヲ作ル可シ此證書ハ民事訴訟法第五百十一條ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス送達證書ニ記載ス可キ事項數葉ニ涉ルトキハ之ニ契印ヲ捺ス可シ

送達證書ハ遅クトモ送達ノ翌日之ヲ裁判所書記ニ交付スヘシ  
第三十五條 執行處分ニ關スル調書ノ送達、決定命令ノ送達、配當要求ノ送達、届書ノ送達、計算書ノ送達其他執行行爲ニ關スル通知、告知、催告ノ送達ハ特別ノ規定ニ從フ可シ(民事訴訟法第五百四十條、第五百四十一條、第五百六十六條、第五百九十一條、第五百九十八條、第六百條、第六百二條、第六百十二條、第六百二十條、第六百二十四條、第六百四十四條、第六百四十七條、第六百五十六條、第六百八十九條、第七百七條、第七百十條、第七百十五條、第七百二十七條及

ヒ本則第五十二條、第七十九條、第八十四條、第一百十一條)

第三款 他ノ裁判事件ニ關スル送達

第三十六條 刑事事件、非訟事件其他總テ裁判ニ關スル事件ニ付キ執達吏カ送達ヲ施行スルトキハ民事事件ニ關スル送達ノ規定ニ倣フ(刑事訴訟法第十九條)

送達施行ノ委任ハ裁判所書記之ヲ爲スヲ通例トス

第三十七條 執達吏ハ召喚狀ヲ送達ス可キ場合ニ於テハ其召喚狀ニ記載シタル被告人ニ之ヲ送達ス可シ(刑事訴訟法第七十六條)若シ其本人住居ニ在ラサルトキハ務メテ其人ヲ搜索シテ之ニ送達ス可シ其人ノ所在不分明ナルトキハ民事事件ニ關スル送達ノ規定ニ倣フ

第三十八條 執達吏ハ囚人ニ對スル拘留狀ノ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ其監獄署ノ吏員ノ立合ヲ受ケ之レヲ本人ニ送達スヘシ(刑事訴訟法第八十四條)

執達吏ハ送達ニ關シ囚人ト交通ヲ爲スニ付テハ總テ監獄則ノ

規定ニ違背セサルコトヲ要ス

第四款 裁判外ノ非訟事件ニ關スル送達

第三十九條 執達吏ハ裁判外ノ非訟事件ニ付テモ關係人ノ委任ニ依リ送達ヲ爲ス可シ(例ヘハ民法財産編第四百十五條以下ノ規定ニ於ケル賃貸借解約申入ノ告知又ハ同法第七十六條第七十七條ノ規定ニ於ケル地上權者ノ豫告若クハ催告又ハ同法第四百七十四條以下ノ規定ニ於ケル提供ニ關スル送達又ハ商法第二百十二條以下ノ規定ニ於ケル株金拂込ニ付テノ通知若クハ催告ノ類)

右送達ハ民事事件ニ關スル送達ノ規定ニ倣フ可シ

第二節 民事事件ニ付テノ強制執行

第一款 通則

第四十條 執達吏ハ民事事件ニ付テノ強制執行ヲ實施スルモノトス但法律上執行行爲ヲ裁判所ニ任セタルモノハ此限ニ在ラス(本則第四十一條、第四十二條)

執達吏ハ委任ヲ受ケタル強制執行ヲ實施スルニ當リ獨立シテ處分ヲ爲ス可キモノトス此處分ヲ爲スニ付テハ裁判所ノ監督ヲ受クルト雖モ直接ノ指揮ヲ受クルコトナシ但不動產及ヒ船舶ニ對スル強制執行ハ此限ニ在ラス  
民事事件ニ付テノ強制執行ト稱スルハ訴ヲ起シテ裁判ヲ受ケタル事件ノミナラス債權者ノ請求ニ付キ訴訟手續ヲ經スシテ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ債務者ニ對シ強制執行ヲ以テ執行ヲ爲サシム可キ場合ヲモ包含スルモノトス(例ヘハ民事訴訟法第五百五十九條ノ規定ニ於ケル公證人ノ作リタル證書又ハ和解同法第八百條及ヒ八百二條ノ規定ニ於ケル中裁人ノ判斷ノ類)  
第四十一條 執達吏ノ職務範圍内ニ屬スル強制執行ハ左ノ如シ  
第一 金錢ノ債權ニ付テノ有體動產ニ對スル強制執行(民事訴訟法第五百六十四條乃至第五百九十三條)  
右ノ有體動產中ニハ記名證券、無記名證券、株券其他此ニ類スル有價證券ヲ包含ス(本則第七十五條)

爲替手形、約束手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ依レル債權(本則第七十五條)ハ差押ノ場合ニ於テハ有體動産トシテ之ヲ取扱フモノトス(民事訴訟法第六百三條)

第二 金錢ノ債權ニ付テノ不動産及ヒ船舶ニ對スル強制執行ニシテ裁判所ヨリ命セラレタル職務(民事訴訟法第六百四十三條、第六百五十九條、第六百六十三條、乃至第六百六十九條、第七百三條乃至第七百五條及ヒ第七百二十七條以下)

第三 動産不動産及ヒ船舶ノ引渡若クハ明渡ヲ爲サシム可キ強制執行(民事訴訟法第七百三十條、第七百三十一條)

第四 執達吏ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於ケル假差押及ヒ假處分ノ執行(民事訴訟法第七百三十七條、乃至第七百六十三條)此他執達吏ハ債權ニ對スル強制執行ニ關シ本則第八十三條乃至第八十五條ニ定メタル共力ヲ爲ス可キモノトス

第四十二條 執達吏ハ法律上裁判所ニ任セタル強制執行ヲ實施スルコトヲ得ス此場合ニ於テ當事者カ執達吏ニ之ヲ委任スル

トキハ達執吏ハ裁判所ニ其申立ヲ爲ス可キ旨ヲ諭示ス可シ

左ニ掲クル強制執行ハ裁判所ニ任セタルモノトス

第一 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ニシテ左ニ掲クルモノ

(イ) 不動産(民事訴訟法第六百四十條乃至第七百十六條)及ヒ船舶(民事訴訟法第七百二十七條乃至第七百二十九條)ニ對スル強制執行

(ロ) 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行(民事訴訟法第五百九十四條乃至第六百二十五條)但前條第一號ノ第二項第三項ニ掲ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第二 行爲ヲ爲サシムル爲メノ強制執行(民事訴訟法第七百三十三條乃至第七百三十六條)

第四十三條 強制執行ノ委任ハ債權者(裁判所書記ヲ經ス)自ラ之ヲ爲スヲ通例トス

然レトモ債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲メ執達吏所屬ノ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ執達吏ハ各



執行行為殊ニ取立テタル金銭ノ引渡ニ關シテハ債權者ヨリ直接ニ委任ヲ受ケタルモノト看做ス

債權者訴訟ニ付キ書面委任ヲ以テ辯護士又ハ其他ノ者ニ訴訟代理ヲ委任シタルトキ訴訟代理人ハ其代理ノ繼續中執達吏ニ強制執行ノ委任ヲ爲ス可キ權アルモノトス然レトモ執達吏ハ取立テタル金銭其他ノ物品ヲ訴訟代理人ニ引渡サ、ルヲ通例トス之ヲ引渡スニ付テハ債權者明カニ其旨ヲ求ムルカ又ハ代理人ノ得タル書面委任ニ其旨ヲ明記シアルトキニ限ル但相手方ヨリ辨濟ス可キ訴訟費用ハ訴訟代理人其訴訟委任中ニ於テ之ヲ領收スル權アルヲ以テ執達吏ハ之ヲ引渡スコトヲ得ルモノトス(民事訴訟法第六十五條)

執行力アル正本ヲ受取リ強制執行ノ委任ヲ受クルトキハ債權者ノ特別ナル陳述ナキモ支拂及ヒ其他ノ給付ヲ債務者ヨリ領收シ其領收シタルモノニ對シ受取證ヲ出シ及ヒ債務者完シ義務ヲ履行シタルトキ債務名義執行ノ基本トナル可キ證書ノ執行力アル正本ヲ引渡ス可キ委任ヲ包含スルモノトス故ニ執達吏ハ債務者及ヒ第三者ニ對シ執行力アル正本ヲ所持スルコトヲ必要トシ且強制執行ヲ實施シ及ヒ其實施ノ爲メ必要ナル總テノ行為ヲ爲スニ十分ナル證據ヲ備フルコトヲ必要トス執達吏強制執行ヲ實施スルニ當リ債務者及ヒ第三者ノ求アルトキハ右諸件ヲ具備スルコトヲ示シテ其資格ヲ證ス可シ若シ債權者強制執行ニ立會フコトヲ求ムルトキハ執達吏ハ其債權者ノ立會アルニ非サレハ強制執行ヲ施行スルコトヲ得ス

第四十四條 強制執行ハ債務名義ノ執行力アル正本ニ基テノミ之ヲ爲スモノトス

此正本ハ必ス「前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ヲ施行スル爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス」トノ式ヲ以テ執行文ヲ作り且署名捺印アルヲ要ス(民事訴訟法第五百十七條)

執行力アル正本ハ裁判所書記之ヲ付與スルヲ通例トス(民事

訴訟法第五百十六條) 公證人ノ作リタル證書ニ付テハ公證人付與スルコトヲ得(民事訴訟法第五百六十二條)

執達吏ハ何レノ場合ニ於テモ注意ヲ爲シ適法ノ執行文ヲ記載シアルヤ否ヤヲ確カムルコトヲ要ス

執行文ニ於テ其制限ヲ命シ殊ニ強制執行ヲ受ク可キ物又ハ取立ツ可キ債權額ニ付キ制限ヲ命シタルハ執達吏ハ其制限ニ從テ執行ヲ爲ス可シ

第四十五條 執達吏ハ委任ヲ爲シタル債權者ノ氏名カ執行文中ニ表示セラレ且執行ヲ受ク可キ債務者ノ氏名カ債務名義若クハ執行文中ニ表示セラレアルトキニ限り強制執行ヲ始ムルコトヲ得若シ然ラサルハ執達吏ハ執行ニ着手スルコトヲ得ス委任者ニ於テ承繼ニ因リ指名シアル債權者ノ位置ヲ自ラ占ム可キコト又ハ第三者ヲシテ指名シアル債務者ノ位置ニ當ラシム可キコトヲ主張スルトキハ執達吏ハ更ニ執行文ヲ求メシムル爲メ委任者ヲ受訴裁判所ニ移ス可シ(民事訴訟法第五百十

九條第五百二十條第五百二十一條)

債務者死去ノ際既ニ之ニ對シテ開始シタル強制執行ハ其遺産ニ對シ之ヲ繼續スルモノトス

第四十六條 督促手續ニ依リ發シタル執行命令(民事訴訟法第三百九十三條)并ニ假差押及ヒ假處分ノ命令(民事訴訟法第七百四十三條、第七百五十六條)ノ正本ハ執行文ヲ要セス執行ヲ爲スコトヲ得

執行命令又ハ假差押及ヒ假處分ノ命令ニ於テ指名セサル者ノ爲メ若クハ指名セサル者ニ對シテハ執達吏ハ更ニ其者ヲ指名シタル執行文アルトキニ限り債務名義ヲ執行スルコトヲ得(民事訴訟法第五百六十一條、第七百四十九條)

第四十七條 外國裁判所ノ判決ニ付テハ執達吏ハ本邦ノ裁判所ノ執行判決及ヒ裁判所書記ヨリ付與シタル執行文ニ依ルトキニ限り執行ヲ爲スコトヲ得(民事訴訟法第五百十四條、第五百十六條)

第四十八條 執行裁判所ハ執行ヲ爲ス可キ地又ハ其手續ニ着手シタル地ノ管轄區裁判所ナリトス此裁判所ハ執達吏カ強制執行ヲ實施スルニ付テノ行爲ニ對スル申立及ヒ異議ヲ裁判ス(民事訴訟法第五百四十四條)

第四十九條 執達吏ハ總テノ場合ニ於テ執行力アル正本ハ條件到來以前ニ付與セラレタルモ其條件ノ到來シタル後ニ非サレハ強制執行ヲ實施ス可ラサルカ如キ條件付ノモノヲ精密ニ調査シテ自ラ之ヲ確カムルノ義務アルモノトス故ニ執達吏ハ執行力アル正本ヲ得ルトモ直ニ強制執行ニ着手シ能ハサルコトアル可シ

左ニ掲クル諸件ハ殊ニ注意ヲ要ス

- 第一 債務名義ニ因リ日時ノ到來スルニ非サレハ請求ノ生ゼサル場合ニ在テハ執達吏ハ其日時ノ滿了後強制執行ヲ始ムルコトヲ得可シ(民事訴訟法第五百二十九條第一項)
- 第二 債務名義ニ於テ其執行ハ債權者ヨリ債務者ニ保證ヲ立

テタル後ニ之ヲ爲ス可キ場合ニ在テハ執達吏ハ債務名義ニ開示シタル保證額ヲ供託シタル公正ノ證明書ヲ得タル後強制執行ヲ始ムルコトヲ得可シ(民事訴訟法第五百二十九條第二項)

第三 豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ強制執行ヲ爲ス可キトキハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後強制執行ヲ始ムルコトヲ得可シ(民事訴訟法第五百三十條及ヒ本則第八十條)

債權者自ラ右官廳ニ通知ヲ爲シタルトキハ執達吏ハ其證書ヲ債權者ヨリ差出サシム可シ

第四 執達吏ハ總テ強制執行ヲ始ムル前左ノ證書ヲ債務者ニ送達シタルヤ否ヤヲ調査ス可シ

(イ) 強制執行ノ基本トナル可キ債務名義(判決、公正證書等)

(ロ) 判決ノ旨趣ニ依リ事實ノ到來スルニ非サレハ執行ヲ爲

スコトヲ得サル場合又ハ債權者若クハ債務者カ承繼（相續ヲ包含ス）ヲ爲シタル場合ニ於テハ執行文又證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ其證書ノ謄本（民事訴訟法第五百二十八條）

然レトモ債權者カ保證ヲ立ツルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得サル場合（第二號）ニ於テハ執行文ノ送達ヲ要セス（ハ）第二號ノ場合ニ於テハ保證ヲ立テタル公正ノ證明書ノ謄本

右證書（イ、ロ）ヲ未タ送達セサル場合ニ於テハ執達吏ハ其送達ヲ爲シタルト同時ニ強制執行ヲ始ム可シ

第五 破産手續續行中ニハ破産債務者ノ爲メ破産者ノ財産ニ付キ差押又ハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五十條 執達吏強制執行ヲ始メ得ルニ至ルトキハ速ニ其目的ヲ達ス可キ方法ニ從ヒ直チニ強制執行ヲ始ムルコトヲ要ス然レトモ其強制執行ヲ爲スカ爲メ債務者ニ損害ヲ被ムラシム可

カラス

○行ノ際債務者ニ出會ヒタルトキハ執達吏ハ其執行ニ着手スルニ先チ債務者ニ任意ノ辨償ヲ催告ス可シ若シ債務者ニ出會ハスシテ親族ニ出會ヒタルトキハ其親族ニ之ヲ催告ス可シ右ノ催告ニ因リ爲シタル任意ノ辨償又ハ其一分ノ辨償ハ執達吏之ヲ受取り且之ヲ債權者ニ引渡ス可シ

債權者及ヒ債務者ノ願望ニ任スルトキハ之カ爲メ無要ノ費用及ヒ混雜ヲ生スルコトナク且執行ノ目的ヲ害セス其願望ヲ達シ得ヘキ場合ニ限り相當ノ斟酌ヲ爲ス可シ

強制執行ヲ爲スニ當リ必要ナル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用ユ可シ此場合ニ於ケル手續ニ付テハ民事訴訟法第五百三十六條、第五百三十七條ノ規定ニ從フ可シ

債務者ノ閉鎖シタル戸扉及ヒ篋匣ヲ開カシムルニ必要ナル場合（民事訴訟法第五百三十六條第一項）ニ於テハ執達吏ハ之ヲ開クニ付キ損害ヲ避クル爲メ相當ナル職工ヲ用ユ可シ

證人ヲシテ執行ニ立會ハシムルトキ（民事訴訟法第五百三十七條）ハ成ル可ク強制執行ヲ爲ス可キ地ニ住居シテ其事件ニ無關係ナル者ヲ選ム可シ

第五十一條 執達吏ハ強制執行ノ實施ト同時ニ強制執行ノ費用ヲ債務者ノ有体動産ヨリ取立ツルモノトス此費用ニハ殊ニ執達吏ノ手数料、立替金、執行力アル正本付與ノ費用及ヒ強制執行ニ付キ債權者ノ受取ル可キ裁判外ノ必要ナル費用ヲ包含ス（民事訴訟法第五百五十四條民事訴訟費用規則第十六條）但金錢ノ債權ニ對スル強制執行ト其他ノ強制執行トニ依リ區別ナキモノトス

第五十二條 執達吏ハ總テノ執行行爲ニ付キ調書ヲ作ル可キモノトス其調書ハ民事訴訟法第五百四十條及ヒ第五百四十一條ノ規定ニ從フ可シ此調書ニハ執行ニ關スル總テノ命令ヲ記載シ又債權者ヲ満足セシムルコト能ハサルトキハ總テ適法ナル方法ニ依リ債權者ヲ満足セシム可キコトヲ試ミタルモ其目的

ヲ達セサリシコトヲ調書ニ於テ明確ニスルコトヲ要ス  
調書ハ執行行爲ト同時ニ之ヲ作り且成ル可ク其行爲ヲ爲シタル地ニ於テ之ヲ作ル可シ

第五十三條 執達吏ハ債務者又ハ第三者ノ異議アルモ執行ヲ停止ス可カラス債權者ノ申出ナキモ例外ヲ以テ其執行ヲ停止ス可キ場合又ハ既ニ爲シタル執行處分ヲ取消ス可ク若クハ其處分ヲ一時保持ス可キ場合ニ付テハ民事訴訟法第五百五十條及ヒ第五百五十一條ノ規定ニ從フ可シ

強制執行ヲ實施セサリシトキト雖モ其顛末ニ關スル調書ヲ作り此調書ニハ執行停止ノ基本ト爲リタル書類ヲ明細ニ記載シ且其事項ニ關スル命令ヲ記入ス可シ  
執行ノ停止又ハ制限ハ債權者ニ之ヲ通知ス可シ  
強制執行ノ停止又ハ制限ニ關シテハ右ノ外尙ホ左ノ諸件ヲ遵守ス可シ

第一 民事訴訟法第五百五十條第一號ノ規定ニ從ヒタル裁判

ニ依リ債務者ニ於テ強制執行ノ停止又ハ制限ヲ求ムルトキハ執達吏ハ其裁判ノ執行ヲ爲ス可キモノナルヤ否ヤニ付キ調査ス可シ

執行ヲ爲スコトヲ得ヘキ裁判トハ假執行ノ宣言ヲ付シタル裁判又ハ確定シタル裁判ヲ云フ

上告審タル控訴院及ヒ大審院ノ爲シタル判決ハ證明書（民事訴訟法第四百九十九條）ナキモ確定力ヲ有ス然レトモ右判決カ闕席判決タル場合ニ於テハ其確定力ノ證明書アルヲ要ス

抗告審ニ於テ爲シタル裁判又ハ假執行ノ判決若クハ其假執行ヲ取消シタル裁判ハ何レノ場合ニ於テモ強制執行ノ停止ヲ爲スノ理由トナルモノトス

第二 民事訴訟法第五百五十條第二號ノ場合ニ於テ或ル時間ヲ限リ一時ノ停止ヲ命シタルトキハ右時間ノ滿了後強制執行ヲ繼續ス可シ

第三 民事訴訟法第五百五十條第四號ニ掲ケタル義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル場合ニ於テ更ニ債權者ヨリ求アルトキハ再ヒ強制執行ヲ繼續ス可キモノトス

第五十四條 債權者ノ申出アルトキハ執達吏ハ其申出ニ從ヒ何時タリトモ其強制執行ヲ全ク停止シ又ハ之ヲ制限ス可キモノトス此申出ニ付テハ債權者ノ書面上ノ陳述又ハ執達吏ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書上ノ陳述ハ之ヲ記録ニ添附ス可シ

執達吏ハ一時停止ノ場合殊ニ延期ノ場合ニ於テハ債權者ヨリ一定ノ期日ヲ指定セサリシトキハ執行再始ニ付キ債權者ノ再度ノ申出ヲ待ツ可キモノトス一定ノ期日ヲ指定シタル場合ニ於テハ右期日到來後直チニ其強制執行ヲ繼續ス可キモノトス

第五十五條 執達吏ハ別段ノ規定ナキトキト雖モ債權者及ヒ債務者ノ利益ヲ保存スルニ必要ナリト認ムルトキハ強制執行ノ完結ヲ債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

右通知ヲ爲シタルコトノ證明ハ法律上之ニ關スル別段ノ規定  
ナキトキニ限り記録中ニ爲シタル執達吏ノ簡單ナル記載ヲ以  
テ足レリトス

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

第五十六條 有體動産ニ對スル金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ハ  
民事訴訟法第五百六十四條乃至第五百九十三條ノ規定ニ從ヒ  
差押及ヒ換價ニ依テ執達吏之ヲ爲スモノトス

第五十七條 強制執行ヲ爲ス執達吏ハ其債務者ノ住居ニ於テ本  
人ニ出會ヒタルトキ任意辨償ヲ爲シテ債權者ヲ満足セシム可  
キ催告ヲ爲スモ其効ヲ見サル場合ニ於テハ執行ノ目的上必要  
トスル限度ニ於テ債務者ノ住居、倉庫ノ戸扉及ヒ筐匣ヲ開キ  
且債務者ノ財産ヲ點檢ス可シ  
債權者ノ利益ヲ損傷スル恐ナキトキハ債務者ノ陳述ヲ斟酌シ  
債務者ニ於テ最モ放チ易キ財産中殊ニ金錢、有價證券及ヒ金  
銀物等ノ如キ容易ニ運搬シ得ハキ物ニ付キ差押ヲ爲ス可シ

強制執行ニ際シ如何ナル有價證券ハ有體動産ト同一ノ方法ヲ  
以テ之ヲ取扱フ可キヤハ本則第七十五條ノ規定ニ從フ可シ若  
シ現在スル有價證券ヲ有體動産中ニ加フ可キコトニ付キ疑ア  
ルトキハ執達吏ハ債權者ノ債權ヲ償フニ十分ナル他ノ物ナキ  
場合ニ限り假ニ其有價證券ヲ差押フ可キモノトス  
適當ノ差押ヲ避クル爲メ執達吏ハ差押ヲ爲ス可キ物ヲ調書ニ  
記載スルニ當リ其各物ニ付キ概算ノ價額ヲ記入シ且差押物ノ  
賣得金ヲ以テ債權者ニ辨償シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足  
ル可キ額ヲ標準トシテ差押ノ範圍ヲ定ムルコトヲ要ス

第五十八條 執達吏ハ債務者ノ財産中如何ナル物ハ民事訴訟法  
第五百七十條ノ規定ニ依リ差押フ可カラサルヤ否ヤニ關シ之  
ヲ判別ス可シ債權者ヲ満足セシムルニ足ラサルノ恐ナキトキ  
ハ其差押ヲ爲スニ付キ疑アル物ヲ差押フ可カラス  
差押フ可カサル物ノミナルカ又ハ全ク價值ナキ物ノミナルカ  
又ハ其物ヲ賣却スルモ強制執行ノ費用ヲ價フテ剩餘ヲ得ル見

込ナキ(民事訴訟法第五百六十四條第三項)カ爲メ差押ヲ爲サ  
ル場合ニ於テハ執達吏ハ其物ノ種類、性質及ヒ價值ノ概況  
ヲ調書ニ記シテ之ヲ差押ヘサルハ適當ナルコトヲ證シ置ク可  
シ高價ノ物又ハ當然差押フ可キ物及ヒ差押ヲ爲スニ疑アル物  
ニ付テハ常ニ其各物ヲ詳細ニ記載シ其他ノ物ニ關シテハ該物  
ノ種類ヲ記シ法律上差押フ可カラサル物ナル旨ヲ證スルヲ以  
テ足ル  
執達吏ハ如何ナル場合ニ在テモ債務者ニ於テ辨濟資力ノナキ  
コト又ハ差押フ可カラサル財産ノミナルコト又ハ差押フ可キ  
財産ノ價值ハ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ラサルコト等ノ簡約  
ナル記載ヲ以テ足レリトスルコトヲ得ス  
第五十九條 差押ノ際債務者ノ占有スル財産ニ付キ債務者ヨリ  
第三者ノ爲メニ請求ヲ爲シ又ハ第三者ヨリ請求ヲ爲スコトア  
ルモ執達吏ハ之カ爲ニ其差押ヲ止ムルコトヲ得ス然レトモ其  
要求ヲ其財産ノ或ル一分ノミニ付キ爲シタルトキハ執達吏ハ

之ヲ差押ヘサルモ債權者ノ利益ニ影響ヲ及ホサ、ルヤ否ヤヲ  
斟酌ス可シ若シ其請求ヲ爲シタル物ヲ除キ他ノ物ヲ以テ債權  
者ヲ満足セシメ且強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキニ限  
リ其請求ニ係ル物ノ差押ヲ止ムルコトヲ得執達吏ハ如何ナル  
場合ト雖モ債權者ノ諭告アルトキハ其諭告ヲ遵守ス可キモノ  
トス  
債權者ヲ満足セシメ及ヒ強制執行ノ費用ヲ完償スルカ爲メ如  
何ナル部分ニマテ差押ヲ擴張ス可キヤノ判斷ヲ爲スニ當リ執  
達吏ハ成ル可ク申出テタル請求ヲシテ成立シムルコトニ注意  
ス可シ  
請求ノ申出アリタル物ヲ差押タルトキハ執達吏ハ其請求ヲ裁  
判所ニ依リ主張ス可キコトヲ第三者ニ諭示シ(民事訴訟法第  
五百四十九條、第五百六十五條及ヒ第五百四十七條)且必要ナ  
リト認ムル場合ニ於テハ請求ノ申出テ債權者ニ通知ス可シ  
第六十條(民事訴訟法第五百六十六條ノ規定ニ從ヒ債務者ノ占



有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス  
トキニ限り其効アルモノトス  
執達吏ハ右ノ目的ヲ達スル爲メ債務者ヨリ其物ヲ取上ケ且本  
則第六十五條ニ於ケル例外ノ規定ニ從フ可キ場合ノ外ハ債務  
者ノ占有ヲモ引離ツ可シ

執達吏ハ差押ヘタル物ノ貯藏及ヒ保管ヲ爲シ又ハ必要ナル場  
合ニ於テハ換價スルマテ其物ヲ保全スルノ義務アリ  
執達吏ハ差押物ノ貯藏殊ニ其物ノ運搬ニ關シ又ハ管理人若ク  
ハ保存人ノ任命ニ關シ無益ナル費用ヲ來サ、ルコト及右保存  
人等ヲシテ規定ニ背戾セシメサルコトノ責ニ任スルモノトス  
差押物ノ貯藏ニ關スル處分ハ差押調書中ニ之ヲ記載ス可シ

第六十一條 差押金錢ハ遅クトモ差押ヲ爲シタル日ヨリ二日內  
ニ之ヲ債權者ニ引渡シ又ハ供託ヲ爲サ、ルヲ得サル場合ニ於  
テハ之ヲ供託ス可シ(本則第九十六條)其引渡若クハ供託ヲ爲  
スマテハ本則第十條ノ規定ニ從ヒ之ヲ保存ス可シ

第六十二條 執達吏ハ差押物貯藏所(本則第十條)ニ於テ貯藏保  
存スル爲メ費用ヲ要スル場合ニ限り其實費トシテ相當ナル金  
額ノ豫納ヲ爲サシムルコトヲ得

差押物貯藏所ニ保存シタル物ニ付テハ事件ノ番號ヲ附シ他ノ  
執行ニ屬スル物ト區別ヲ爲シテ混雜ヲ生セサルコトニ注意ス  
可シ  
貯藏スルニ適當ナル差押物ヲ執達吏ノ住所地ニ於テ差押ヘタ  
ルトキハ差押物貯藏所ニ之ヲ保存スルヲ通例トス  
其住所地外ニ於テ差押ヘタル物ニ付テハ執達吏ハ其事情殊ニ  
將來競賣ヲ爲ス可キ土地ノ關係ニ依リ之ヲ差押物貯藏所ニ運  
搬スルヲ適當トスルヤ又ハ本則第六十三條ノ規定ニ從ヒ之ヲ  
保存ス可キヤヲ定ム可シ

第六十三條 差押物貯藏所ヲ有セサルトキ又ハ之ヲ有スルモ差  
押物ノ性質ニ依リ又ハ其他ノ理由殊ニ執達吏ノ住所地外ニ於  
テ差押ヘタル物ニ付キ之カ爲メ許多ノ費用ヲ増加スルニ依リ

在來ノ貯藏所ヲ使用ス可カラサルカ若クハ之ヲ使用スルノ不利益ナルトキニ於テハ其差押物ヲ爲シタル土地ニ住居シテ信用アリ且辨償能力アル者ニ託シテ保存ヲ爲サシム可シ  
委託ヲ受ケタル者ハ其求ニ依リ委託物ノ目錄ヲ領收ス其保存ニ關スル報酬ハ成ル可ク前以テ之ヲ確定ス可シ  
執達吏ハ保存ノ爲メ委託シタル物ヲ確收シタル旨ノ證書ヲ保存人ヨリ受取リ又保存人ノ求ニ依リ該證書ノ謄本ヲ交付ス可シ

必要ナル場合ニ於テハ保存人任命ニ關スル調書ヲ作り之ヲ差押調書ニ添付スルモノトス  
此調書ニハ左ノ諸件ヲ掲ケ且保存人ニ署名捺印セシム可シ

- 第一 保存人ト爲シタル約款
- 第二 物ノ交付ニ關スル保存人ノ認諾
- 第三 保存ノ爲メ交付シタル物ノ記載
- 第六十四條 高價物(金銀物ヲ包含ス)及ヒ有價證券ハ他人ノ金

錢ヲ保存スルトキノ如ク(本則第十一條)之ヲ密封シ其封皮上ニ物ノ名稱及ヒ事件ノ番號ヲ記載ス可シ

第六十五條 民事訴訟法第五百六十六條第二項ノ規定ニ從ヒ執達吏ノ差押物ヲ債務者ノ保管ニ任スコトヲ得ルハ左ノ場合ニ限ル

- (イ) 債權者ノ承諾アルトキ
  - (ロ) 運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキ
- 右ノ場合ニ於テモ執達吏ハ封印又ハ其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニス可シ

此場合ニ於テハ尙ホ左ノ事項ヲ遵守ス可シ  
第一 債權者ノ承諾ニ付テハ債權者ノ書面又ハ口頭陳述ノ書取又ハ執達吏ノ執行記録ノ記載ヲ以テ之ヲ明確ニス可シ

第二 封印又ハ其他ノ方法ヲ爲スニハ各差押物毎ニ其差押ヲ明カニス可シ此目的ヲ達スルニハ各差押物毎ニ封印ス

可キカ又ハ其物ノ存在スル筐匣、室、倉庫等ノミニ封印ス可キカニ付テハ執達吏ハ其物ノ性質其他ノ事情ニ從ヒ之ヲ定ム可シ筐匣、室、倉庫等ノミニ封印スル場合ニ於テハ其封印又ハ筐匣等ヲ損傷スルニ非サレハ其差押物ヲ取出シ得サルコトニ注意ス可シ

差押物ノ性質ニ依リ封印ヲ爲シ得可カラサルカ又ハ差押物ノ標目ヲ附シ得サル場合ニ於テハ執達吏ノ署名シタル告示ヲ差押物ニ接近セシ各人ノ見易キ場所ニ貼附スルカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ以テ各人ニ之ヲ知ラシム可キモノトス此場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ其管理人ヲ任命ス可シ

第三 執達吏ハ差押物ノ占有己ニ歸シタル旨及ヒ債務者其物ヲ處分シ若クハ封印ヲ破壊シ爲メニ法律上ノ罰ヲ受クルコトナキ様注意ス可キ旨ヲ債務者ニ諭示ス可シ  
第四 差押調書ニハ差押物ヲ債務者ノ保管ニ任セタル理由

封印ノ數及ヒ其差押ノ告示竝ニ保全ノ爲メ爲シタル處分ヲ記載シ且第三號ノ規定ニ從ヒ債務者ニ諭示ヲ爲シタル旨ヲ記載ス可シ

第六十六條 第三者ノ占有中ニ在リテ債務者ニ屬スル物ノ差押ヲ債權者ヨリ求ムルトキハ執達吏ハ先ツ第三者ニ對シテ其物ヲ直チニ引渡シ得ルヤ否ヤヲ訊問ス可シ  
第三者之ヲ承諾スルトキハ債務者ノ占有スル者ヲ差押フルト同一ノ方法ヲ以テ差押ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第五百六十七條）若シ第三者カ物ノ提出ヲ拒ミ又ハ執達吏ノ之ヲ占有スルニ付キ異義ヲ陳ブルトキハ執達吏ハ其事實ノ調書ヲ作ルニ止マリ爾后ノ處分ハ債權者本人ニ任ス可シ  
債權者ノ占有中ニ在リテ債務者ニ屬スル物ノ差押ヲ債權者ヨリ求ムルトキハ執達吏ハ通常ノ手續ニ依リ直チニ差押ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第五百六十七條）

第六十七條 債權者又ハ第三者ノ占有中ニ在ル物ヲ差押ヘタル

トキハ執達吏ハ民事訴訟法第五百四十一條ノ規定ニ從ヒ差押  
ヲ施行シタル旨ヲ債務者ニ通知ス可シ

第六十八條 差押ニ付キ作ル可キ調書（民事訴訟法第五百四十  
條）ニハ尙ホ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 各物ノ概算價額ヲ附シタル差押物ノ詳細ナル記載又  
必要ナル場合ニ於テハ員數、尺度、重量等ノ記載

第二 執達吏差押物ヲ占有シタルコトノ記載

第三 保存ノ際爲シタル處分ノ記載

第四 債務者ニ差押ヲ通知シタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ  
以テ通知ヲ爲シタルヤ（民事訴訟法第五百四十一條）ノ記  
載

第五 競賣期日ノ日時場所若シ此期日ヲ直チニ定ムルコト  
ヲ得サルトキハ其理由ノ記載

右記載ノ外調書ニハ差押ノ各種ノ方法又ハ差押ノ際特別ノ事  
件ニ付キ別ニ規定シタル事項ヲ記載ス（本則第五十三條、第五

十八條、第六十五條第四號）又調書ヲ作りタル後其謄本ヲ債務  
者ニ送達シタルトキハ調書ノ附録トシテ其旨ヲ附記ス可シ

第六十九條 差押物ノ換價ハ更ニ債務者ノ委任ヲ待タズ執達吏  
直チニ民事訴訟法第五百七十二條乃至第五百八十四條ノ規定

ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ差押物中高價ノ物アルトキハ執達吏ハ先  
ツ適當ナル鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシム可シ執達吏ノ調書ニ

右評價ヲ記載セサルトキハ鑑定人ヲシテ其評價書ヲ作ラシム  
可シ

執達吏ハ差押物ヲ競賣ニ付スルト他ノ方法ヲ以テ適宜ニ賣却  
スルトヲ問ハス自ラ之ヲ買取リ又ハ家族若クハ他人ニ依テ之

ヲ買取リ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ買取ラシムルコトヲ許サス又  
執達吏ハ競賣補助ノ爲メ立會ハシメタル者ヲシテ競買ニ加ラ

シムルトヲ許ス可カラズ

第七十條 執達吏差押物ヲ賣却スルトキハ民事訴訟法第五百七  
十二條乃至第五百七十八條ノ規定ニ從ヒ競賣ノ方法ニ依ル可

シ但特別ノ場合ニ於テ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價スルトキハ本則第七十四條ノ規定ニ從フ可シ  
競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス可シ但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコト合意シタルキ又ハ執行裁判所ヨリ競賣ノ場所ヲ指定シタルキハ其場所ニ於テ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第五百七十六條第一項及ヒ第五百八十五條）債權者ノ利益ノ爲メ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ爲スニ必要トスル場合就中差押ヲ爲シタル場所ニテハ相當ノ價額ヲ得ル能ハサル場合又ハ差押ヘタル物ヲ保管スル爲メ他ノ場所ニ貯藏シタル場合ニ於テハ執達吏ハ債權者ニ其旨ヲ通知シ若シ債權者ト債務者ノ間ニ於テ他ノ場所ニテ競賣ヲ爲スコトノ合意整ハサルトキハ執行裁判所ニ競賣場所ノ指定ヲ求ム可シ  
第七十一條 競賣期日ハ執達吏差押ノ際直チニ之ヲ定ムルヲ通例トス若シ債權者及ヒ債務者後日ニ期日ヲ定ムコトヲ承諾シタル場合又ハ直チニ期日ヲ定ムル能ハサル特別ノ場合若クハ

直チニ定ムルノ便益ナラサル場合例ヘハ土地ヨリ離レサル果實又ハ蠶ヲ差押ヘタルモ其果實ノ成熟時期又ハ蠶ノ繭ト爲ル時（民事訴訟法第五百六十八條及第五百八十四條）ヲ確知シ能ハサル場合又ハ執行裁判所ノ意見ヲ以テ他ノ換價方法ヲ命シ若クハ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ命セラル可キ場合ニ於テハ一時期日ノ指定ヲ猶豫ス可シ  
差押ノ際直チニ期日ヲ定メサル場合ニ於テハ之ヲ定メタルトキ其期日ヲ債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ  
差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ノ時間ハ民事訴訟法第五百七十五條ノ規定ニ從ヒ賣却ス可キ差押物ノ性質、價額ニ適當ノ方法ヲ以テ競賣ノ日時及ヒ場所ヲ公告シ得可キ様之ヲ定ム可シ（民事訴訟法第五百七十六條第二項）  
右時間ハ通例十四日ト定ム差押後一ヶ月以上競賣ヲ延ハスコトハ顯著ナル特別ノ理由アルニ非サレバ之ヲ許サス  
競賣ハ前以テ公告セサル可カラズ公告ハ其地ニ相應ノ方法（

揭示板ニ貼付又ハ前新聞紙ニテ廣告スルノ類)ヲ以テ爲ス可シ  
公告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 競賣ス可キ物ノ略記(例ヘハ家具、寢具、衣類)就中高價物ハ特別ニ之ヲ掲ク可シ

第二 競賣ノ日時及ヒ場所

公告ヲ爲シタル方法日時ハ執達吏ノ調書ニ附記シ又ハ其證據トナル可キモノヲ添附シ之ヲ明確ニス可シ

既ニ公告シタル日時ヲ改メントスルトキハ更ニ公告ヲ爲ス可シ殊ニ貼付シアル公告ハ直チニ之ヲ取除ク可シ

第七十二條 競賣期日前ニ於テ競賣ス可キ物ヲ差押調書ト比照シ且賣却ノ準備ヲ爲ス可シ

差押物ニ不足アリタルハ其旨ヲ差押調書ニ記入シ若シ其物ヲ保存人ニ委託シアリタルトキハ此物ノ返還ノ際作ル可キ調書ニ其旨ヲ記入ス可シ各差押物ノ不足又

ハ毀損ニ付テノ調書又ハ調書ノ附録ハ其謄本ヲ以テ債務者ニ通知シ又其保存人ニ差押物ヲ正當ニ返還シタルノ證ヲ求ムルトキハ執達吏ハ之ヲ交付ス可シ

期日ニハ先ツ賣却條件ヲ告知ス可シ民事訴訟法第五百七十七條ニ規定シタル條件ト異ナル處分ハ執行裁判所ノ命シタルトキ又ハ債權者及ヒ債務者ノ合意ニ依ルハ非サレハ之ヲ許サズ賣却條件ヲ告知シタル後競買ヲ催告ス可シ

競賣ニ附シタル後ハ競賣調書ニ記入ス可シ賣却物ハ一々之ヲ呼上ケ實物ヲ示ス可シ高價物ハ其評價ヲ告ケ金銀物ハ其實價ヲ告ケテ競買價額ハ其評價若クハ實價ヨリ低價ノ競買ヲ許サ、ル旨ヲ諭示ス可シ

競落ノ節ハ直チニ競賣調書ニ每品其最高競買價額及ヒ競落人ノ氏名ヲ綿密ニ附記シ又其代價ヲ支拂ヒタルハ直チニ其旨ヲ附記ス可シ  
競賣ニ付スル物ノ不相當ニ過分ナルコトヲ避ケン爲メ執達吏

ハ時々其賣得金ヲ以テ計算ヲ立テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ競賣ヲ止ム可シ(民事訴訟法第五百七十八條)

競賣ニ付シタル金銀物ニシテ其金銀物ノ實價マテニ競賣ヲ爲ス者ナキカ爲メ競落ヲ爲シ得サルトキハ其競買價中ノ最高價額ヲ競賣調書ニ附記ス可シ

第七十三條 競賣ノ際作ル可キ調書(民事訴訟法第五百四十條及ヒ本則第十三條、第五十二條)ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 競賣ノ賣得金ヲ以テ辨濟ス可キ債權及ヒ強制執行ノ費用ノ合計額

第二 若シ賣却條件カ民事訴訟法第五百七十七條ノ規定ニ異ナル場合ニ於テハ其賣却條件ヲ掲ク可シ(本則第七十二條)

第三 競賣物ヲ列記シ且其各物ニ付キ競落人及ヒ其最高競買價額ヲ記載シ并ニ代金支拂濟ノ旨ヲモ附記ス可シ

調書ニ署名捺印ヲ要スル者(民事訴訟法第五百四十條、第三號第四號)ハ競買人中唯々各最高價申出人ニ限ル若シ此等ノ者期日ノ終結前ニ退散シタルトキハ其署名捺印セシムルコト能ハサル理由ヲ調書ニ附記ス可シ

第七十四條 差押物ヲ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價スル場合ハ左ノ如シ

第一 執行裁判所ヨリ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ヲ爲ス可キコトヲ命シタルトキ(民事訴訟法第五百八十五條)

第二 有價證券ニシテ取引所相場又ハ市相場アルモノタルトキ(民事訴訟法第五百八十一條以下)

第三 金銀物ニシテ既ニ競賣ニ付シタルモ其最高競買額カ其實價ニ至ラサルトキ(民事訴訟法第五百八十條)

右賣却ハ直接ニ債權者ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得  
競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ヲ爲ストキハ執達吏ハ成ル可ク高價ニ賣却ス可キコトニ注意ス可シ就中金銀物ヲ其實價ヨリ

低價ニ賣却シ又ハ有價證券ヲ其賣却日ノ相場ヨリ低價ニ賣却ス可カラス

債權者ト債務者トノ間ニ合意アラサルトキハ必ラス代金ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ買主ニ賣却物ヲ渡ス可カラス  
執行裁判所ヨリ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ヲ爲ス可キコトヲ命シタルトキハ此命令ヲ遵守ス可シ  
此賣却ノ際作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價シタル理由

第二 賣却物ヲ綿密ニ記載シ且金銀物ノ評價額又ハ有價證券ノ賣却日ノ相場又ハ執行裁判所ノ定メタル價額

第三 賣買ノ行爲及ヒ其履行方法

第七十五條 金錢ノ債權ニ付キ強制執行ヲ爲ス場合ニ於テハ有價證券ハ有体動産ト同一ノ方法ヲ以テ執達吏之ヲ差押ヘ競賣ニ付スルカ又ハ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ス可シ  
此場合ニ於テハ無記名及ヒ記名ノ有價證券ヲ區別ス可シ

無記名證券ニ付テハ各所有者ハ第三者ニ對シ此證券并ニ之ニ基ク權利ヲ自由ニ處分スルコトヲ得ルモノトス

記名證券ニ付テハ唯々其記名者又ハ讓渡ノ後ニ在テハ讓渡證書ニ記名アル者ニ限り此證券ヲ處分スルコトヲ得ルモノトス  
有價證券賣却ノ際執達吏ハ最注意シテ執務ス可シ殊ニ其賣却方法ニ付キ特ニ執行裁判所ノ命ナキトキハ之ヲ競賣ニ付スルヤ又ハ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價スルヤハ其有價證券カ取引所相場又ハ市相場アルモノナルト否トニ關係スルモノトス  
此場合ニ於テ執達吏ハ先ツ其日ノ相場ヲ確實ニ探知シ就中新聞紙ノ相場表ニ依リ又ハ此等ノ證券ヲ取扱フ官廳若クハ其營業人ニ就キ探知ス可シ

有價證券ニシテ取引所相場又ハ市相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ賣却ス可シ  
取引所相場又ハ市相場アルモノハ前條ノ規定ニ從ヒ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ス可シ



此場合ニ於テハ其營業人ノ媒介ヲ求ムルヤ又自ラ其周旋ヲ爲スヤハ執達吏ノ見込ニ任ス其營業人ノ媒介ヲ求ムル場合ニ於テハ賣却ニ關スル調書ニ換ヘ其計算書ヲ執行記録ニ添付ス可シ  
何レノ場合ニ於テモ證券ハ代金支拂濟ニ非サレハ之ヲ引渡ス可カラス  
賣却ヲ十分ニ施行完結スル爲メ執達吏ハ記名ノ有價證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ又無記名ノ證券ニシテ其流通ヲ止メタルトキハ直チニ其流通回復ヲ爲ス職務アルモノトス（民事訴訟法第五百八十二條、第五百八十三條、執達吏手数料規則第十二條）  
又執達吏ハ賣却前ニ氏名ノ書換又ハ流通ノ回復ニ付キ必要ノ陳述ヲ爲ス權利ヲ得ル爲メ債務名義ノ證及ヒ差押調書ヲ添ヘ執行裁判所ニ届出ツ可シ  
無記名證券ノ流通回復ニ付テモ亦賣却前ニ管轄官廳ニ届置キ又記名證券ノ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲スコトハ賣却後其證券ヲ

出シタル會社等ニ至リ之ヲ施行ス可シ

第七十六條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ヨリ生スル第三債務者ニ對スル債務者ノ債權ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ得ル場合ニ於テハ執達吏ハ本則第八十三條、第八十四條ノ規定ニ於ケル職務ヨリモ一層深ク注意ヲ加ヘ執務ス可キモノトス

債務者カ此債權ヲ以テ自己ノ義務ヲ履行セントスルキハ其裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ヲ執達吏ニ示ス可シ此債權ノ差押ヲ爲サントスルキハ普通債權ノ如ク執行裁判所ノ決定ヲ要セス有體動産ニ於ケルカ如ク執達吏其證券ヲ占有シテ差押ヲ爲ス可キ者トス（民事訴訟法第六百三條）

此債權ノ額及ヒ其時期ノ不明瞭ナルトキハ執達吏ハ其債權ノ差押ヲ爲スニ當リ債務者ヨリ之ヲ明示シタルトキニ非サレハ差押ヲ施行セサルヲ通例トス若シ此明示ナキモ他ニ差押フ可キ物ナキ場合若クハ其差押フ可キ物不十分ナル場合ニ限り此

債權ヲ差押フ可シ

此債權ヲ差押ヘタルトキハ他ノ差押ト同一ニ債權者及ヒ債務者ニ之ヲ通知ス可シ但債權者ニハ差押調書ノ謄本ニ認證ヲ附シテ之ヲ通知ス可キモノトス

占有シタル證券ハ本則第六十四條ニ規定シタル方法ニ依リ之ヲ保存ス可シ

右ノ場合ニ於ケル差押調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 差押ヘタル債權ノ明示即チ其品名、金額、期限及ヒ此

證券ニ關係アル債權者、債務者ノ氏名

第二 證券ヲ正當ニ占有シタルコト

右ノ外尙ホ執行上ノ處分ハ普通ノ債權ニ係ルモノ（本則第八十三條）ト同一ニ債權者ノ申立ニ依リ執行裁判所之ヲ施行ス差押ヘタル債權ヲ債權者ニ移付シ又ハ債權者ノ委任スル執達吏ニ引渡スコトヲ命スル旨ノ執行裁判所ノ決定ノ正本ヲ債權者ヨリ提出シタルトキハ執達吏ハ差押ヘタル債權ニ關係ノ證

書類ヲ債權者ニ引渡ス可シ

債權者ニ證書類ヲ引渡シタルトキハ執達吏ハ其受取證ヲ取り執行記録ニ添附ス可シ

債權ノ差押ヲ解キタルトキハ此債權ニ關係ノ證書類ヲ本則第八十二條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ返付ス可シ

第七十七條 土地ヨリ離レサル果實及ヒ蠶ノ差押賣却ハ有體動産ニ關スル本則ノ規定及ヒ民事訴訟法第五百六十八條及ヒ第五百八十四條ノ規定ヲ對照シテ其處分ヲ爲ス可シ

執達吏ハ果實及ヒ蠶ヲ差押ヘタルトキ且之ヲ占有シタルコトヲ適宜ノ方法ヲ以テ差押標示ヲ爲シテ之ニ明記シ且之ニ記名シテ差押ノ告示ヲ爲シ又ハ此他適宜ノ方法ニ依リ各人ニ差押ノ旨ヲ知ラシム可シ又己ムヲ得サル場合ニ於テ管理人ヲ要スルトキハ執達吏之ヲ任命ス可シ

執達吏ハ收穫時期ノ到來スルコトニ注意ス可シ又管理人ヲ任命シタルトキハ競賣期日ヲ定メテ之ヲ公告シ且果實ノ成熟ニ

過キ又ハ蠶繭ノ收穫時期ヲ過キ損害ヲ生セサル爲メ管理人ヲシテ適當ノ時期ニ於テ報告ヲ爲ス可キ義務ヲ負ハシム可シ此場合ニ於ケル差押調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 果實ニ付テハ地所ノ位地、面積ノ概略、果實ノ種類

第二 蠶ニ付テハ其所在ノ場所、數量ノ概略、繭ノ種類（春繭、夏繭ノ類）

第三 差押ヘタル果實又ハ蠶繭ニ付キ賣得金ノ見積リ額

第四 差押ヲ爲シタルコトヲ告知スル爲メ設ケタル方法若シ管理人ヲ任命シタルトキハ其理由

第五 收穫ノ時期

競賣ハ收穫ノ時期ニ至リタルトキニ限リ之ヲ許ス

競賣ヲ收穫前ニ施行ス可キヤ又ハ之ヲ收穫後ニ施行ス可キヤ全部一時ニ之ヲ競賣ニ付ス可キヤ又ハ一部ツ、競賣ニ付ス可キヤハ執達吏時宜ニ依リ之ヲ定ム可キモノトス

執達吏收穫後ニ競賣ヲ爲ストキハ收穫ノ爲メ信用ス可キ人ヲ

雇ヒ收穫物ヲ安全ニ運搬セシメ且競賣期日マテ之ヲ保存スルノ處分ヲ爲ス可シ又執達吏必要ト認ムルトキハ收穫物ノ數量ヲ保全スル爲メ收穫ノ際監督ヲ爲ス可シ

收穫ノ爲メ要スル費用ハ成ル可ク前以テ之ヲ定ム可シ

收穫前ニ競賣ヲ爲ストキハ其地所又ハ其場所ニ於テ之ヲ施行スルヲ通例トス

第七十八條 第一債權者ノ爲メ既ニ差押ヘタル物ニ付キ第二債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ハ更ニ之ヲ差押フルコトヲ得ス但假差押ニ係ル物ニ付テハ此限ニ在ラス

第二債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏（第一債權者ノ委任ヲ受ケタル執達吏）ニ差押調書ノ閱覽ヲ求メ其債務者ノ有體動産中ニ未タ差押ヘサル物アルヤ否ヤヲ照査シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘテ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ其差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ併セテ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押フ可キ物

アラサルトキハ照査調書ヲ作り右執達吏ニ之ヲ交付シ且ツ第二債權者ノ爲メ配當要求ヲ爲ス可シ但照査調書ニハ差押調書ト債務者ノ有體動産ト相對照シテ差押フ可キ物アラサル旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

前項ノ求アリタルトキハ第一債權者ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ別ニ委任ヲ要セスシテ第二債權者ノ委任ヲ受ケタルモノト看做シテ處分ス可シ(民事訴訟法第五百八十六條)

右ノ場合ニ於テ若シ第一債權者ノ爲メニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執達吏ハ第二債權者ヲ以テ差押債權者ト看做シ爾後ノ手續ヲ續行ス可シ(民事訴訟法第五百八十七條)

第七十九條 前條第三項ノ場合(民事訴訟法第五百八十六條第二項即チ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル場合)及ヒ民法ニ從ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル場合(民事訴訟法第五百八十九條及ヒ第五百九十條)ニ於テハ執達吏ハ配當要求ノアリタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債

務者ニ通知ス可シ

右ノ場合ニ於テ債務者三日ノ期間内ニ執行力アル正本ニ因ラサル配當要求ヲ認諾セサル旨ヲ申立ツルトキハ執達吏ハ直チニ其配當ヲ要求スル債權者ニ之ヲ通知ス可シ(民事訴訟法第五百九十一條)

第八十條 執達吏ハ豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍事用廳舎又ハ軍艦ニ於テ差押ヲ施行ス可キ權ヲ有セス此場合ニ於テハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ハ執行裁判所ノ囑託ニ因リ差押ヲ爲ス然レトモ其ノ後ノ手續ハ執達吏ニ屬スルモノトス(民事訴訟法第五百五十六條)

執達吏ハ右手續施行ノ爲メ債務名義ノ證ヲ提出セシメ且執行裁判所ノ命ニ依リ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官若クハ隊長ノ屬スル官廳ヨリ差押物引渡ノ通知アルヲ待ツカ又ハ該廳ニ債權者ノ委任ヲ示シテ其引渡ヲ求ム可シ

執達吏ハ差押物ノ引渡ヲ受クル際其差押物ト其差押ノ調書ト

比較シ不足或ハ毀損シタル物アレハ之ヲ記載シ直チニ競賣期日ヲ定ム可シ

第八十一條 執達吏ハ強制執行ニ依リテ得タル金銭ニ關シ計算ヲ立テ各債權者ニ屬ス可キ金額及ヒ強制執行ノ費用ヲ記録ニ明記シ其剩餘額アレハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

執達吏ハ強制執行ニ依リテ得タル金額中ヨリ強制執行ノ費用(執達吏手数料規則及ヒ民事訴訟費用法第十六條)ヲ扣除シ其餘金ヲ以テ各債權者ニ屬ス可キ金額ヲ即時ニ支拂ヒ尙ホ剩餘アレハ之ヲ債務者ニ還付ス可シ(本則第四十三條)郵便爲替ヲ以テ右金銭ヲ送付シタルトキハ郵便局ノ受取證其他ノ方法ヲ以テ送付シタルトキハ受取人ノ受取證ヲ記録ニ添附シテ保存ス可シ

強制執行ノ費用中證人、鑑定人、管理人及ヒ保存人ニ支拂フ可キ費用等ニ付テモ亦同シ

執達吏ハ右ノ手續ヲ終了シタル後ハ民事訴訟法第五百三十五

條第一項ノ規定ニ從ヒ債務者義務ヲ完全ニ盡シタル場合ニ於テハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ債務者ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ記載シテ之ヲ債權者ニ還付シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ何レノ場合ニ於テモ計算書ヲ債務者ニ交付セサル可カラス

強制執行ニ依リ得タル金額(賣得金及ヒ差押金銭ヲ總括ス)ヲ以テ其配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ先ツ其各債權者ヲシテ配當ノ協議ヲ爲サシム可シ協議調ヒタルトキハ其協議ニ任セ且前數項ノ規定ヲ準用シテ手續ヲ完結シ若シ協議調ハサルトキハ供託規則ニ從ヒ其金額ヲ供託ス可シ此場合ニ於テ執達吏ハ其事情ノ届書(各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサルコト及ヒ協議調ハサルコトヲ包含ス)ヲ作り執行手續ニ關スル一切ノ書類ヲ添附シテ執行裁判所ニ届出ツ可シ(民事訴訟法第五百九十三條)

第八十二條 執達吏ハ強制執行完結後ニ至リ賣却セサリシ差押

物又ハ強制執行中裁判所ノ裁判若クハ債權者ノ免除ニ依リ差押ヲ解除シタル物ヲ即時ニ債務者又ハ領收權利者ニ交付ス可シ

右交付シタル物ニ付テハ執達吏ハ債務者又ハ領收權利者ヲシテ受取證ヲ出サシメ之ヲ記録ニ添附シテ保存ス可シ

第三款 債權ニ對スル強制執行

第八十三條 第三債務者ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若ハ給付ヲ目的トスルモノ、強制執行ハ執達吏ノ專行ニ任セス執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲スモノトス（民事訴訟法第五百九十四條）  
金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スコカラサルコトヲ命令スルモノトス（民事訴訟法第五百九十八條）

又差押ヘタル債權ニ付キ債權者カ代位ノ手續ヲ要セスシテ直

チニ之ヲ取立ツルヤ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ之ヲ轉付スルヤハ債權者ノ選擇ニ任セ其申請ニ因リテ執行裁判所ノ命令ヲ付與ス（民事訴訟法第六百條）

右命令ノ送達ハ總テ執達吏ノ職務ニ屬シ且普通ノ規定ニ從フト雖モ特ニ次條ノ規定ニ注意ス可シ

第八十四條 債權者第三債務者ヲシテ民事訴訟法第六百九條ニ掲ケタル陳述ヲ爲サシメノコトヲ申立テタルトキ裁判所カ差押命令ヲ第三債務者ニ送達セシムル場合ニ於テハ郵便ニ依ル送達方法ヲ用井ス普通ノ送達即チ執達吏ノ爲ス送達方法ニ依ルモノトス

執達吏ハ右命令ヲ速ニ第三債務者ニ送達シ且其送達證書ニ送達時刻ヲ記入ス可シ又執達吏ハ右送達ニ際シ第三債務者ヲシテ民事訴訟法第六百九條ニ掲ケタル陳述ヲ送達證書ニ記入セシム可ク又ハ七日ノ期限内ニ通知セシムルコトノ催告ヲ爲ス可シ第三債務者直チニ右陳述ヲ爲サスシテ送達後ニ之ヲ爲ス

トキハ執達吏ハ速カニ之ヲ裁判所ニ差出ス可シ

第八十五條 債務者ハ其轉付シタル債權ニ關スル所持ノ證書ヲ債權者ニ引渡ス義務アリトス(民事訴訟法第六百六條)

執達吏ハ債權者ノ求ニ因リ執行力アル債務名義ノ證及轉付ノ命令ニ基ツキ強制執行ノ方法ヲ以テ前項ノ證書ヲ債務者ヨリ引渡サシム可シ但シ轉付ノ命令ハ遅クトモ此強制執行ノ開始前ニ債務者ニ送達スルコトヲ要ス

若シ其引渡サシム可キ證書カ轉付ノ命令中ニ十分明記シアラスシテ債務者ニ就キ之ヲ穿鑿シ得サルトキハ執達吏ハ其旨ヲ債權者ニ通知ス可シ此場合ニ於テハ債權者ハ命令ノ補充ヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

執達吏右強制執行ヲ實施スルニ付テハ有體動産引渡ニ關スル手續ニ付テノ規定ニ從フ可シ

第四款 不動産及船舶ニ對スル強制執行

第八十六條 不動産ノ競賣ハ執行裁判所ノ命ニ依リ裁判所内又

ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏之ヲ爲スモノトス(民事訴訟法第六百五十九條)

右ノ場合ニ於テハ執達吏ハ民事訴訟法第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ニ從ヒ競賣ヲ取扱フ可シ就中競賣ニ際シ利害關係人(民事訴訟法第六百四十八條)カ或ル競買人ニ保證ヲ立テシメメントテ申立ツルトキハ其競買人ノ申出テタル價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ競買人ヨリ現金又ハ有價證券ヲ以テ執達吏ニ預ケタル後ニ非サレハ其競買ヲ許ス可カラズ(民事訴訟法第六百六十四條)

此他性質ニ於テ許ス限リハ動産競賣ノ手續ヲモ準用ス可シ  
執達吏同一ノ債權者ノ爲メ動産競賣ト不動産トヲ同時ニ爲ス可キ場合ニ於テ動産ノミチ競賣シテ債權者ノ請求ヲ満足セシメ且強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キ見込ナルトキハ先ツ動産ノ競賣ヲ爲ス可キコトヲ裁判所ニ申立テ其指揮ヲ受ク可シ  
第八十七條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキ

(民事訴訟法第六百五十五條ノ規定ニ於ケル最低競賣價額マテ競買人ナキトキハ)其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ(民事訴訟法第六百七十條)

競落ヲ許ス決定アリタル後債務者カ不動産ノ引渡ヲ拒ム場合ニ於テ裁判所ノ命アルトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ(己ムヲ得サル場合ニ於テハ威力ヲ用フ)其不動産ヲ管理人ニ引渡ス可キモノトス(民事訴訟法第六百八十七條)

再競賣ニ付テハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ニ從フ可シ執達吏競賣ヲ終リタルトキハ其調書及競賣保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノ其他關係書類等ヲ悉皆取纏メ三日内ニ裁判所書記ニ渡ス可シ(民事訴訟法第六百六十八條)

第八十八條 民事訴訟法第七百二條ノ規定ニ從ヒ裁判所ヨリ不動産ノ入札拂ヲ命セラレタルトキハ執達吏ハ同法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ從ヒ入札拂ヲ取扱フ可シ

右執行ニ付キ作ル可キ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 債務者ヨリ取上ケタル特定動産又ハ代替物ノ箇數、

度量又有價證券ニ係ルトキハ其券面額、番號、日附

第二 物ヲ債權者又ハ其代理人ニ引渡シ若クハ輸送シタル

旨又未タ之ヲ爲サ、ルトキハ其理由及ヒ其保存ノ方法

取上ケタル物ヲ債權者ニ引渡シタルトキハ執達吏ハ其受取證ヲ取り置ク可シ

第九十一條 不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡シ

シム可キ強制執行ハ執達吏債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシメテ之ヲ爲スモノトス(民事訴訟法第七百三十一條)

此執行行爲ニ付テハ債權者又ハ其代理人ノ立會ヲ必要ト爲スニ依リ執達吏ハ執行ノ際之ヲ出頭セシメ且必要ナル事項

ニ付キ豫メ債權者ト協議シ其意ヲ承ケテ之ヲ處分シ無益ノ日時ヲ費サ、ルコトニ注意ス可シ

判決中ニ附屬物及ヒ器具等ヲモ包含シアルトキハ執達吏ハ之



此場合ニ於テモ亦前二條ノ規定ヲ準用ス可シ

第八十九條 民事訴訟法第七十七條以下ノ規定ニ從ヒ裁判所ヨリ船舶ノ競賣若ハ入札拂テ命セラレタルトキハ執達吏ハ不動産ノ競賣若ハ入札拂ニ關スル前三條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ取扱フ可キモノトス

第五款 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

第九十條 特定動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡サシム可キ強制執行ハ執達吏其執行力アル債務名義中ニ包含シタル物ヲ債務者ニ就キ索出シテ之ヲ取上ケ債權者ニ引渡スヲ以テ之ヲ爲スモノトス(民事訴訟法第七百二十條)

右動産ノ引渡ハ之ヲ取上ケタル後速カニ行フコトヲ要ス若シ直チニ之ヲ引渡スコト能ハサルトキハ債權者ヨリ差圖アルマテ之ヲ保存ス可シ其保存ノ手續ハ本則第六十三條乃至第六十四條ニ於ケル差押物ニ關スル規定ニ從フ可シ

テ併セテ債權者ニ引渡ス可シ

執達吏ハ住家明渡ノ際債務者ノ動産類即チ強制執行ノ目的物ニ非サル物ハ之ヲ取除キ民事訴訟法第七百三十一條ノ規定ニ從ヒ之ヲ取扱フ可シ

執達吏ハ其保存ス可キ動産ニ付テハ差押物ニ於ケルト同一ニ本則第六十二條乃至第六十四條ノ手續ニ從ヒ之ヲ處分ス可シ保存シタル物ヲ債務者ニ返還シタルトキハ執達吏ハ其受取證ヲ取り置ク可シ

債務者右ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ其事情ヲ具シテ執行裁判所ノ許可ヲ得差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル上其代金ヲ供託ス可シ

右執行ニ付キ作ル可キ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ(民事訴訟法第五百四十條)

第一 債權者又ハ其代理人ノ出頭シタル旨

第二 引渡又ハ明渡シタル物及ヒ其場所ニ現在スル附屬物

器具ノ明細

第四 債務者ハ其物ノ占有ヲ解キ債權者又ハ其代理人之ヲ取得シタル旨

第四 債務者ノ動産ヲ保存シタルトキハ其理由、種類并ニ其處分方法

第六款 債務者ノ抵抗除去ニ關スル強制執行

第九十二條 債務名義ノ執行ニ當リ其行爲ヲ耐忍ス可キ義務アル債務者ノ之ニ抵抗スルトキハ債權者ハ之ヲ除去スル爲メ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

立會ヒタル執達吏ハ債權者ノ提出ス可キ債務名義ノ證ニ依リ債權者又ハ其代理人カ如何ナル行爲ヲ爲スノ權利アルヤ及ヒ債務者カ如何ナル程度マテ耐忍ス可キ義務ナルヤヲ明細ニ調査ス可シ債權者ノ申立正當ナルトキハ執達吏ハ債務者ヲシテ其義務ヲ盡サシメシムルコトヲ務メ又必要ナル場合ニ於テハ民事訴訟法第五百三十六條、第五百三十七條ノ規定ニ從ヒ威力ヲ

用ユルコトヲ得ヘシ然レトモ成ル可ク此強制手段ヲ用ユルコトヲ慎ミ偏ニ抵抗除去ニ必要ナル程度ヲ越ヘサルコトニ注意ス可シ

右執行ニ關シ作ル可キ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 債務者ノ耐忍シタル行爲

第二 用ヒタル強制手段

第七款 證人勾引ニ關スル執行

第九十三條 證人ヲシテ強テ證言ヲ爲サシムル爲メ勾引スルト

キ(民事訴訟法第二百九十四條)ハ執達吏ハ其勾引狀ヲ證人ニ示シタル後之ヲ引致ス可シ

證人疾病ニ罹リ之ヲ勾引スルハ其生命ヲ危險ナラシムルコトヲ醫師ノ診斷書又ハ實驗ニ依リ認知スルトキハ執達吏ハ其勾引ヲ停止ス可シ此場合ニ於テハ其停止ノ理由ヲ執行調書ニ記載シ其旨ヲ受訴裁判所ニ届出ツ可シ

第八款 假差押命令ノ執行

第九十四條 假差押ノ命令ノ執行（民事訴訟法第七百三十七條以下）ヲ爲スニ當リ執達吏ノ施行ス可キ手續ハ（民事訴訟法第七百四十九條、第七百五十條ノ規定ハ例外トス）通常ノ強制執行手續ノ規定ニ從フ

執達吏ハ民事訴訟法第七百四十九條ニ規定シタル命令執行ノ期間十四日ヲ既ニ經過シタルモノナルヤ否ヤヲ自ラ調査ス可シ（民事訴訟法第六十五條乃至第六十七條）

假差押ノ命令ニ差押フ可キ物ヲ明記セサルトキ（例ヘハ命令ニ汎然債務者ノ財産假差押ヲ命スルトノミ記載シタルトキ）ハ債權者ノ請求并ニ其利息及ヒ費用ヲ満足セシムルニ足ル可キ丈ケノ物ヲ差押フ可キモノトス執達吏ハ假差押ノ命令ニ基キ差押物ヲ領收シ之ヲ競賣ニ付スルコトナク事件ノ完結ニ至ルマテ貯藏保存スルノ義務アリ然レトモ差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ要ス可キコトノ明了ナルトキハ之ヲ競賣ニ付セラレシムルコト

ヲ執行裁判所ニ申出テ且債權者ニ之ヲ告知シテ便宜ノ處分ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第七百五十條末項）

第九款 假處分命令ノ執行

第九十五條 假處分ノ命令ノ執行ハ金額ヲ領收スル目的ニ非スシテ物ノ引渡、行爲ノ作爲若クハ不行爲ニ關スル處分ヲ爲シ將來ノ強制執行ヲ保全セシムルニ在リ（民事訴訟法第七百五十五條以下）

此場合ニ於テモ亦執達吏ハ前條ノ規定ヲ準用シテ右處分ノ執行手續ヲ爲ス可キモノトス

第十款 裁判上ノ供託

第九十六條 執達吏法律ノ規定ニ依リ供託ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ差押物又ハ賣得金ヲ債務者ニ渡サ、ルモノトス  
供託ヲ爲ス可キ場合ハ左ノ如シ

第一 保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シ強制執行ヲ免カル、コトヲ債務者ニ許シタルトキ（民事訴訟法第五百條、第五百二

十二條、第五百四十七條、第五百七十四條、第七百四十七條及七百五十九條)

第二 賣得金ノ裁判所ニ於テ配當ス可キトキ(民事訴訟法第五百九十三條、第六百二十一條、第六百二十六條及七百八十一條)

第三 裁判所ヨリ供託ヲ命シタルトキ  
供託ヲ必要ナリト認ムルトキハ執達吏ハ供託規則ニ從ヒ直チニ所屬ノ供託所ニ就テ之ヲ行フ可シ  
第二號ノ場合ニ於テハ賣得金配當ノ爲メ事情ヲ管轄執行裁判所ニ届出ツ可シ(民事訴訟法第五百九十三條、第六百二十一條)  
此事情届書ニハ執行ニ關スル債務名義ノ證差押調書、供託ニ關スル證書并ニ其他執行手續ニ關スル書類就中差押及ヒ轉付ノ命令ヲ添附スヘシ

第三節 刑事事件ノ執行其他ノ事務ニ關スル執行

第一款 罰金、所料及ヒ過料ノ執行

第九十七條 判決、決定及ヒ命令ヲ以テ科シタル罰金科料及ヒ過料ノ徵收ハ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ關スル強制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス可シ  
右ノ執行ハ裁判所又ハ檢事ノ命令ニ依リ執達吏之ヲ爲ス可キモノニシテ(刑事訴訟法第三百二十條及ヒ執達吏規則第三條)此命令ハ執行力アル債務名義ニ代用スルモノトス  
此執行ニ關シテ執達吏ノ爲ス可キ手續ハ民事訴訟法ノ強制執行ニ於ケル規定ニ同シ但執行ヲ始ムル前ニ執行文ヲ送達スルコトヲ要セス(本則第四十九條第四號)

執達吏金額ヲ徵收シタルトキハ其受取證ヲ納人ニ交付ス可シ其金額ヲ國庫ニ納入スル手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル  
執達吏ハ右金額ヲ完納シタルトキ又ハ無資力者ニシテ之ヲ完納スルコト能ハサルトキ又ハ犯人死亡シタルトキ(刑法附則第二十條)ハ何レノ場合ニ於テモ其旨ヲ裁判所又ハ檢事局ニ報告シ且其犯人管轄ノ區裁判所ニモ之ヲ届出ツ可シ

第二款 賠償ノ執行

第九十八條 刑事訴訟ノ裁判ニ於テ犯人ニ負擔セシメタル損害賠償(刑法附則第五十八條及ヒ第五十九條)ハ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス可シ  
右執行ハ裁判所書記ノ付與スル執行力アル判決ノ正本ニ依リテ之ヲ爲スモノトス  
賠償ヲ求ムル者ハ其執行ヲ直接ニ執達吏ニ委任シ又ハ裁判所書記ヲ經テ之ヲ執達吏ニ委任スルコトヲ得

第三款 沒收物沒收金及ヒ追徵金ノ徵收

第九十九條 刑事訴訟ニ於テ物品、金錢ヲ沒收シ又ハ金錢ヲ追徵ス可キコトヲ命シタルトキ其執行ハ民事訴訟法中特定動産ニ付テノ強制執行及ヒ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ施行ス可シ(刑事訴訟法第三百二十條及ヒ執達吏規則第三條)  
右執行ノ手續ハ本則第九十七條ノ規定ヲ準用ス可シ

第四款 裁判費用ノ徵收

第一百條 刑事ニ關スル費用(刑事訴訟法第三百三十四條、第三百四十一條、第三百二十條及ヒ刑法附則第四十八條乃至第五十三條)及ヒ民事ニ關スル費用(民事訴訟法第九十九條)ハ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ負擔ス可キ義務アルモノヨリ徵收ス可シ(刑事訴訟法第三百三十四條、第三百四十一條、第三百二十條及ヒ刑法附則第四十八條乃至第五十三條)但私訴ニ關スル訴訟費用ハ民事訴訟法ニ於ケル訴訟費用ノ規定ニ從フ(刑事訴訟法第三百二十三條)  
右執行手續ハ本則第九十七條ノ規定ヲ準用ス可シ

第四節 行政裁判所其他特別裁判所ヨリノ囑託ニ依ル強制執行

第一百一條 行政裁判所ヨリ強制執行ノ囑託アル場合ニ於テ(行政裁判法第二十一條)執達吏ノ職務ニ屬スルモノニシテ且囑託ヲ受ケタル裁判所ヨリノ命アルトキハ執達吏ハ本則第二節

ノ規定ヲ準用シテ之ヲ執行ス可シ  
執達吏ハ強制執行ヲ完結シタルトキハ執行ノ成績ヲ其裁判所ニ届出ツ可キモノトス此場合ニ於テハ執達吏ハ執達吏手数料規則ニ依リ手数料及ヒ立替金ヲ受ク

第二百二條 陸海軍軍法會議ヨリ私訴裁判ノ強制執行ノ囑託アル場合ニ於テ執達吏ノ職務ニ屬ス可キモノニシテ且其囑託ヲ受ケタル裁判所ヨリノ命アルトキハ執達吏ハ陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法及ヒ前條ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス可シ  
右ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規程ヲ適用ス可シ

第五節 動産、不動産ノ任意競賣  
第二百三條 動産、不動産ノ任意競賣ハ關係人ノ直接委任ニ因リ執達吏之ヲ施行スルモノトス（民法財産取得編第四百四條乃至第四百六條及ヒ執達吏規則第二條）  
執達吏ハ任意競賣施行ノ職權ヲ濫用シテ自ラ任意競賣ノ委任ヲ求メ又ハ之ヲ勸誘スルヲ得ス且之カ爲メ他ノ本職ヲ懈怠ス

可カラス

第四百四條 委任者ハ競賣ノ條件即チ期日、場所及ヒ公告ノ方法（民事訴訟法第五百七十六條、第六百六十一條、第六百六十二條）ヲ適宜ニ定ムルコトヲ得

賣却ニ先チ物ノ價額ヲ評價セシムルコト及ヒ其賣得金ヲ執達吏若クハ其他ノ者ヲシテ取立テシムルコトハ委任者ノ指定ニ任ス可シ又執達吏ハ自ラ右取立ノ手数料ヲ豫約スルヲ得ス  
第二百五條 執達吏ハ競賣物ノ度量、箇數等ヲ成ル可ク詳細ニ號

ヲ逐ヒ記載シテ其表ヲ作り委任者ニ之ヲ示シ其承諾及ヒ署名捺印ヲ請フ可シ若シ委任者ヨリ該表ヲ作り交付シタルトキハ執達吏ハ其當否ヲ調査シ之ニ認證ス可シ  
競賣物委任者ノ手中ニ存在シ其委任者ニ於テ製表ヲ望マサルトキハ執達吏ハ之ヲ作ルコトヲ要セス  
執達吏競賣期日マテ競賣物ノ保存ヲ委任セラレタルトキハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ケタル調書ヲ作ル可シ

第一 物ノ明記又ハ特別ニ製表シタルコトノ有無ノ開示  
 第二 其物ヲ現ニ執達吏ニ交付シタルコトノ記載  
 價額ヲ評價シタル場合ニ於テハ表中各物ノ左側ニ其評價額ヲ  
 記入ス可シ

第六節 委任者ノ特別指定(本則第四百四條)アラサル限リハ執  
 達吏ハ民事訴訟法第五百七十三條乃至第五百七十七條及ヒ第  
 五百八十四條並ニ本則第六十四條乃至第七十三條及ヒ第八十  
 一條ノ規定ヲ準用シテ處分ヲ爲シ又執達吏ハ任意競賣ニ際シ  
 其賣却ス可キ物ヲ自ラ買取リ又ハ親屬若クハ他人ニ依リテ之  
 ナ買取リ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ買取ルコトヲ得ス且其補助ノ  
 爲メ立會ハシメタル者ニモ競買ニ干與セシムルコトヲ許サス  
 執達吏ハ競賣期日ヲ適當ノ時期ニ於テ委任者並ニ委任者ヨリ  
 賣得金ノ取立若クハ立會ヲ委託セラレタル者ニ通知シ又競賣  
 調書ノ謄本ヲ委任者ニ送付ス可シ

第六節 辨濟提供

第七節 破産財團ニ關スル競賣

第七條 執達吏ハ債務者ヨリ辨濟ノ提供ヲ爲ス委任ヲ受ケタ  
 ルトキハ民法財産編第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規  
 定ニ從ヒ之ヲ取扱ヒ且辨濟提供規則ニ依リ調書ヲ作り之ヲ保  
 存ス可シ  
 若シ當事者其謄本ヲ求ムルトキハ執達吏之ヲ作り認證シテ交  
 付ス可シ  
 右手數料ハ辨濟提供規則及ヒ執達吏手數料規則ニ從ヒ之ヲ取  
 立ルコトヲ得

第八節 拒證書ノ作成

第八條 執達吏破産財團ノ動産、不動産ノ競賣ノ委任ヲ受ケ  
 タルトキハ動産、不動産ノ競賣ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ  
 準用シ且破産裁判所ノ指揮ヲ受ケ之ヲ競賣ス可シ(商法第千  
 十八條)  
 右賣得金ノ取立及ヒ其供託ニ付テモ亦同シ

第九十九條 執達吏ハ手形ニ關シ被拒者ヨリ拒證書作成ノ委任ヲ受ケタルトキハ商法第七百九十八條乃至第七百九十八條ノ規定ニ從ヒ之ヲ作ル可シ(執達吏規則第二一條)

右手數料ハ執達吏手數料規則第十六條ノ規定ニ從ヒ被拒者ヨリ之ヲ取立ツルコトヲ得(商法第七百九十八條)

第九節 供託ニ付テノ認證

第一百十條 金錢又ハ有價證券ヲ供託ノ爲メ供託所へ送付スル者ハ之ヲ送付シタルコトニ付キ認證ヲ執達吏ニ求ムルコトヲ得認證ノ求テ受ケタル執達吏ハ唯タ其金錢若クハ有價證券カ其書狀中又ハ封皮中ニアリトノ供託者ノ確言ノミヲ以テ足レリト爲ス可カラス必ス送付ノ實否及ヒ其數量ノ如何ヲ確知スルコトヲ要ス若シ此目的ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ其金額、有價證券ノ種類ヲ總テ取調ヘ之ヲ計算シ且供託者ノ面前ニ於テ送狀ト比較シタル後之ヲ包裝シテ送付セシメ又ハ拂込マシム可シ

送付ニ關スル必要ナル手續ハ供託規則ニ從フ可シ  
認證書ハ原本ニテ委託者ニ交付ス可キモノトス

第十節 手數料

第一百十一條 執達吏ハ其職務執行ニ付キ作リタル證書ノ原本ニ手數料及ヒ立替金(執達吏手數料規則第二一條乃至第十八條)ヲ計算シテ其額ヲ附記シ置キ後ニ作ル可キ書類ノ正本ニ記入スルノ用ニ供ス可シ又執務時間ニ應シ其辨濟ヲ受ク可キ場合ニ於テ最短ノ時間ニ付キ定メタル手數料ヲ超過スルトキハ其執務時間ヲ附記ス可シ(執達吏手數料規則第二十三條)

右手數料及ヒ立替金ハ其各種類例へハ書類送達ノ手數料、動産差押ノ手數料、動産若クハ不動産競賣ノ手數料、又ハ書記料、郵便料、電信料、公告料ノ立替金又ハ證人、鑑定人、管理人、保存人等ノ手當若クハ物ノ送致費用物ノ保存費用、旅費ノ立替金ノ類)ヲ區別シテ之ヲ表示ス可シ且旅費ニ付テハ往復旅程ヲ總計シテ之ヲ掲ク可シ



計算書ニハ通常職務簿(執達吏ノ常ニ備置ク簿冊)ニ記シタル事件ノ番號ヲ附記ス可シ又證書謄本ニハ手數料計算ノ謄本ヲ添附シ置ク可シ

手數料ヲ支拂フ可キ者其證書ノ原本謄本トモ所持セサルニ依リ特別ニ手數料ノ計算書ヲ作ル可キトキハ執達吏ハ該計算書ニ其事件及ヒ施行シタル執務ヲ簡短ニ掲ケ且手數料ノ多寡ニ關係アル場合ニ於テハ執務ニ係ル物及ヒ其日時、場所ヲモ掲ケ之ニ署名捺印ス可シ

第一百十二條 執達吏ハ手數料及ヒ立替金ノ豫納トシテ受取リタル金額及ヒ豫納金ノ殘額ノ返還ニ付テハ通常職務簿中右事件ニ關スル部ニ之ヲ記入ス可シ

第一百十三條 執達吏ハ裁判所書記ヲ經タルト否トチ問ハス其委任ヲ受ケタル職務施行ノ爲メ受ク可キ手數料及ヒ立替金ニ付キ委任事件終了後直チニ其計算ヲ通知シ委任者ヨリ之ヲ取立ツ可シ但債務者ニ對スル強制執行ニ付キ此債務者ヨリ取立テ

ス又ハ強制執行ノ際同時ニ取立テサルトキニ限ル(民事訴訟法第五百五十四條執達吏手數料規則第二十條及ヒ本則第五十一條)

第一百十四條 執達吏ハ執達吏手數料規則第二十一條ノ規定ニ從ヒ國庫ヨリノ支給ヲ受取ル爲メ過ル三ヶ月間ノ立替金ヲ決算シ且職務簿ヲ區裁判所判事(監督判事ヲ包含ス)ニ差出ス可シ右決算ノ方法ハ左ノ例ニ從フ

第一 三ヶ月分ノ職務簿中ニ各月ノ計算ヲ結ヒ尙ホ其三ヶ月ヲ併合シタル決算

第二 決算ノ日時及ヒ執達吏ノ署名捺印  
毎年一月ヨリ三月マテノ決算ハ四月中ニ差出シ四月ヨリ六月マテノ決算ハ七月中ニ差出シ七月ヨリ九月マテノ決算ハ十月中ニ差出シ十月ヨリ十二月マテノ決算ハ翌年一月中ニ差出ス可キモノトス

特別ノ場合ニ於テ決算ノ時事件未ダ終了セサル爲メ立替金ヲ

計算スルコト能ハサルモノハ後期ノ第一ノ月ノ職務簿ニ右事件ノ新番號ヲ附シ新舊両簿ノ番號ヲ以テ前期ニ關スル立替金ヲ後期ニ移記シタルコトヲ標記ス可シ

區裁判所判事ハ執達吏ノ職務簿ニ必要ト思量スル注意書ヲ添附シ其支辨且其計算ヲ爲シ得ヘキ額ヲ確定スル爲メ之ヲ地方裁判所長ニ差出ス可シ

第百十五條 無資力者裁判所ヨリ訴訟上ノ救助ヲ受ケタルトキハ送達及ヒ執行行爲ヲ爲サシムル爲メ一時無報酬ニテ執達吏ノ附添ヲ求ムル權利ヲ有ス(民事訴訟法第九十七條第三號)此訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ各別ニ之ヲ付與シ第一審ニ於テハ強制執行ニ付テモ併セテ之ヲ付與スルモノトス(民事訴訟法第九十四條第一項)訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニハ必スシモ執達吏ノ附添フコトヲ要セス

訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ハ此救助ヲ受クル際送達ニ付テハ裁判所書記ニ申立テ一時無報酬ニテ送達ヲ爲サシム可キコト

ヲ求メ裁判所書記ハ之ヲ執達吏ニ通達シ又執行行爲ニ付テハ裁判所書記ヲ經テ若クハ直接ニ執達吏ニ對シ委任ヲ爲スコトヲ得

該區裁判所管轄内ニ職務ヲ奉スル執達吏ニシテ右ノ委任ヲ受ク可キ義務アル者ハ事務分配(執達吏規則第七條)ニ依リ職務ヲ施行ス可キ土地ニ從ヒ裁判所書記ヲ經タル委任ニ應ス可キ執達吏ナリトス

執達吏ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ對シ其證明ノ爲メ裁判所ヨリ付與シタル裁判ノ提出ヲ求ムルコトヲ得然レトモ裁判所書記ヲ經タル委任又ハ辯護士ヨリ爲ス委任ニ付テハ右救助ヲ受ケタルコトノ證ノミヲ以テ足レリトス  
訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ爲メ爲シタル行爲ノ手数料及ヒ立替金ヲ訴訟費用負擔ノ裁判ヲ受ケタル相手方ヨリ取立ツル方法ハ民事訴訟法第九十九條ノ規定ニ從ヒ其強制執行ノ費用ニ付テハ本則第五十一條ノ規定ニ從フ可シ

訴訟費用負擔ノ裁判ヲ受ケタル相手方ヨリ辨濟シ能ハサル執達吏ノ立替金ハ執達吏手数料規則第二十二條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ之ヲ支辨ス此場合ニ於テハ執達吏ハ前條ノ規定ヲ準用シテ決算ヲ爲シ之ヲ區裁判所判事ニ差出ス可キモノトス

第一百十六條 執達吏ハ執達吏規則第十九條ノ規定ニ依リ一年間ニ收入スル手数料百八拾圓ニ充タサルヲ以テ國庫ヨリ其不足額ノ支給ヲ受ケントスルトキハ本則第一百十四條ノ規定ヲ準用シテ決算ヲ爲シ區裁判所判事ニ差出ス可キモノトス

第二節 執達吏職務細則質議錄ノ件

◎ 執達吏職務細則質議錄

第一條

問 此細則ニハ獨立立法ニ規定ナキトモ記載シアルヤ

答 然リ

問 然ラハ此細則ノミヲ研究スルモ充分ニ職務ノ執行ヲ爲

シ得サルヤ

答 元來此細則ハ諸法ヲ網羅セシモノナルヲ以テ之ヲ研究スルキハ職務ニ差支無之筈ナリ

第二條

問 裁判所構成法第九十七條ニ依レハ執達吏ハ所屬地方裁判所ノ管轄内ニ於テハ何レノ地ニ於テモ職務ヲ執行スルヲ得トアリ若執達吏規則第七條ニヨリ事務分配ノ定マリタル后佗人ノ管轄ニ屬スル事務ヲ取扱フタル時ハ如何

答 執達吏規則第七條末項ニヨリ其事務他ノ執達吏ニ屬シタルトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フコトナシ

問 民事ニ付裁判官ノ職權ヲ以テ証人鑑定人ヲ呼出ス時呼出狀ノ送達事務ハ委任事件ナルヤ又ハ命令事件ナルヤ

答 執達吏規則第三條ニアルモノヲ除クノ外ハ皆委任事件ニ付本件ノ如キモ則チ委任事件ニ屬セリ

第三條

問 執達吏規則第八條ニヨリ職務ノ施行ヨリ除斥サレタル  
執達吏ハ尙ホ代理者ニ委任ヲ爲ス權ヲ有スルヤ  
答 有セス

第四條

問 執達吏規則第十二條ノ通知ノ方法如何  
答 適宜ノ方法ヲ以テ通知スヘシ

第五條第二項

問 裁判所又ハ檢事局ト云ヘル内ニハ判事檢事ヲ含ムヤ  
答 然リ

第七條

問 命令書ノ正本ハ書記ノ認證シタルモノヲ下付スヘキ筈  
答 然リ  
問 判事又ハ檢事トハ主任判檢事ヲ云フヤ

答 然リ

第八條

問 夜間ニ爲ス強制執行ノ許可命令ハ書面ヲ以テ爲スヲ要  
スルヤ  
答 然リ

第九條

問 委任事件ノ中ニハ命令事件ヲ包含スルヤ  
答 然リ

第十條

問 書記執達吏ノ職務ヲ行フ時ハ裁判所ノ土藏ヲ借用スル  
モ差支ナキヤ  
答 協議上借用スルハ差支ナカル可シ

第十二條

問 官廳ヨリ金錢物品ヲ受取場合如何  
答 假令ハ在營ノ軍人軍屬ノ差押財産ヲ其所屬廳官ヨリ受

取ル場合ノ如シ

第十三條

問 執達吏ノ住所トハ如何

答 書式ニ仍リ某區裁判所ト記スルヲ以テ足ル

問 執達吏職務施行中停止セシ間ノ手数料ヲ取ルヲ得ル

答

取ルヲ得ス

問 天災等止ヲ得サル場合ニ於テ停止スルモ尙ホ然ルヤ

答 然リ

問 調書ハ證書ノ内ニ含有スルヤ

答 然リ

第十四條

問 書記若シ執達吏ノ職務ヲ執ル時ハ書記ノ印形ヲ用フル

モ妨ケナキヤ

答 當然書記ノ印章ヲ用フヘキモノトス

第十七條

問 執行ノ成績届出書ハ如何記スヘキヤ

答 所屬裁判所ト協議ノ上定ムヘシ

第十八條

問 執達吏ノ作ルヘキ認證シタル謄本ト普通ノ謄本トノ區別如何

別如何

答 認證シタル謄本トハ認證ナル二字ヲ附記シ之ニ署名押

印セシモノヲ云ヒ普通ノ謄本トハ右認證ノ文字ヲ附記

セサルモノヲ云フ

第廿二條

問 欠缺ト云フハ誤謬ヲ含ム譯ケカ

答 御見込ノ通り

問 然ラハ太郎ヲ次郎ト誤記シアリ大字相違等ノ判然シタ

ル時ハ直チニ訂正シ得ヘキヤ又其訂正ノ處ヘハ執達吏

認印スヘキヤ

答 然リ

第廿三條

問 廿四時又ハ三日ノ期間ハ八里毎ニ一日ノ里程ニ付テノ  
猶豫ヲ除キテ計算スル筈カ

答 民事訴訟法第六十七條ノ規定ヲ準用スヘキモノナリ

第廿五條

問 會社々團ノ首長ニ送達スル能ハサル時ハ事務擔當者中  
ノ一人ニ送達スルモ差支ナキヤ

答 然リ

問 送達ヲ受クヘキ本人ニアラサル首長又ハ事務擔當者ニ  
送達スルモ差支ナキヤ

答 事務所ニ於テ本人ノ在ラサル場合又ハ受取ニ付差支ア  
ルトキハ御見込ノ通り

問 其場合ニ於テ其會社首長又ハ事務擔當者タルノ證明書  
ヲ取ルヲ要スルヤ

答 夫ハ要セス

問 法律上ノ代理人不在ナル時ハ無能力ナル原告又ハ被告  
ニ送達シ得ルヤ

答 成長シタル全居ノ親屬ナレハ送達スルヲ得ヘシ  
第廿六條

問 訴訟法第四百十五條ノ所謂近隣二人ニ必ス通知スヘキ  
筈カ如何

答 山村等近所ニ隣佑ナキ時ノ如キハ臨機ノ處置ニ及ハレ  
タシ

問 失踪者其他居宅ナキモノニ送達スルトキハ告知書ヲ貼  
付スル能ハサルヘシ此場合ニハ如何スヘキヤ

答 告知書ヲ作ルニ及ハス

問 民事訴訟法第四百十五條第二項ノ近隣ノ内ニハ接近セ  
ル他町村ノモノモ包含スルヤ

答 然リ

問 近隣ノ遠近里程ノ制限アルヤ  
答 ナシ

第二十九條

問 送達ヲ受取ルニ付差支アルトキハ例令ハ事務繁忙等ノ  
場合ヲ指示スルモノ乎  
答 然リ

第三十條

問 成長者ノ年齢ニ制限アリヤ  
答 年齢ニ制限ナキモ事理ヲ識別スルニ足ルモノヲ云フ  
問 雇人ハ日雇ニテモ一般ノ雇人ト爲スヲ得ルヤ  
答 日雇ハ雇人ト爲スヲ得ス  
問 送達ノ證書ヘハ只タ親屬トノミ書スルヲ以テ足ルヤ又  
ハ親屬ノ區別ヲモ記スヘキヤ  
答 只タ親屬トノミ書スルヲ以テ足ル

第三十一條

問 居住二人トハ二戸ヲ指ス義乎又ハ二人ナレハ一戸ノモ  
ノニテモ差支ナキカ  
答 一戸ノモノナリト雖モ二人ナレハ好シ又二人ナキ場合  
ニハ一人ニテモ足レリ  
問 村長ニ書類ヲ預置ク場合ニ於テ若シ受取ヲサルトキハ  
如何  
答 法律上之ヲ拒ム理由ハ決シテ無之モ万一之ヲ拒ム場合  
ノ如キハ書記課ヘ申出ラルヘシ  
問 本人ノ住居二戸ノナキトキハ告知書ハ何レニ貼付スル  
ヤ  
答 只見易キ處ニ貼付スルヲ以テ足ル  
問 天災事變ノ爲メ送達シ能ハサルトキハ如何  
答 送達證書ニ其事由ヲ記載シテ書記課ニ返戻スヘシ但其  
天災事變アリシ事實ニ付別ニ證明書ヲ要セス

第三十三條

問 送達ヲ受ク可キモノトハ本人ノミヲ指ス乎  
 答 否ナ總テ正當ニ送達ヲ受ク可キ資格ノ者ヲ云フ  
 第三十四條

問 送達翌日令狀裁判所書記ニ交付スルトアルモ數十里外  
 ノモノニ涉ルトキハ之ヲ爲ス能ハス如何  
 答 民事訴訟法第一六七條ヲ準用ス可シ  
 注意第二項數葉云々事由欄内ニ記載スルコト能ハサル  
 トキハ別紙ヲ添付シ又ハ付箋シテ之ヲ記載スヘキナリ

第卅七條

問 搜索ノ範圍ハ裁判所構成法九十七條ニ依リ制限セラル  
 ヲヤ  
 答 御見込ノ通り

第卅八條

問 囚人ニシテ若シ受取ラサルトキモ尙ホ差置ノ方法ニ由  
 ル可キヤ

答 然リ  
 問 囚人外役中ナルトキハ其送達ハ外役先へ送達ス可キヤ  
 答 外役先キニ送達スルカ又ハ歸檻ノ上送達スルカハ便宜  
 ニ任ス

第四十一條

問 職務範圍内ニ屬スルモノヲ限定シタルモノカ又ハ其概  
 目ヲ示シタルモノカ  
 答 限定ノモノトス  
 問 契約証書ニ押印セサルモノ、執行ハ如何  
 答 (民事訴訟法第七三六)ニ準シ取扱フヘキモノニシテ執  
 達吏ノ取扱フヘキモノニ非サルヘシ  
 問 甲乙連帶債務者ノ有体動産ヲ差押ル場合ニ於テハ先ツ  
 甲ノ居室ニ至ルニ其所有ノ財産執行費用ヲ償フテ剩餘  
 ナ得ル見込ナキモ一應差押ヲ爲シ更ニ乙ノ居室ニ至ル  
 ニ甲ノ財産ヲ合スルモ猶費用ノ剩餘ヲ得ル見込ナキモ



ノハ執行ヲ爲スヲ得サルカ如シ此場合ニ於テハ曩キニ  
差押ヲ爲シタル甲ノ財産ハ如何處分ス可キヤ

答 甲ノ財産ハ直チニ差押ヲ解クヘキモノトス

問 甲乙連帶債務者ニ對シ執行シタル調書ハ各別ニ調製ス  
ヘキヤ然ラハ仮令ハ甲ノ居室ニテ執務時間三時十五分

間ヲ費シ乙ノ居室ニテ三時十五分ヲ要セシトキハ其手  
數料ハ甲乙通シテ七時間分ヲ收入スヘキヤ或ハ甲乙各  
四時間分ヲ收入スヘキヤ又其手數料及ヒ立換金ハ一方  
ノ調書ニ記載スルヲ以テ足ルカ

答 調書ハ各別ニ調製ヲ要シ手數料ハ甲乙ヲ通算シテ收入  
スヘキモノトス手數料立換金ハ見込ノ通り執務時間ハ

債務者居室ニ至リ差押着手ヨリ調書調製マテノ間ヲ指  
ス甲宅ヨリ乙宅ニ至ルノ時間ハ算入セス

問 執行入費ハ公賣金ノ内ヨリ先收スヘキハ勿論ナルヤ  
答 先取權アリ

問 執行費用ヲ償フテ剩餘ナキ見込ノトキハ其旨ヲ裁判所  
ヘ届出ツヘキヤ

答 細則第十七條ニヨリ届出ツヘシ

第四十二條

問 全一ノ債權者ヨリ全一ノ債務者ニ對スル事件ニ付動産  
ト不動産ト全時ニ競賣スルトキ手數料ハ通シテ徵收ス  
ヘキヤ

答 各別ニ徵收スヘキモノトス

第四十三條

問 強制執行ノ委任ヲ爲スニ書記ノ補助ヲ請ヒ得ル場合如  
何

答 通例ノ執行事件ニ付隨意ニ補助ヲ求ムルヲ得ヘシ

問 然ラハ通例ノ事件ニ付補助ヲ求ムルトキハ書記ハ之ヲ  
辭スルヲ得ヘキヤ

答 辭スルヲ得サルヘシ

答 辭スルヲ得サルヘシ

問 代理人ニ金錢ヲ引渡ス旨ノ債權者ノ請求ハ書面ヲ以テ爲サシムルカ

答 書面ヲ以テ爲サシム可シ

問 其引渡ノ一ヲ委任狀ニ明記シタルトキハ如何

答 認証シタル委任狀ノ謄本ヲ差出サシムヘシ

問 債務ノ名義トハ如何

答 執行々爲ノ原因トナルヘキモノ則チ判決ノ正本公正証書ノ如キモノ之レナリ

問 債務者幾分ノ義務ヲ盡シタルトキハ正本ニ其旨ヲ記シタル上債權者ニ返濟スヘキカ又ハ執達吏ニテ保管シ得ヘキヤ

答 委任完結後債權者ニ返還スヘキモノトス

第四十四條

問 訴訟法第五一七條ノ執行文ハ必ス準守スヘキモノナルヤ

答 然リ

第四十八條

問 債務者ノ財産所在地カ甲乙二區裁判所管轄ニ跨ルトキハ甲乙二區裁判所トモ執行裁判所ナルヤ

答 然リ

第四十九條

問 保証ヲ立タル証書ハ債權者ヨリ何人ニ送達スルヤ

答 負債者ニ送達スヘキモノナリ

問 其送達ヲ執達吏カ委任ヲ受ケタルトキハ如何ノ手續ヲ以テ送達スルヤ

答 適宜ニ送達書ヲ作リテ爲スヘシ

問 判決書ノ正本公正證書ノ正本ヲ債務者ニ送達シタル后ニ非サレハ債權者ニ於テ強制執行ヲ爲シ得ヘカラスヤ

答 然リ

問 仮執行ノ命令書ハ送達スルニ及ハサルカ

答 然リ

問 債權者ニ於テ強制執行ヲ爲シ得ヘカラスヤ

答 然リ

問 債權者ニ於テ強制執行ヲ爲シ得ヘカラスヤ

答 然リ

問 債權者ニ於テ強制執行ヲ爲シ得ヘカラスヤ

答 然リ

答 然リ

問 公正証書ノ中ニハ和解調書モ包含スルカ  
答 本號ノ公正証書トハ公証人ノ作りタルモノチ一例ニ示シタルモノニテ和解調書ハ此中ニ入ラサルモ和解調書又ハ仲裁判斷書等モ債務者ニ送達シタル後ニアラサレハ強制執行ヲ爲スヲ得ス

問 証書送達シタルヤ否ヤノ調査手續ハ如何

答 執行ノ委任ヲ受クル際債權者ニ就キ調査スルヲ要ス

第五十條

問 損害云々ハ如何ナル点ヲ指スヤ

答 執行ヲ爲スモ其レカ爲メ債務者ヲ害セサル様注意セシ

問 第一項ハ債權者ノ便益ヲ謀ル爲メ設タルモノナルヤ若クハ債務者ヲ保護スルノ意ニ出タルモノナルヤ

答 債務者ヲ保護スルノ意ニ出タルモノナリ

問 親屬トハ同居ノ親族ニ限ルモノカ

答 否一般ノ親族ナリ

問 強制執行ヲ始ムルトキトハ何レノ時ヲ云フヤ

答 細則四十九條ノ規定ヲ指シタルモノナリ

問 判決書正本ヲ本人カ受取タル証ナキモ執行ヲ初ムルヲ得ルヤ

答 正當ノ手續ヲ以テ送達セシ已上ハ仮令本人カ受取タル証ナキモ執行スルヲ得ヘシ

問 催告ニ依リ第三者カ辨償スルトキハ受取証何人ノ宛ヲ以テ交付スルヤ

答 催告ニ依リ辨償ヲナス第三者トハ親屬ナルヘシ其受取証ハ親屬ニ宛ツヘシ

問 第二項ノ辨償ニハ代物辨償ヲ包含スルヤ

答 債權者ノ承諾アル場合ハ御見込ノ通り  
債權者ニシテ職工ナルトキハ伴ヒ行キテ可然ヤ

答 差支ナカルヘシ

第五十一條

問 上告期限ヲ經過スルニ非サレハ判決確定セサルニ依リ  
執行ヲ爲スヲ得サルカ

答 然リ

問 訴訟法第五五四條第二項ハ如何ナル場合ヲ指タルモノ  
ナルヤ

答 上告又ハ再審ノ場合ノ如キ原裁判破毀ノトキ債權者ヨ  
リ債務者ニ對シ既ニ受タル費用ヲ辨濟スヘキナリ

問 執達吏強制執行ヲ爲シテ債務者ヨリ受取ルヘキ見込ナ  
キトキハ債權者ヲシテ費用ノ豫納ヲセシムル事ヲ得ル  
カ

答 然リ

問 裁判外ノ必用ナル費用ノ内ニハ債權者執行ニ立會タル  
日當ノ如キモ包含スルヤ

第五十三條

答 訴訟法ノ規定ニ依リ立會ノ場合ノ外包含セス

問 命令トハ如何

答 訴訟法第五五〇條第二項ノ命令ノ如キモノナリ

問 執行ノ制限トハ執行ノ範圍ヲ指スモノカ若クハ執行行  
爲上ニ付テ云フモノナルカ

答 后段見込ノ通リ

問 本條ノ停止トハ取消ト見做シ一時停止トハ中止ト見ル  
カ

答 然リ

第五十五條

問 債權者及債務者利益云々トハ如何

答 仮處分ノ如キ場合ニ於テ是等ノ一アラン

第五十七條

問 放チ易キ財産トハ如何

答 仮令ハ此書籍ハ債務者ノ最モ愛セルモノニシテ其他ノ器物ハ然ラサルモノナレハ其請求ヲ容レ先ツ債務者放チ易キ物則チ器物ヲ差押ユルナリ

問 仮リニ差押タル有價證券ハ競賣ノ期日ニ至ルモ猶ホ疑ノ存スルトキハ競賣スヘキヤ

第五十九條

問 如何ナル場合トハ如何

答 總テノ場合ヲ云フ

第六十條

問 債務者若シ質屋營業ナルトキ質物ヲ執達吏占有シ得ル

カ

答 差押フルコトヲ得

問 其物ヲ取上ケ且ツ債務者ノ占有ヲモ引放ツヘシトアリ其區別ハ如何

答 取上ハ所作ヲ云ヒ占有ヲ引離ツトハ權利ヲ引離スノ意ナリ

第六十一條

問 金錢ヲ供託スル場合ハ配當ノ出來サルトキ又配當ノ出

來サルトキハ債權者間ニ協議ノ整ハサルトキニ限ルカ

答 其場合ト裁判所ヨリ供託ヲ命シタルトキニ限ル

問 差押金錢ハ遅クトモ差押ヲ爲シタル日ヨリ二日内之ヲ

債權者ニ引渡シ云々トアリ然レハ執達吏ハ各債權者ヘ

配當ヲモ爲スノ權アルモノナリヤ

答 然リ

第六十三條

問 第一項身分上能力ト資産ノ信用トヲ具備スルモノヲ云

フカ

答 然リ

問 差押物ノ保存人ナキ時ハ如何

答 之ヲ自己ノ役場ニ運搬スルカ又ハ債權者ノ意ニ任ス可

問 保存人ニ支給スル報酬額ハ何ニ依テ定ムヘキヤ

答 保存人ト協議ノ上定ム可シ

問 第一號保存人ト爲シタル約款トハ報酬等ヲ定メタル事  
等ヲ云フヤ

答 保存人ヲ確定シタル事并ニ御問ノ如キ事ヲ云フ

第六十五條

問 管理人ノ報酬ノ額如何

答 定額ナシ

問 債權者ノ承諾アルモ運搬スルニ困難ナキトキハ債務者  
ノ保管ニ任スルヲ得サルヤ

答 任スルヲ得ルナリ

問 イロノ二條件ヲ具備スルニ非レハ債務者ニ保管ヲ命ス  
ルコト能ハサルカ

答 一條件ニテ可ナリ

問 第二號管理人ヲ任命スルニハ事件ニ關係ナキモノニ限  
ルヤ

答 關係アルモノ及ヒ債務者モ親屬ノ如キモノニハ任命ス  
可カラス

問 然ラハ債權者ニ管理ヲ任命ス可カラサルハ勿論ナルヤ

答 任命シテ可ナリ

問 債權者ニ任命スルハ債務者ノ承諾ヲ得ストモ可ナルカ  
可ナリ

第六十七條

問 債權者へ通知ハ郵便ニテナスモ妨ケナキヤ

答 郵便ニテハ送達スルヲ得ス

第六十八條

問 差押各種ノ方法トハ如何

答 封印標目又ハ他ノ方法ヲ指シタルモノナルヘシ

第六十九條

問 競賣公告ハ何日間ナルヤ

答 法律上規定ナシ

問 鑑定人ニ評價セシムルハ只價額ノ標準ヲ得ルノミカ  
答 然リ

問 高價物ノ價額鑑定ハ何レノ時ナルヤ

答 差押終リタルヨリ競賣スル前ニ於テ爲スモノナリ

問 競賣ノ補助トハ如何ナルモノヲ云フヤ

答 執達吏ノ手傳人ヲ云フ

問 第三項適宜ニ賣却スルトアル以上ハ債務者債權者ノ承

諾ニテ代價ヲ定メ賣買シテ可ナルヤ

答 左様ノ事ハ決シテ爲シ得ヘカラス

問 債權者ハ競賣ニ立會自ラ入札シテ可然ヤ

答 然リ

第七十條

問 執達吏ハ差押物ヲ占有シテ役場へ持歸リタルトキハ何

レノ場所ニ於テ公賣スルヲ正當ナリヤ

答 債權者債務者ノ間ニ同意整ハサルハ執行裁判所ノ指

定ヲ求ムベシ

第七十一條

問 債權者債務者合意シタルハ必ス公賣期日ヲ後日ニ定

メサルヲ得サルヤ

答 一時猶豫セサルヲ得ス

問 公賣期日ノ通知ハ郵便ニ依ラスシテ執達吏送達ス可キ

ヤ

答 然リ

第七十二條

問 期日外トハ如何

答 競賣時刻ノ前ヲ指スモノナリ

問 評價ノ額并ニ金銀物ノ實價迄ニ買受クルモノナク其申

出價額ヲ調書ニ記シタル后ノ手續如何

答 第七十四條ニ依リ取扱フ可シ

問 實際ノ價額アル物件ナルモ競賣人ナキトキハ再度ノ競賣ヲ爲スモ尙望人ナキトキハ如何處分スルヤ

答 債主ニ於テ望ムトキハ競賣人トシテ債主ニ競落ス到底望人ナキトキハ無價物トシテ處分ス且細則七四條參照アルヘシ

第七十四條

問 金銀物ノ實價并ニ有價証券ノ相場ヨリ低價ノ競買人ノミナルトキハ如何

答 民事訴訟法第五八五條ニ依リテ他ノ方法ヲ以テ賣却スヘシ尤モ債權者債務者ノ合意整ヒタルトキハ假令低價ニテモ賣却スルヲ得ベシ

問 末項第三賣買ノ行爲ト履行方法トノ區別如何

答 賣買ノ行爲トハ競賣ノ方法ニ依ラス換價シタル方法仮

令ハ一已人ニ賣リタルコト等ヲ云ヒ履行方法トハ代金ト引換ヘニ物件ヲ引渡シタルコト等ヲ云フ

問 競賣價額ハ見積代價ノ半額ニ達セサルカ如キ場合ニ於テ競落セサルヲ得サルヤ

答 然リ

問 第三項入札拂ヲ爲シタルトキ代價不當ト見認メタル場合ニ於テハ再入札ヲ爲スヲ得ヘキヤ

答 爲スヲ得ス

問 最高札代價同價ノモノアルトキハ其モノニ付追價ノ入札ヲ爲サシムヘキヤ

答 然リ

第七十五條

問 有價証券ヲ買主ノ名前書換ノ手續ハ必ス裁判所ノ指揮ヲ得サル可カラサルヤ

答 必ス裁判所ニ申出テ其指揮ヲ受クルヲ要ス



問 民事訴訟法第五八三條ノ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止タルトキハ如何

答 盜難ニ罹リタル等一時流通ヲ妨ケタルヲ回復スル手續ヲ執達吏ニ爲サシムル如キヲ云フ

問 右裁判所ノ指揮ハ書面ヲ以テスルヲ要スルヤ

答 書面ヲ必要トス

第七十六條 問 第三項ノ時期トハ如何

答 仕拂ノ期限ナリ

第七十八條

問 第二項第二債權者カ全一ノ執達吏ニ委任シタルトキハ如何

答 尙ホ本條ニ準シ照査調書ヲ作クル

第八十四條

問 送達書裁判所ヨリ受取ルヘキモノカ

答 必ス受取ヘキモノニ非ス之ヲ渡スト渡サ、ルトハ裁判所ノ定メニ依ルヘシ

問 第二項送達證書ニ送達時刻ヲ記入スルハ本則第三五條ニ明示アル特別ノ規定ナルヲ以テ民事訴訟法第一五一

條ノ規定アルモ特ニ之ヲ記入ス可キ義ニシテ送達場所ノ如キハ記載ニ及ハサルヤ

答 然リ

第八十五條

問 轉付ノ命令トハ如何

答 民事訴訟法第六〇〇條ノ轉付ノ命令ナリ

第八十七條

問 競落保証金ヲ納メタル後チ競落金ヲ完納セサルヨリ其

競賣ヲ取消ス場合ニ於テ保証金ハ如何處分ス可キヤ

答 裁判所ニ差出ス可シ

第九十一條

問 家屋ノ引渡ニ付造作濟ト否ヤノ區別ハ如何シテ分ツヤ  
答 其地ノ習慣ニ依ル可シ

問 付屬物器具等ハ必ス判決中ニ明記シアルトキニ限ルヤ  
答 然リ

問 第七項ニヨリ保存物ヲ賣却スルトキハ手数料ヲ受ルヲ  
得ヘキヤ  
答 然リ

問 債權者ノ出頭ノ日當ハ與フヘキモノナルヤ  
答 然リ

問 住居セサル船舶ハ如何  
答 是ハ有体動産トシテ取扱フ可シ

問 調書條件第二其場所ニ現在スル付屬物器具ノ明細ハ引  
渡スヘキ物ノミヲ指シ引渡外ノモノハ調書ニ掲クル必  
要ナキヤ  
答 然リ

問 引渡スヘキ者ノミニシテ引渡外ノモノハ記スルニ及ハ  
ス

### 第九十二條

問 本條ノ執行ハ其手数料アリヤ  
答 ナシ

### 第九十三條

注意本條ノ拘引ハ刑事ノ勾引トハ大ニ異ナリ只引致ス  
ルニ止マリ若シ之ニ應セサルトキハ其旨ヲ復命スルノ  
ミ巡査ノ如ク威力ヲ以テ拘引シ得サルナリ

問 勾引途中ニ於テ足痛等ニテ歩行シ能ハサルトキハ車馬  
ヲ用ヒ其費用ハ執達吏ノ立替金トシテ辨シ置ク可キヤ  
答 然リ

### 第九十四條

問 費用トハ如何ナル費用ヲ云フヤ  
答 訴訟費用ヲ指ス

問 價格ノ減少ハ物質ノ減少モ包含スルヤ

答 物質ノ減少ハ隨テ價格ノ減少ヲ來スベシ

問 假差押ハ特定動産又ハ不動産ヲ目的トスル訴訟ニ就テハ爲スヲ得サルヤ

答 其場合ハ假處分ナリ

問 執達吏ノ取扱フヘキ假差押ノ執行ハ動産物ニ限ルカ

答 然リ

問 假差押命令ヲ爲シタル後チ十四日ヲ經過シタルトキ執行ノ出來サルハ總テノ假執行ニ適用スルヤ

第九十六條

問 供託スヘキ者ハ金錢ノミニアラサルカ

答 金錢及ヒ有價証券ニ限ル

問 裁判所ニ於テ本條ノ命令ヲ發スル場合如何

答 假令ハ民事ノ証人鑑定人等ニ過料ヲ言渡シタル場合ノ如ク凡テ裁判所ニ於テ徵收スヘキ場合ニ限ル

第九十七條

問 犯人管轄區裁判所トハ何レノ裁判所ヲ指スカ

答 執行裁判所ヲ云フ但本則第十七條參看

第九十三條

注意競賣ノ法ハ民法財産編百四條乃至百六條等ノ場合

ニ於テ不分財産ヲ分配スルニ當リテ關係人ヨリ委任セルトキ取扱フモノニテ只人民相互ノ關係ヨリ競賣ヲ委任サレタル如キハ職務トシテハ決シテ取扱フヘキモノニアラス

第九十五條

問 製表ノ書記料ハ徵收シ得ヘキヤ

答 然リ

第一百十一條末項

問 其證書ハ何レノ證書ヲ指スヤ

答 送達證書ノ如キ者ナリ

問 證書ノ原本謄本トモ所持セサル云々トアルニヨリ是レ

ハ此原本ヲ所持スル場合アル如シ如何

答 拒証書ヲ所持スル場合ノ如シ

第三節 執達吏事務傳習筆記ノ件

◎箕作司法次官演說筆記

執達吏諸君ガ今般職務練習セラル、ニ付御心得ノ一助ト存シ  
簡短ニ申述マス

抑裁判所ノ執行ト云コトハ即チ訴訟ノ結果テ有マス而シテ其  
訴訟書類ノ送達ハ訴訟ヲ完全ナラシムルノ一則チ訴訟進行ノ  
段階ノ如キモノテ有マス故ニ裁判ノ執行手續ガ不完全ナレハ  
其裁判ハ如何ニ良裁判テモ人民ノ權利ヲ伸張スル能ハサレハ  
即チ完全ノ段階ヲ經テ其結果モ亦完全ナルコトヲ希望致シマ  
ス唯形ノ上ニテ一方ハ敗訴トナリ一方ハ勝訴トナリテモ何ノ  
益ナキコトテ到底訴訟ノ順序正當ノ手續ヲ得サレハ遂ニ訴訟

手續ヲ充分ニ克ク完結スル能ハサルニ至ルノテ有リマス故ニ  
此執行ト云コト、送達ト云コト、ノ二者ハ訴訟上ニ於テ最モ  
必要ナルモノニシテ充分ニ責任且識見アル人ナシテ其職ニ任  
セサルヲ得ス現ニ歐米各國ニ於テモ苟モ裁判所ノ設置アル邦  
ハ其執行ト送達ノ二者ノ職務ヲ執ル可キ執達吏ノ設ケアラサ  
ルハ莫ク實ニ執達吏ナル者ハ裁判所ノ職員中ニ於テ判事檢事  
書記ト共ニ必要ナル職員テ有リマス然ルニ我帝國ニ於テハ維  
新後明治五年ヨリ漸次各地ニ裁判所ヲ設置セラレ司法ノ制度  
モ亦隨テ整頓シ猶其事務モ益多端ナルモ執達吏ノ如キ必要ナ  
ル公吏ヲ置カレス尤明治十九年ニ裁判所官制ヲ頒布セラレ執  
行吏ト云官ヲ設ケラレ其官制ノ第七條ニ「治安裁判所管轄區  
域内ニ執行吏ヲ置ク判任トスト有リ」又同三十九條ニ「執行  
吏ハ訴訟法治罪法及ヒ其他法律命令ノ定ムル所ニ依リ文書ノ  
送達及ヒ判決命令ノ執行ヲ掌ル」トアリ由是之ヲ觀レハ當時  
此官制ヲ設ケラレタル主意ハ今日ノ執達吏ヲ設ケラレタル意

ト同軌テアリ其ノ時ノ執行吏ハ今日ノ執達吏ト其職務ハ毫モ異ナル所ハアリマセシ矢張り各地ノ裁判所管内ニ於テ文書ノ送達ト判決ノ命令ヲ執行ナサシムル爲ニ設ケラレタノテアル然ルニ時ノ未タ熟セサルヤ遂ニ明治十九年ノ官制ニ由ル執行吏ハ謂ユル有名無實ニ歸シテ其職員ヲ置カス則チ民事裁判ノ如キニ至リテハ止テ得ズ司法部ノ範圍外タル行政官ヲシテ之ヲ執ラシメ即チ郡長若クハ區長戸長等ヲシテ其事務ヲ取扱ハシメラレタノテ有リマス然ルニ前ニモ申ス如ク元來司法部内ノ事務ヲ郡區長ノ如キ行政官吏ヲシテ執行セシムルハ勿論不都合テアリマスカ是止テ得サルヨリ其本務ニアラサル行政官ヲシテ執行セシメタノテ實際上如何ナル不都合カ出來タ歟ト云ハ、行政官吏ハ各其本務カアリマシテ其餘暇ヲ以テ本務外ノ事務ヲ執ル故カ兎角充分ナル執行ノ行爲ヲ辨スル能ハス或ハ之カ爲ニ執行ノ遅延ヲ來タスヲアリ或ハ敗訴者ヲシテ差押等ノ場合ニ財産ヲ藏匿セシムルカ如キ弊害ヲ生スルコトモ有

リシト云コトテアリマス其後マタ送達ノコトヲ司掌セシムル使丁ト云者ヲ置カレマシタカ前申ス如ク送達ノコトハ訴訟行爲ノ一部ニテ自カラ權限ヲ有シ且ツ送達ノコトニ付種々處置スルコトモアリ旁以テ重大ノ事務テアル故矢張り送達ノコトハ充分責任アルモノヲシテ本職ニ就カシメサルヲ得サル儀テ有リマス併シ兎ニ角今日マテ使丁ナルモノカ其職ヲ司掌シ來リマシタカ其モノ、中多クハ法律等ニ明ラカナラサル者アリテ屢々不都合ノ處置カアリシコトヲ聞キマシタ儲テ今日ニ至リ全國裁判所ノ模様ヲ通覽スルニ未タ人民ノ信用ヲ充分ニ得ルト云フコトヲ見認ルコトカ出來ヌト謂フ其原由ハ裁判ノ善惡ハ姑ラク措キ先ツ肝要ナル執行ト送達ト云フ二者ノ不完全ヨリ人民ノ信用ヲ得ル能ハサル所以ナラント考ヘマス此等ノ所以ニヨリテ今般執達吏ヲ置カル、コトコナリマシタ此ノ執達吏ノコトニ就テハ歐米各國其制度ヲ異ニシテ居リマス或ハ普通官吏トシテ國庫ヨリ一定ノ俸給ヲ與フルトカ或ハ

公吏トシテ其取扱カヒタル事務ニ付キ手数料收入ヲ以テ給料ニ代フトカ此ノ二者ノ中孰レカ宜キト云フコトニ付テハ歐米各國其取ル所ヲ異ニシテ居リマス併シ兩者ハ孰レモ一得一失アリテ吾ガ政府ニ於テハ手数料ヲ以テ俸給ニ充ルト云フ即チ手数料制度ヲ以テ是ト見做シ手数料ヲ以テスル公吏ヲ置カレタノテアリマス然ルニ前申ス如ク此ノ制度ニモ大ニ弊害カアリマス故可成的其弊害ヲ防止セサルヲ得サル譯テ今其弊害ヲ外國ノ例ニ付テ見レハ執達吏ハ利益ヲ貪ホル欲望ヨリシテ權利者ヨリ賄賂ヲ受ケ差押フヘカラサル物迄モ差押ヘ或ハ義務者ヨリ贈リ物ヲ貰ヒ執行期ヲ遅延セシメ或ハ無智ノ人民ヨリ法律規定外ノ手数料ヲ獲取スルカ如キ惡手段ヲ施コシ一時ニ巨萬ノ富豪家ト化スル者有リテ是カ爲メ執達吏ヲ人民カ蛇蝎視スルト云フコトヲ聞キマシタ吾國ニ於テ若シ斯ノ如キ弊害ノ起ルナレハ執達吏ノ信用ハ忽チ地ニ墜チ併セテ裁判ノ信用ヲモ害シ亦タ回復スル能ハサルニ至ルノ恐アリ

民事訴訟法ニ因レハ文書送達ノ如キハ總テ郵便ヲ以テ送達セシムトアレトモ方今未タ郵便法律ノ改革ナラサル以上ハ郵便ニ依リ送達セシムルコトハ行ハレ難シ先ツ以テ當分ノ内ハ總テ執達吏ヲシテ送達セシメタル、ノテ言ハ、送達ノ總轄者テアリマス加之執達吏ハ政府ノ保護スル所鮮カラス彼ノ一ケ年間得ル所ノ手数料百八拾圓ニ滿サルトキハ其不足額ヲ支給セラル可キ恩典アリ斯ノ如ク重要ナル職務ナルカ故ニ執達吏諸君モ一ハ國家ニ報ユルノ精神ヲ以テシ一ハ公義ヲ重ニスル念ヲ顯ハシ内ハ公平無私克ク權利者、義務者ヲ保護シ法律ノ精神ニ基ツキテ事務ヲ整頓シ外ハ前述ノ如キ弊害ヲ生セサルヤウ冀フ所テアリマス

執行事務上ノ手續キハ判事今村信行君ニ傳習ヲ命セラレシ故同氏ニ就キ御質疑ナサレ實際ノ場合ニ於テ誤謬ニ陥ラサルヤウ御研究アラシコトヲ望ミマス然シテ御歸廳ノ後ハ他ノ各執達吏諸君ニ對シ今回上京シテ研究ナサレシ諸君ヨリ懇篤御傳

ヘナサレ事務ノ滯滞ナカラシメサルヤウ致シ度ク然ルトキハ  
司法上ノ大慶ナルノミナラス國家ノ幸福ナルコト、存シマス  
此等ノ所ニ注意アツテ送達、執行ノ二者ヲシテ完全無缺ナラ  
シメ訴訟ノ完結宜シキヲ得ンコトヲ切ニ冀望スル所テアリマ  
ス

◎執達吏事務傳習筆記

明治廿三年十一月十七日午前十時五十分開始

判事 今村 信 行演述

諸君私ハ只今次官ノ演說セラル、通り諸君へ執達吏事務ヲ傳  
習スル様ニ命ヲ受ケマシタ依テ今日ヨリ順序ヲ追テ傳習致シ  
マス就テハ何分大勢ノ御人數故隨テ種々御質問モアリ自然錯  
雜相成リテハ不都合ニ付キ左ノ順序ヲ以テ傳習致シタイト思  
ヒマス此箇條ノ範圍ニ付テ全ク御話シテ終リマスレハ其範圍  
内ニ於テ質問アリタシ以下ノ各條モ其例ヲ用ヒマス御質問ノ

アルトキハ御銘々自己ノ番號ヲ呼ヒ起立シテ御質問相成タシ  
甲乙同時ニ起立者アレハ先ツ甲者ノ質問ヲ受ケ又甲ノ内ニ於  
テ同時ニ多數ノ起立者アレバ先ツ番號ノ若キ者ヨリ御質問ヲ  
受クルコトニ致シマス

第一 執達吏タル可キ者ノ性質

此執達吏タル者ノ性質ハ何テアルカト言フニ過刻次官カラノ  
演說中ニ述ヘラレタル如ク官吏ヲ以テスル制度ト公吏ヲ以テ  
スル制度ノ二種ノ別カアリマスカ我邦裁判所構成法ニ於テハ  
國庫ヨリ一定ノ俸給ヲ受クル所ノ官吏ノ制度ヲ採ラスシテ手  
數料ヲ以テ手當ニ充ル制度ヲ採リタル故其性質ハ公吏ト言ハ  
サルヲ得ス併シナカラ公吏ニモ種々ナル役員カアリテ公證人  
或ハ市町村長ノ如キ公吏アレ此執達吏ハ公證人等トハ違フ  
テ准官吏ト申シテモ宜シキモノテアリマス何トナレハ諸君モ  
御承知ノ通り執達吏規則第二十二條ニ依レハ『執達吏ハ此規  
則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ル』トアリ又第二十一條

ニ「官吏恩給法ニ照ラシテ恩給ヲ受ク」トアレハナリ而シテ  
 准官吏ノ性質アル者ナレハ如何ナル義務アリ如何ナル權利ア  
 ルカト言ヘハ義務ニ關シテハ彼ノ官吏服務規律ニ從ハサルヲ  
 得ス又不都合アレハ官吏懲戒令ニ依テ懲戒ヲ受ケナケレハナ  
 ラヌ又職務上犯ス所アレハ官吏瀆職ノ罪則チ刑法第二百七十  
 三條以下ノ刑ニ處セラル可シ又是ニ反シテ如何ナル利益アル  
 カト言ヘハ前ニ述ヘタル如ク官吏恩給法ニ依テ執達吏規則第  
 十九條ニ定メタル年俸百八拾圓ト看做シテ國庫ヨリ恩給ヲ受  
 クルノ利益アリ其他官吏ニ對スル罪例ヘハ執達吏ニ對シ人民  
 ヨリ侮辱ヲ爲スカ如キコトアレハ之ヲ告訴スル權利モアリ隨  
 テ官吏同様ノ待遇ヲ受クルモノテアル故ニ同シ送達ヲ爲スニ  
 モ從前ノ使丁ノ如キ無責任ノ者トハ大ニ違ヒマス故ニ諸君モ  
 平素執達吏ハ果シテ如何ナル性質ノ者カト云フニ宜シク御  
 注意アツテ官吏同様ノ務ヲ執ラナケレハナラス儲是ニテ第一  
 ノ箇條ノ御話ハ終リマシタカラ御質問アレハ御答ニ及ヒマス

乙四十七番問 執達吏ハ官吏ナレハ他ノ官吏ニ移ルトキハ

別ニ試験ヲ要セストモ宜シキカ

答 執達吏ハ官吏ニ准スルト云フモ眞ノ官吏トハ云ハサル  
 故法律ニ明文カ無キ以上ハ試験ヲ要スルモノト云ハサ  
 ルヲ得ス

乙四十七番問 判任ニシテ三年以上勤續セシ者ハ試験ヲ受

クルニ及ハストアリマスカ執達吏モ准官吏ナレハ三年  
 以上務メマシタナラハ試験ヲ要セスシテ移レマスカ

答 別段明文ナケレハ矢張り試験ヲ要スルモノト思考ス

乙四番問 執達吏規則第十一條第四項ニ依レハ執達吏ハ自

己ノ責任ヲ以テ判事及ヒ監督判事ノ適當ト認メタル者  
 ニ其職務ヲ委任スルコトカ出來ル様テアリアス是ハ現  
 ニ私共カ其事ヲ實行シテ居リマスカソレハ先日司法省  
 ニ身元金半額ヲ上納シテ執達吏ニナラントスル者ヲ置  
 キタリ其者等カ總テノコトヲ行フニ至ツテ矢張り總テ



ノ准官吏ヲ以テ適用ス可キカ

答 夫ハ官吏ニ准スル者ト看做スコトヲ得ス

乙四番問 臨時適當ト看認メラレタ其者カ其職務ニ付テ暴行ヲ加ヘラレタルカ又ハ妨害ヲ受ケタルカノ場合ニハ矢張り先刻ノ御話ノ通り法律上ノ官吏侮辱等ヲ以テ論スルコトカ出來マスカ

答 夫ハ出來マセヌ

甲十八番問 執達吏ハ官吏ニ准スルト云フ御話テアリマス  
カ此執達吏規則ノ第三條ニ執達吏ハ裁判所及ヒ檢事局ノ命令ニ依テ其職務ヲ施行スルノ義務アリト云フトキハ此義務ト云フコトハ元來官吏ニ准スルト云フヲ以テ手數料ヲ受ケスト云フ趣意テアリマスカ又ハ百八拾圓ノ年額ニ滿タサルトキニ國庫ヨリ補助スルト云フコトテアリマスカ此點テ裁判所及檢事局ノ命令ヲ施行スル義務アル者テアリマスカ

答 之レハ補助ヲ受クルノミナラス執達吏ハ裁判所構成法

ニ於テ裁判所職員ノ中ニ入レテアル故隨テ此等ノ義務ヲ負ハセシモノナラシ

甲十八番問 最一ツ伺ヒマス執達吏ハ裁判所ノ職員ニ入レ

テアルト云フコトテアマリスカ職員中ノ者ナレハ裁判所ノ定メタル休暇ニ依テ執達吏モ矢張り休暇中ハ執行事件ノ委任等ヲ受ケサルモ宜シキカ

答 休暇中ノ事ハ事務細則ノ中ニ掲ケテアリマスカ追々

御話シ致ス心得ナルカ執達吏ハ休暇ヲ賜ハル可キモノニアラサルモノトス

甲三十六番問 此執達吏ハ裁判所ノ職員トナツテ居ルト云

フコトテアリマスカ職員ト云ヘハ日々裁判所ニ詰メテ居ラテハナラント云フ譯テアリマスカ性質上カラ見レハ詰メテ居ルヘキ者ノ様ニモ思ハレマス或ハ役場ヲ設ケテ委任ヲ受ケルト云フノテアリマスカ

答 日々一度若クハ二度裁判所ニ出頭ス可キ性質ノ者テアリマス故ニ希クハ執達吏ノ詰所ヲ裁判所内ニ備ヘラレタイト思考スル所テアリマス

甲十七番問 執達吏ハ官吏ニ准スルコトハ只今承知致シマシタカ先達ノ天長節ノ場合ニハ彼ノ判任官ト同等ニ致シマスカ判任官カ祝日ニ奉賀ヲナセハ共ニ執達吏モ奉賀スヘキカ

答 夫等ノ事ニ就テハ若シ爲サ子ハナラシ様ナレハ司法省ヨリ別段達カアリマスカラ達カ無キ以上ハナサ、ルモ宜シカロウト思ヒマス併シ今日ハ事務傳習ノ範圍中ニ於テ執達吏ノ性質ノ御話ノミヲ爲ス譯ニテアリマスカラ其邊ニ至ルト御指圖ハ出來マセン

乙二番問 執達吏ノ代理者モ代理ヲ爲ス場合ニハ執達吏ノ行フ可キノ權限カアリマスカ

答 執達吏カ委任シタル事項中即チ委任ノ範圍内ハ同様ノ

權アリ

乙二番問 執達吏カ委任ヲシタ丈ケ限リテアリマスカ

答 委任サレタ丈ケハ有効ニ職務ヲ爲スコトカ出來キ而シテ其責任ハ執達吏カ負ハサルヲ得ス

乙二番問 夫ハ承知致シマシタカ例令ヘハ財産ニ係ル差押ノ場合テモ差押事件ヲ委任シタナラハ其事件ニ付テノ權限ハ固ヨリ持テ居ルニ相違ナイカ

答 左様併シ其事ハ差押ヲ爲ス事項ヲ御話申ストキニ詳シク述ヘマセウ

第二 執達吏ノ心得及ヒ官費ヲ以テ調製シ下附ス可キモノト執達吏ノ自費ヲ以テ調製ス可キモノトノ區別  
執達吏ノ心得ヲ一應御話センニ先刻次官ノ演說ノ通り執達吏ハ官吏ヲ以テスル所ト公吏ヲ以テスル所、則チ國庫ヨリ一定ノ俸給ヲ受クル官吏ヲ以テスル所ト手数料ヲ以テ其給料ニ充タル公吏ヲ以テスル所トノ區別アリ此得失ニ付テハ實際上種

々議論モアリテ一利一害ハ固ヨリ事物ノ常ナレトモ官吏ヲ以テスレハ爲メニ國庫ノ費用ヲ増スノ憂アリト云フ何故大ニ國庫ノ費用ヲ増スト云ヘハ縦令手數料ヲ取立テ之ヲ國庫ニ收納スルモ官吏トスルトキハ一般執務時間アル故ニ自然事務ヲ執ル時間短ク且ツ或ル事務ニ着手スルモ中途ニシテ執務時間經過スルトキハ翌日ニ之ヲ延ハスカ如キコトアル可キヲ以テ國家ノ經濟上ニ取リ官吏ノ制ハ不可ナリト云フ之ニ反シ手數料ヲ給料トスルトキハ成ル可ク事務モ迅速ニ運ヒ事件モ早ク完結スルニ至ル可シ果シテ事務ヲ速ニ完結スレハ其權利者義務者ニ於テモ大ニ時間ト費用ヲ省キ又國家ノ經濟上利益アル故ニ手數料ヲ以テスル制度ヲ採ラレタルモノナラシ然ルニ手數料ヲ以テスル公吏ヲシテ此送達執行ヲ爲サシムルニ付テハ亦大ニ弊ノ生スル恐アリト學者ノ難スル所ナリ其弊ヤ果シテ如何ナルモノカト云フニ手數料ノ制ナルトキハ事件ヲ澤山引受ケ多クノ利益ヲ得ント欲スル者アリト而シテ官吏ナレハ既ニ

一定ノ俸給ニ止マルカ故右ノ患ナシト雖モ公吏ハ其收入カ一定セサルヲ以テ頗ル多クノ事件ヲ取扱ヒ無理ナル事務ヲ處便シ又ハ謂ハレナキ利ヲ得ントスルカ如キ弊ヲ生シ易シト云ヘリ例令ハ裁判官又ハ檢察官ヨリモ俄ニ蓄財家ト爲リ爲メニ人民ヲシテ疑念ヲ起サシムル者アリ彼ノ佛蘭西ベルヂツク等ハ手數料ノ制ヲ採リ獨逸ノ如キハ各邦其制ヲ異ニシテ普魯西ハ手數料ノ制ヲ採リサクソソハ國庫ヨリ一定ノ俸給ヲ給スル官吏ヲ用ユト而シテ官吏ノ制度ハ別ニ弊ヲ聞カサルモ普魯西ニテハ執達吏ヲ俗ニ水蛭ト云ヒ則チ人民ノ血ヲ吸フ者ト云フ意味ニテ大ニ之ヲ蛇蝎視スルノ弊アリ故ニ獨逸ノ學者タル判事トモ我國ニ於テハ矢張り經濟上ノ點ヲ重シ手數料ノ制ヲ採ラレタレトモ其方法ノ宜シキヲ得ハ強チ其弊ヲ生スルモノニモ非サル可シ然レトモ若シ一朝人民ヨリ執達吏ヲ彼ノ水蛭ノ如

ク看做サル、様ナ惡弊ニ陥ルトキハ容易ニ回復セシムルコト  
ヲ得サルノミナラス其害ヤ亦大ニシテ隨テ裁判上ノ信用ニモ  
關係ヲ生スル故云フマテモナキコトナカラ其邊ノ所ニ御注意  
アリテ法律上收入ノ多キハ結構ナレトモ前陳ノ如キ怪ミヲ受  
ケルカ如キコトナキ様取分ケ德義ヲ重スルコトニ御注意アラ  
シコトヲ希望ス

又職務ニ付テ強制執行ヲ取扱フコト多數アリ強制執行ノコト  
ハ固ヨリ文字ノ如ク權制シテ執行ヲ爲シ得ヘキコトハ勿論ナ  
レトモ實際上成ル可ク威力ヲ濫用セスシテ頗ル穩和ナル處置  
ヲ以テ事務ヲ完結スルコトヲ務メラレシコトヲ望ム

執達吏ノ取扱フモノニシテ官ヨリ調製シテ下附ス可キモノト  
執達吏ノ自費ヲ以テ調製ス可キモノト區別シテ御心得マテニ  
御話セシニ

官費ヲ以テ調製ス可キモノ左ノ如シ

一 官印

二 鑑札

三 書函

執達吏ヲ設ケラレタルニ付テ官費ヲ以テ調製シ下附ス可キモ  
ノハ差向キ右ノ三種テアル併シ第三ノ書函ハ執達吏ノ役場ニ  
備置ク書函ニ非ラスシテ是ハ裁判所ノ書記課ニ執達吏ノ爲メ  
ニ設ケ置ク書函ヲ云フモノナリ而シテ裁判所書記ト執達吏ト  
ノ間ノ書類ノ授受方法ハ此書函ノ中ニ入レテ授受ヲ爲サシム  
ルノ精神ナリ又其函ノ作り方ハ書架ニスルカ又ハ置据函ニス  
ルカハ各裁判所ノ適宜ニ設ケテ宜シ然レトモ執達吏ノ數名ア  
ル場合ニ於テハ何レ件數ヲ土地ノ區域ニ依リ割ラサルヲ得サ  
ル故書函モ其區別ヲ爲シ書記ハ何ノ事件ハ甲ノ執達吏ノ函ニ  
入レ又或ル事件ハ乙ノ執達吏ノ函ニ入ル、ト云フカ如キ手續  
ヲ爲サ、ル可カラス而シテ此等ノ執達吏ハ銘々其鍵ヲ所持シ  
又書記モ鍵ヲ所持セサルヲ得ス而シテ書記ハ錠ヲ堅ク締メテ  
置ケハ執達吏ハ郵便函ヲ開クカ如ク鍵ヲ以テ自分ノ函ヨリ書

類ヲ出シ是ヲ以テ書記ヨリ委任ヲ受ケタルモノト看做ス精神ナリ

執達吏ノ自費ヲ以テ調製ス可キモノ左ノ如シ

一 制服

二 封印

三 金錢、書類、物品等ヲ貯藏スル爲メノ堅牢ナル建物（之ヲ有スルカ若クハ借置）

四 諸帳簿

自費ヲ以テ調製ス可キモノハ差向キ右四種ナリ此内第一ノ制服ハ執達吏規則第十四條ニ依テ制服ヲ着用セサル可カラス又封印ハ執達吏職務細則第十五條ニ依リ之ヲ必要トス又建物ハ公證人ト同様必要ノモノニシテ此事ハ執達吏職務細則第十條ニアル如ク必シモ自己ノ所有物タルコトヲ要スルニ非ラス若シ自身カ如此建物ヲ有セサルトキハ他人ノ十藏又ハ之ニ類スル堅牢ナル建物ヲ借置クコトヲ要スルニ在リ此堅牢ナル建物ヲ

要スル所以ハ高價物ヲ差押ヘ例ヘハ金銀物又ハ公債證書等ヲ差押ヘ所有者ノ占有ヲ引離シテ執達吏カ之ヲ占有セサルヲ得ザル故之ヲ自宅ヘ持歸リテ堅固ニ保存セサレハ或ハ盜難、火難等ノ患ナキヲ保シ難ク然ラハ差押ヲ受ケタル者ノ不安心ノミナラス公益上ヨリ論スルモ之ヲ輕忽ニ付ス可キモノニアラサレハナリ

又執達吏ノ職務ニ關スル諸帳簿ハ自費ヲ以テ作ラサルヲ得サルコトハ固ヨリ當然ノコトナリ而シテ此帳簿ノ作成方法ハ追テ書式ヲ御回シ申シ夫ニ就テ御話ヲ致サントス是ニテ第二ニ付テノ御話終リタレハ御不審ノ廉御質問相成ダシ

乙 一番問 封印ノ文字ニハ定メカアリマスカ

答 別ニ定メハナシ

甲 二十二番問 執達吏ノ職務ニハ強制執行等種々アリテ度

々裁判所へ出席スル場合アリ或ハ往復交通ノ場合モアリ隨ツテ役場ノ設ケモ必要ナル位故又役場印等ノ必要

モアラシ此場合如何

答 官印ノ外役場印ハ用ヒズ

乙三十四番問 執達吏ノ事務ヲ取扱フコト未タ日淺キ故職務細則上ノ事モ精ク分リマセン而シテ今日マテハ各所トモ書類ノ受授方異ナリ居リテハ或ハ是非執達吏カ裁判所へ詰メ居ルカ又ハ書類ヲ受取ル時ハ其都度出頭シテ受取ル様定メタル所アリ又遞附録ニテ小使ヲ以テ事務所ニ送附スル様定メタル所モアリ如此コトハ各執達吏ト裁判所トノ協議ニ任セラル、カ

答 裁判所ニ永ク詰メテ居ルカ如キコトヲ避クル爲メ書函ヲ作ルコトカ要用ナリ而シテ送達書類ヲ書函ニ納レ置ケハ執達吏ハ定時ニ往キテ其函ノ錠ヲ開ケテ書類ヲ持チ來レハ其裁判所ニ永ク詰メ居ルノ必要ナシ

乙三十四番問 服制ノコトハ代理人ヲ使フ場合ハ其代理人ノ服制ト云フモノ、規定ナキガ各勝手ニスルモ差支ナ

答 然リ

キカ

乙三十五番問 執達吏カ當事者其他關係人ノ求ニ應シテ記録ノ謄本ヲ作ルカ又ハ差押ノ場合ニ於テハ調書又ハ物品ノ目錄ヲ作ルコトアリ此場合ニ於テ筆記スル所ノモノハ誠ニ訴訟上貴重ナル證據テアリマスカ之ニ用フル所ノ用紙ハ裁判所ノ用紙ヲ用ユルカ又ハ執達吏役場ノ用紙ヲ用ユルカ

答 執達吏ノ役場用紙ニテ宜シ

甲十八番問 執達吏ノ差支アル場合ニ於テハ裁判所書記カ執達吏規則第二十三條ニ依テ執達吏ノ職務ヲ行フトアリ此場合ニ於テハ手数料其他ノ事ヲ帳簿ニ記載シ又ハ官印等ノ使用方ハ如何ニシテ宜シキカ

答 執達吏ノ職務ヲ書記ノ行フ場合ハ變則ナル故書記ノ印ヲ用非テ可ナラン

甲三十四番問 只今代理人ノ服制ハ勝手ニスルモ差支ナキ

様御示シアリシカ袴羽織ヲ着用セストモ宜シキカ

答 其邊ニ付テハ何モ制裁ナシ

乙十九番問 用紙ニハ一般ニ官廳又ハ裁判所ノ廳名ヲ摺込

ミアリシカ執達吏ノ名ヲ入ル、モ差支ナキカ

答 別ニ差支ナシト思考ス

丙十二番問 今一應、役場印ハ總テ捺ヘルコトハナシト云

フコトナリヤ

答 總テノ場合ニ官印ノミヲ用ユレハ別ニ役場印ノ必要ナ

カル可シ

丙十二番問 代理人カ職務ヲ行フトキハ其代理人ノ實印ヲ

押捺セハ夫レニテ公正證書ノ用ヲ爲スト思考シテ宜シ

キヤ

答 然リ

乙十番問 執達吏ノ官印ハ固ヨリ官費ナリ而シテ執達吏ハ

始終携帶シテ職務ヲ取扱フ義ナレトモ若シ不在ノ節役  
場ニ於テ罰金科料等ヲ徴收スルトキ領收證ヲ差出ス場  
合ニハ一箇ノミニテハ差支ヲ生ス故ニ請求ニ依テハ二  
箇以上下附セラル、カ

答 一箇ヨリ外ハ下附セス若シ不在ノ時ハ假證ヲ差出シ可  
然ト思考ス

甲四十七番問 自費ヲ以テ調製スル帳簿ハ若シ執達吏ノ退  
職シタルカ又ハ病死シタル場合アルトキハ其帳簿ハ裁  
判所ニ取上ラル、カ又ハ自費ニテ作りタルモノナレハ  
當然己ノ物トシテ宜シキカ

答 執達吏規則第二十條ノ場合ニ於テ總テ裁判所ニ届出サ  
シム可シ

甲四十一番問 服制ノ制限カナキ故雨天ニハ外套ヲ用ユル  
モ宜シキカ

答 然リ

第三 執達吏ノ特ニ研究ス可キ法規

今日ハ第三ノ執達吏ノ特ニ研究ス可キ法規ノコトヲ御話セシ  
ニ執達吏ハ裁判所書記トハ大ニ異ナリ獨立シテ事務ヲ執ラサ  
ルヲ得サル場合數多アリ假令ハ強制執行ニ至テ不動産船舶ノ  
強制執行ハ區裁判所判事ノ指揮ヲ受クルト雖モ動産ノ強制執  
行ニ至テハ判事ヨリ直接ニ指圖ヲ受クルコトナク權利者ヨリ  
直チニ委任ヲ受ケ獨立シテ執行ヲ爲サ、ル可カラス此場合ニ  
於テハ書記トハ違ツテ判斷力ヲ以テ處分ヲ爲シ事務ヲ完結セ  
サル可ラス又送達ノコトニ付テハ書記ノ指圖ヲ受ク然レトモ  
其送達施行ノ地ニ就テハ已レ一人ニテ判斷シテ施行セサルヲ  
得ス故ニ法律ヲ研究シテ居ラサレハ時ニ違法ノ處置ヲ爲シ折  
角取扱ヒタル手續モ無効ニ歸スルカ如キ結果ヲ生ス是ヲ以テ  
左ニ必要ナル法律丈ケ拔萃シテ御話シ置ン

イ 裁判所構成法

此裁判所構成法ハ明治廿三年二月八日ノ法律第六號ヲ以テ公

布セラレ既ニ本月一日ヨリ實施セラレツ、アル此構成法ノ中  
第九條、第九十四條乃至第百條ヲ研究セラル、ヲ要ス

ロ 民事訴訟法

此民事訴訟ハ明治廿三年三月二十七日ノ法律第二十九號ヲ以  
テ頒布セラレ明治廿四年一月一日ヨリ施行セラル、モノナリ  
實ハ刑事訴訟法ハ既ニ今日實施セラレ居ル故ニ之ヨリ御話シ  
スルガ順序ナレトモ此執達吏ノ最トモ多ク研究ヲ要スル法律  
ハ民事訴訟法ナリ而シテ刑事訴訟法ニハ民事訴訟法ノ規定ニ  
從フトアリテ皆民事訴訟法ニ讓テアル故取分ケ民事訴訟法ニ  
ハ研究ス可キ箇條多シ而シテ此民事訴訟法ハ總則ヨリ一般ニ  
知ラサル可ラサルモノナレトモ何分八百條餘ニモ涉リテ中々  
研究スルコトハ容易ニアラサルヲ以テ就中注意ヲ要スル條項  
ハ第百三十六條乃至第百五十八條、第二百九十四條、第四百九  
十七條乃至第七百六十三條ノ規定ハ執達吏ノ事務取扱上直接  
ノ關係ヲ有スルモノナレハ特ニ研究セラレシコトヲ望



(ハ) 刑事訴訟法

此刑事訴訟法ハ明治廿三年十月六日ノ法律第九十六號ヲ以テ公布セラレ既ニ本月一日ヨリ實施シツ、アルモノナリ而シテ此法律中ニ於テハ第十九條、第七十六條、第八十四條、第三百十四條、第四百四十一條、第三百二十條及ヒ第三百二十三條ヲ研究セラレノコトヲ望ム

(ニ) 刑法附則

此刑法附則ハ明治十四年十二月十九日ノ布告第六十七號ヲ以テ公布セラレタリ然レトモ今般民事訴訟法及ヒ刑事訴訟法ノ公布アリタルニ付キ改正ヲ要スルノ廉生シ明治廿三年十月八日ノ法律第二百二號ヲ以テ改正セラレタリ則チ刑法附則ノ中第四十九條ヲ改メ此改正シタル所ハ其儘ニシテ置クモ同法第二十條、第四十八條乃至第六十三條ハ重モニ執達吏ニ關係アル條項ナリ

(ホ) 執達吏規則

(〜)(ト) 執達吏手数料規則

(ト) 執達吏登用規則

次ハ執達吏規則ナリ此等ノ規則ハ別ニ御話スル程ノモノニアラサレトモ先ツ順序ナレハ贅言ナカラ述ヘンニ此規則ハ明治廿三年七月二十四日ノ法律第五十一號ヲ以テ公布セラレ又執達吏手数料規則ハ明治廿三年七月二十四日ノ法律第五十二號ヲ以テ公布セラレ次ニ執達吏登用規則ハ明治廿三年八月一日司法省令第二號ヲ以テ公布セラレタリ右三規則ハ殘ラス研究セラレノコトヲ望ム

(チ) 民事訴訟費用法

(リ) 民事訴訟用印紙法

次ニ民事訴訟費用法ハ明治二十三年八月十五日ノ法律第六十四號ヲ以テ公布セラレ明治二十四年一月一日ヨリ實施セラル、モノナリ次ニ民事訴訟用印紙法ハ明治二十三年八月十五日

ノ法律第六十五號ヲ以テ公布セラレ同シク明治二十四年一月一日ヨリ實施スルモノナリ而シテ此等ノ規則ハ執達吏ニ於テ殘ラス研究ヲ要スルト云フニハ非サレトモ大體ニ付テハ研究シ置カノコトヲ望ム

(ヌ) 商事非訟事件印紙法

次ハ商事非訟事件印紙法是ナリ明治二十三年八月十五日ノ法律第六十六號ヲ以テ公布セラレ明治二十四年一月一日ヨリ實施スルモノナレハ大體ニ就テハ御承知アリタシ

(ル) 行政裁判法

(ヲ) 陸軍々法會議私訴裁判強制執行法

次ニ此行政裁判法ハ明治二十三年六月二十八日ノ法律第四十八號ヲ以テ公布セラレ既ニ今日實施シツ、アルモノナリ而シテ此法律ニ付テハ第二十一條ヲ研究セラレシコトヲ望ム次ニ陸軍々法會議私訴裁判強制執行法ハ明治二十三年八月十五日ノ法律第六十七號ヲ以テ公布セラレタリ而シテ此強制執行法

ハ全文ノ研究ヲ要ス尤モ此行政裁判法ト陸軍々法會議私訴裁判強制執行法ハ行政裁判所又ハ陸軍々法會議所ヨリ直接ニ執達吏ニ委任セラレ、モノニアラス即チ執行裁判所へ依頼シテ執行裁判所ノ命ニ依テ委任スルモノナリ

(ワ) 供託規則

次ニ此供託規則ハ明治二十三年七月二十五日ノ勅令第四百四十五號ヲ以テ達セラレタリ之ハ明治二十四年一月一日ヨリ實施セラレ、モノナリ

(カ) 商法

次ニ商法ハ明治二十三年四月二十六日ノ法律第三十二號ヲ以テ公布セラレ明治二十四年一月一日ヨリ實施セラレ可キモノナリ而シテ此法律中ニ於テハ第二百十二條以下又ハ第七百九十條乃至第七百九十八條第千十八條等ノ條項ニ付キ研究セラレタシ

(ヨ) 民法

次ニ民法ハ兩度ニ公布セラレタリ而シナカラ重モニ執達吏ニ必要ナルハ明治二十三年四月二十一日ノ法律第二十八號ヲ以テ公布セラレタル法律則チ明治二十六年一月一日ヨリ實施セラル、法律中財産編ニ於テハ第四百四十四條以下第七百七十六條、第七百七十七條及ヒ第四百七十四條乃第四百七十八條財産取得編ニ於テハ第四百四條乃至第六條等ノ數條ヲ研究セラレタシ併ナカラ此法律ハ明治廿六年ノ一月一日ヨリ實施セラル、モノナリ

増價競賣法

辨濟提供規則

裁判所代位法

次ニ増價競賣法ハ明治二十三年十月三日ノ法律第九十二號ヲ以テ公布セラレ明治廿六年一月一日ヨリ施行セラル、モノナリ次ニ辨濟提供規則ハ明治廿三年十月八日ノ勅令第二百十七

號ヲ以テ定メラレ明治廿六年一月一日ヨリ施行セラル、モノナリ次ニ裁判所代位法ハ明治廿三年十月三日ノ法律第九十三號ヲ以テ公布セラレ明治廿六年一月一日ヨリ施行セラル、モノナリ

財産委棄法

民事訴訟法補則

次ニ財産委棄法ハ明治廿三年十月三日ノ法律第九十四號ヲ以テ公布セラレ明治廿六年一月一日ヨリ實施セラル、モノナリ又民事訴訟法補則ハ明治廿三年十月八日ノ法律第百四號ヲ以テ公布セラレ明治廿六年一月一日ヨリ實行セラル、モノナリ

家資分散法

次ニ家資分散法ハ明治廿三年八月二十日ノ法律第六十九號ヲ以テ公布セラレ明治二十四年一月一日ヨリ施行セラル、モノナリ

公證人規則

次ニ公證人規則ハ明治十九年八月十一日ノ法律第二號ヲ以テ公布セラレ今日既ニ實施セラレツ、アルモノナリ  
先ツ特ニ研究セラル可キ法律トハ右ニ序述セシモノナリ而シテ民法ヨリ以下ヨダレソツ子ハ何レモ明治二十六年一月一日ヨリ實施セラル、モノナレトモ固ヨリ執達吏事務ニ關係ヲ有スルモノナレハ今日ヨリ研究シ置レソトヲ希望ス併シナカラ今日既ニ實施セラレツ、アリ又ハ明治二十四年一月一日ヨリ實施セラル可キ諸法律ニ付テハ特ニ今日研究セラル、ノ必要多カラシテ此事ニ付テハ別段ニ御質問モナカラント思考スレハ次項ニ移リ御話セン

第四 執達吏ノ一般ノ職務即チ職務ノ總則

執達吏職務細則ノ總則ニ付キ御話ヲセンニ先ツ執達吏ノ最モ研究セサル可ラサル法律ハ第三ニ於テ十分御話致シタレトモ執達吏ノ職務ヲ行フ上ニ付テハ第一條ニアリタル如ク裁判所構成法及民事訴訟法刑事訴訟法ト此執達吏職務細則トノ規定

ニ依リ職務ヲ行フトキハ概テ差支ナク就中執達吏職務細則ハ總テノ手續ヲ網羅シアルヲ以テ此細則中ニテ數多ノ法律ニ定メアルコトハ見出シ得ラル、筈ナリ是ヲ以テ職務ヲ實行セラル、トキハ常ニ此細則ヲ携帶シテ居レハ間違ナカラシ

第二條ハ職務ヲ施行スルニ付テノ管轄ナリ其管轄區ハ裁判所構成法第九十七條ニ定メタル如ク執達吏ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄内ハ何レノ地ヲ問ハス送達ヲ爲スコトヲ得又強制執行ヲ爲スコトヲ得可キモノナリ例令ハ東京ノ下谷區裁判所ノ所屬ノ執達吏ハ東京地方裁判所管轄内ハ築地區裁判所管轄内ニ往キ送達ヲ爲シ又ハ強制執行ヲモ爲スコトヲ得ルカ如キ類ナリ然レトモ執達吏規則第七條ノ規定ニ依レハ執達吏ノ數名アル場合ニ於テハ其執達吏ヲ監督スル區裁判所ノ判事カ司法年度ノ代リ目毎ニ分配ノ方法ヲ定ムルモノトス其分配ハ裁判所及ヒ檢事局ノ命令ニ依ル事務則チ執達吏規則第三條ニ依ル所ノ職務又ハ人民ヨリ委任スル所ノ裁判所書記

ヲ經テ送達スル事務トヲ問ハス其分配ノ法ニ從ハサルヲ得ス而シテ其分配ノ方法ハ或ハ土地ノ區域ニ依リ又ハ事件ノ種類ニ依ルカ如キ方法アレトモ執達吏規則第七條ノ規定ハ成ル可ク土地ノ區域ニ依リテ分配スルヲ可トスルノ精神ナリ一例ヲ舉レハ横濱地方裁判所管轄内ニ横濱區裁判所ト小田原區裁判所ト八王子區裁判所トノ三ヶ所アルト假定シ横濱區裁判所執達吏二人小田原區裁判所ニ二人八王子區裁判所ニモ二人アル場合ニ於テ土地ノ區域ニ依テ分配ヲ定ムルモノトセハ横濱二人ノ中一人ハ横濱居留地ト小田原區裁判所管轄内ヲ受持トシ他ノ一人ハ横濱居留地外ト八王子區裁判所管轄内ヲ受持トス又小田原區裁判所ノ執達吏二人モ其中ノ一人ハ小田原區裁判所管轄内ノ南部ト八王子區裁判所管轄内ヲ受持トシ一人ハ同區裁判所管轄中ノ北部ト横濱區裁判所管轄内ヲ受持トシテ八王子區裁判所ノ執達吏二人モ亦之ニ倣フ執達吏規則第二條ノ規定ニ依ル事務ハ人民カ直接ニ執達吏ニ

委任スルヲ以テ其區裁判所ノ判事ノ定ムル所ノ分配方法ニ依ルノ限ニアラス又強制執行(民事訴訟法第五百六十四條以下)ニ付キ當事者ヨリ委任ヲ受ケタル場合ニ於テモ亦右ノ分配方法ニ依ルモノニアラサルヲ以テ是等ノ場合ニ於テハ裁判所構成法第九十七條ノ規定ニ從ヒ其地方裁判所管轄内ハ何レノ地ニ於テモ職務ヲ行フコトヲ得ルモノナリ

第三條執達吏ハ官廳又ハ官吏ヨリ委任ヲ受ケタルト人民ヨリ委任ヲ受ケタルトヲ問ハス此執達吏規則第八條ニ掲クル所ノ職務施行ヨリ除外セラル、モノトス故ニ此場合ニ於テハ其職務ヲ避ケサル可ラス若シ執達吏規則第八條第一ヨリ第三ニ至ル場合ニ於テ職務ヲ行フタルトキハ其職務ハ無効ニ歸スルノ結果ヲ生ス而シテ其職務ノ施行ヨリ除外セラル、ト云フハ尙ホ復言セハ法律上職務ヲ執ルコトヲ退ケラル、精神ナル故縱令裁判官等ノ許可ヲ受クルモ其職務ヲ執ルコトハ法律ノ許サ、ル所ナリ

第四條 執達吏ハ委任ヲ受ケタル後ニ法律上ノ理由例令ハ前ニ述ヘタル職務ノ施行ヨリ除外セラルルカ又ハ事務分配法ニ依リ他人ノ管轄ニ屬スルト云フカ如キ理由ニ依リ職務施行ニ差支ヲ生シタルトキハ執達吏規則第十二條ノ規定ニ依テ其職務ヲ行フコト能ハサル旨ヲ速ニ其裁判所若クハ檢事局又ハ委任者タル本人ニ通知セサル可ラス而シテ事實上ノ理由則チ法律上職務ヲ執ル能ハサルニ非スシテ例令ハ病氣ニ罹リシカ又ハ他ノ爲メニ其委任ヲ受ケタル職務ヲ執ルコトヲ得サルカ如キ場合モ亦法律上ノ理由ニ因リ差支ヲ生シタルトキト同様ノ手續ヲ爲ス可キモノトス

第五條 執達吏カ委任者又ハ裁判所書類ヲ受取ル可キコトニ關スル手續ヲ御話セン茲ニ云フ所ノ委任者トハ裁判所又ハ檢事局ヨリ職權ヲ以テ命スルモノ、外人民ヨリ直チニ委任スル者ヲ云フ此等ノ人民ヨリカ又ハ裁判所書記ヨリ執達吏ニ職務ヲ施行スルコトニ付キ書類ヲ渡シタルトキニ口頭ヲ以テ委任

シタレハ其委任ハ書面委任ニ非ラスト雖モ其職務ヲ行フニ付テハ十分ナル効力ヲ有スルモノトス是民事訴訟法第六十四條ノ規定ニ於ケル訴訟委任トハ異ナレルモノナリ訴訟委任ハ書面ヲ以テ之ヲ證ス可シトアリ例令本人自ラ訴訟ヲ爲サスシテ他人ニ訴訟ヲ委任スルトキハ總テ書面ヲ以テスルヲ通例トス然ルニ執達吏ニ付テハ書記ヨリ書類ヲ渡シタルトキハ勿論人民ヨリ書類ヲ渡サレサルトキト雖モ口頭ヲ以テ委任ヲ受ケタルトキハ十分効力ヲ有スルモノト看做ス之レ執達吏ハ此委任ヲ受ケテ送達及ヒ執行ヲ爲スヲ專ラトスル吏員ナルカ故別ニ怪ム可キモノニ非ラス何トナレハ保證金マデモ出サシメ且官吏ニ准スル確實ナル者ナレハナリ而シテ裁判所又ハ檢事局ヨリ命シタル事件トハ則チ執達吏規則第三條ニ定メタル所ノ事件ナリ又裁判所書記ハ裁判所若クハ檢事局ヨリ命スル事件ナルト民事訴訟法第三百三十六條ニ定ムル所ノ事件ナルト其他刑事訴訟法等ニ定ムル所ノ事件ナルトヲ問ハス職權ヲ以テ之ヲ

執達吏ニ取扱ハシムルモノトス其裁判所書記ト執達吏トノ職務上ノ交通ノ手續ハ裁判所書記職務章程中ニ之ヲ定メラル、モノトス併ナカラ茲ニ一應注意ス可キコトハ今日ハ此裁判所書記職務章程ナルモノ未タ設定セラレサル故他日設定セララルニ當リ或ハ書記規則ト云フカ如ク其名稱ヲ改メラルモ計リ難シ兎ニ角此裁判所書記ニ關スル規則ヲ定メラル可キ筈ナルヲ以テ該規則ノ設ケテラレタル上ハ其規則ニ從ハサルヲ得ス此執達吏職務細則ヲ設ケラレシトキマテニ未タ書記ニ關スル規則ノ確定セサルヲ以テ先ツ職務章程ト假稱スルニ過キス右書記ノ職務章程(或ハ書記規則)中ニ定メラル可キ事項ハ蓋シ左ノ如クナラシ

書記ト執達吏トノ委任授受ニ付テハ成ル可ク口頭ニテ之ヲ爲ス可シ直チニ取扱ヲ要スル委任事件ハ廷丁ヲ以テ執達吏ニ交付シ其他ノ委託ハ書函ニ差入ル、ヲ以テ之ヲ爲ス、書記及ヒ執達吏ハ各其書函ノ鍵ヲ持ツ可キモノトス、書函ハ委任ニ關

スル書類ヲ差入ル、爲メニ書記課中ニ之ヲ設ク、書記ハ委任ニ關スル書類ヲ書函ニ差入ル、トキハ正當ノ區別ヲ爲シ置ク可シ例令ハ官ノ委任ニ依ル送達又ハ當事者ノ委任ニ依ル送達、交付、強制執行ノ類、又執達吏ハ定マリタル時間ニ書記課ニ出頭シ委任ニ付キ取扱ヒタル報告ヲ爲ス可キモノトス、而シテ書記ト執達吏トノ委託授受ニ付テハ書面ヲ以テ證スルコトトキ要セス若シ之ヲ要スルトキハ書式第何號ニ從ヒ送達執行委任授受法ヲ設ク可シ而シテ委任授受法ヲ用ユルトキハ委任書類ニ其帳簿ヲ添ヘ書函ニ差入ル可シ、委任授受ハ即時ニ取扱フヲ要スルノ外、毎日一定ノ時間ニ之ヲ爲ス可シ右ノ如キ規定ヲ書記職務ニ關スル規則中ニ設ケラル、ノ計畫ナル故ニ此職務章程ナル語ハ未確定ナリ又官廳ノ職權ヲ以テ命ス可キ事柄ニ關スル委任ト又ハ當事者カ裁判所書記ヲ經テ爲ス委任等モ其授受ノ方法ハ執達吏ノ屬スル區裁判所ニ於テ定ムル細則ニ從ハサルヲ得ス例令ハ或ル區裁判所ニ於テハ遞

附録ヲ用ユルカ又ハ用ユルニ及ハス杯云フカ如キコトニ付テハ其裁判所ノ定ムル所ノ細則ニ從ハサルヲ得サルモノトス前ニモ述ヘタル如ク書函ヲ書記課中ニ設ケラレタルトキハ送達書類ヲ書記ガ其中へ差入タルトキハ最早口頭ヲ以テ委任セヨト云フ原則ニ從フト同然最早委任ヲ受ケタル者ト同一ニ看做ス可キモノナリ其函ノ作り方ハ書記ト執達吏ト談シ合ヒテ如何ナル函ヲ作ルカ便利ナルカ書記ノ方ニモ鍵ヲ持チ執達吏ノ方ニモ鍵ヲ持タサルヲ得サル故其都合ヲ計リ函ヲ作ル可キモノトス

第六條 執達吏ハ官廳ヨリ委任ヲ受ケタルト人民ヨリ委任ヲ受ケタルトナ問ハス總テ其事件ヲ延滞セス速ニ完結ス可キモノトス又職務上期間ヲ定メアルトキハ是非其期間内ニ完結スル義務アリ其期間ヲ定メタルモノトハ例令ハ本則第二十三條ニ送達書類ヲ受取タルトキハ二十四時内ニ送達ヲ爲ス可シ云々遅クトモ三日ヲ過ク可カラストアルカ如キ場合ヲ云フ若シ

其期間内ニ之ヲ爲スコトヲ得サル正當ノ差支アル場合ニハ成ル可ク早ク代理人ノ任命ヲ裁判所へ求メサル可ラス而シテ正當ノ差支トハ前ニ述ヘタル如ク病氣ニ罹リタルト云フカ如キ場合ナリ又執達吏ハ總テノ事件順序則チ受付タル其順序ニ依テ完結ス可キモノナリ若シ其間ニ任意競賣ノ委託ヲ受ケタルトキ則チ執達吏規則第二條ノ第二號及ヒ本則第一百三條乃至第一百六條ノ場合ニハ順序ニ拘ハラヌ之ヲ後ニ廻シテ取扱フ可キモノトス

第七條 日曜日及一般ノ祝祭日ニハ通例職務ヲ施行スルコトヲ得サルモノトス何故職務ヲ執ルコトヲ得サルカト云フニ日曜日及一般ノ祝祭日ハ人民ノ休息スル日並ナルカ故此場合ニ執達吏ガ職務ヲ施行ヲ施行セシカ人民ノ安寧ヲ害スルヲ以テ職務ヲ執行セサルヲ常トス茲ニ一般ノ祝祭日ト云フハ三大節ヲ始メ大祭ノミナラス或ル地方限リノ祭日例令ハ東京ノ神田明神ノ祭禮或ハ京都ノ祇園ノ祭禮ノ如キ祭日モ一般ノ祝祭日ノ



中ニ包含ス此ノ如キ一地方ノ祭日ニテモ人民カ休息スル日ヲ妨ケサル精神ナリトス

右等ノ林息日ニモ拘ハラズ是非職務ヲ施行セントスルトキハ判事又ハ檢事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス若シ此許可ヲ得テ休日ニ職務ヲ行フトキハ許可狀ヲ持參シテ之ヲ示スコトヲ要ス又調書ヲ作ルカ或ハ送達ヲ爲ス場合ニ其送達證書ヲ作ルトキハ此等ノ證書中へ記入シ且書類ヲ送達スルトキニ命令ノ謄本ヲ添附ス可キモノトス（民事訴訟法第五百三十九條參照）

第八條夜間モ矢張り人ノ安息スル時ナルカ故強制執行ノ如キ行爲ハ之ヲ爲ササルヲ通例トス然レモ執行裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ茲ニ夜間ト云フハ日没ヨリ日出マテノ時間ヲ指スモノトス（民事訴訟法第五百十條參照）

第九條裁判所ノ休暇即チ裁判所構成法第二百二十七條ニ規定ス

ル所ノ休暇ハ執達吏ノ事務ニ限リテハ之カ爲メ停止スルヲ得サルモノトス斯ク規定スル所以ハ執達吏ノ職務ハ決シテ躊躇スルコトヲ得サル行爲ノミニシテ殊ニ裁判所構成法第二百二十八條及第二百二十九條ノ規定ニ依レハ休暇中ト雖トモ取扱ハサルヲ得サル事件許多アリ要スルニ執達吏ノ行フ事務ハ送達ト云ヒ強制執行ト云ヒ何レモ急速ヲ要セサルナシ故ニ執達吏ニ付テハ休暇ナシ即チ休暇中ト雖トモ事務ヲ執ラサルヲ得ス併シナカラ收入ヲ増加スルノ利益アリ

第十條 昨日執達吏ノ自費ヲ以テ調製ス可キモノ、中ニテ御話シ致シタルガ亦執達吏ハ職務上保管ス可キモノアリ例令ハ強制執行上保管ス可キ金錢、有價證券、證書類又ハ物品等ヲ差押フレハ其所有者ノ占有ヲ引離シテ執達吏自ラ之ヲ占有ス可キモノナルカ故之ヲ貯藏スル爲ニ堅牢ナル建物ヲ有スルコトヲ必要トスル次第ナリ

第十一條 執達吏ハ職務上保管ス可キ金錢ト自己ノ金錢トハ

區別シテ置サレハ后日混淆シテ不都合ヲ生ス可キ恐アルニ因  
リ之カ區別ス可キコトヲ茲ニ定メタルナラン  
第十二條 職務上保管ス可キ金錢、有價證券、書類、物品等ヲ  
受取タルトキハ何レヨリ受取タル場合ニ於テモ（民事訴訟法  
第六百六十四條ノ場合モ包含ス）受取ノ證ヲ求メラレタルト  
キハ之ヲ渡ス可キハ勿論請求ナケレハ之ヲ要セス唯民事訴訟  
法第五百三十五條ノ場合ニ限り求メノ有無ニ拘ハラズ法律上  
受取證ヲ交付スルコトヲ必要トス  
第十三條 執達吏ノ證書ヲ作ル場合ニハ各其證書ノ種類ニ依  
リ掲ク可キ事項ハ各證書ノ作成ノ規定ニ掲ケアルモ其各箇ニ  
定メアル規定ノ外尙ホ本條第一號ヨリ第六號ニ掲クル所ノ事  
項ヲ守ル可キコトヲ定メタルモノナリ茲ニ注意ス可キコトハ  
證書ヲ作ル場合ニ於テ云々ト證書ナル語ヲ用非アレトモ此證  
書ナル用語ノ中ニハ彼ノ調書モ包含スルノ精神ナリ何故ニ執  
達吏ノ作りタル調書ヲ證書ト云フニ固ヨリ執達吏ノ作りタル

書面ハ民法ニ所謂公正證書中ノ一ニシテ調書ノ如キモ十分公  
正證書ノ證據力ヲ有スルモノナル故證書ト云フ文字ヲ用ユル  
モ敢テ不當ニハ非サル可シト思考ス其各證書ノ種類ニ付キ特  
別ニ規定シタル場合ハ數多アレモ其一二ノ例ヲ舉クレハ民事  
訴訟法第五百十一條ニ於ケル送達ノ受取證又ハ同法第五百四  
十條ニ於ケル各執行行為ニ付テ作ル可キ調書又ハ商法第七百  
九十條以下ノ規定ニ於ケル拒證書等ノ如ク其他數多ノ場合ア  
リ而シテ其種類ニ依テ掲ク可キ事項ヲ定メタルモ其規定ニ隨  
テ要件ヲ掲タル上尙ホ且茲ニ定メタル所ノ事項ヲ注意ス可シ  
ト云フニ在リ

第一號ハ各證書ニハ其作成ノ年月日時場所及云々又執達吏カ  
署名捺印ス可シト云フニアレトモ是等ノ場合ハ總テ民事訴訟  
法第五百四十條ニ掲ケアル故尙ホ重複ニ涉ルノ嫌アレトモ若  
シ重複スルトキハ一方ノミニ從ヒテ可ナリトス  
第二號ノ證書ハ之ヲ明確ニセサル可カラズ此明確ニスル方法

ハ當事者アレトモ其當事者へ其證書ヲ讀聞セ又ハ閱覽セシメタル上確カムルノ謂ナリ(民事訴訟法第三百三十一條參照)而シテ通常人民ニ讀易キ文字即チ平易ナル文字ヲ用ヒ且乾用萃ノ類即鉛筆ヲ初メ其他墨汁ヲ用井スシテ乾キシ儘書キ得ヘキ筆ノ類ハ之ヲ用ユルヲ許サスト云フノ意義ナリ故ニ諸君ハ出張シテ送達證書又ハ差押調書ヲ作ル可キトキハ矢立或ハ墨壺ヲ用意セサル可ラス

第三號ノ證書ハ正本ナルト謄本ナルトヲ問ハス空行ナク即チ間ニ餘白ヲ殘サ、ル様ニ之ヲ作ル可シ若シ抹消等ヲシタルトキハ線ヲ引テ文字ノ形狀ヲ見得ヘキ様注意セサルヲ得ス又執達吏ノ職務ニ付テハ明日ヨリ追々書式ヲ渡シ之ニ就テ御話スル計畫ナルカ執達吏ノ職務ハ概シテ書式用紙ヲ以テ證書ヲ作ルコト多シ而シテ裁判所ヨリ下付シタル書式ハ文字ヲ記入スル際ニ其記入ヲ要スル場所ト記入ヲ要セサル場所トアル可キ故記入ヲ要スル所丈ケハ必ス記入シ其記入ヲ要セサル場所ニ

ハ後日變更ヲ爲シ得サル爲メ線ヲ引置クコトヲ必要トス  
茲ニ正本ト謄本ナル用語アル故之ニ付テ區別ノ御話ヲセシ

公正證書ニ付テハ左ノ三種ノ區別アリ

- 一 原本
- 二 正本
- 三 謄本

私署證書ニ付テハ左ノ二種ノ區別アリ

- 一 原本
- 二 謄本

右ノ外彼ノ抄本ナルモノアリ之ハ公正證書ナルト私書證書ナルトヲ問ハス拔書ノコトヲ云フ而シテ官吏ノ作リタル證書及公吏ノ作リタル證書ハ總テ公正ノ證書ト云ヒ官吏公吏等ニ關係ナク一己人等ノ作リ交付シタル所ノモノヲ私書ノ證書ト云フ尙ホ詳細ナルコトハ民法證據編第十二條乃至第三十二條及第四十六條乃至第四十九條ニ依リ研究セラレタシ

第四號ニ所謂時間ニ因テ手数料ヲ得ヘキ場合則チ執達吏手数料規則ノ第二條ノ場合ノ如キハ其末項ニ於テ執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ幾許ノ手数料ヲ加フ可キ定メアリ斯ノ如キ場合ニ於テハ其執務時間ハ即チ或ル差押ニ着手シタル日時及其差押ヲ終了シタル時刻ヲモ調書ニ記載スルチ必要トス若シ其執務中ニ喫飯シタルカ又ハ病氣其他ノ事故ニ因テ事務ヲ一時停止シタルトキハ其執務ヲ停止シタル時間ヲモ調書ニ記載スルコト必要ナリトス

第五號ハ人民ノ求ニ因ルト法律上ノ規定ニ從フ場合トニ論ナク謄本ヲ作リシトキハ謄本ナル旨ヲ記載シ又職務上認證ヲ爲ス場合例令ハ本則第百七條及第百十條ノ規定ニ依リ認證ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ認證ナル語ヲ用ヰテ其正本ト謄本ト相違ナキコトヲ確メタル上執達吏ハ之ニ署名捺印ス可キ者トス第六號ハ如何ナル正本及謄本ニモ本則第百十一條ノ規定ニ從テ費用ノ計算ヲ記載シ置カサルチ得サルモノトス例令ハ送達

證書ニテモ呼出狀ニテモ總テ此手續ヲ要スルモノナリ

第十四條 今般下付セラレタル官印ハ此官印ヲ以テ偽造等モ出來得ヘキモノナルカ故決シテ他人等ニ自由ニ利用セラレサルコトニ注意ス可キモノナリ若シ職務ヲ辭シタルトキハ堅ク封シテ裁判所ニ返納セサル可ラス

第十五條 本條ハ只通信書類ニ付キ規定シタルモノニシテ其封印ヲ爲ス場合ニハ通常ノ封印ヲ爲セト云フニ外ナラス又其封印ハ自費ヲ以テ調製ス可キモノトス

第十六條 執達吏ハ他ノ官吏ト一般服務規則中ニ規定シタルコトヲ遵守セサルチ得サルモノトス

第十七條 執達吏ガ強制執行ノ委任ヲ受ケタル上ハ差押ヲ爲シタルト之ヲ爲サル、トチ問ハス又債權者ヲ満足セシメタルト否トチ論セス其委任終了シタルトキ其成績ヲ其管轄區裁判所ニ届出ツ可キモノトス此届出ヲ要スル理由ハ他ナシ彼ノ家資分散ノ宣言ヲ爲ス可キヤ否ヤチ裁判所カ知ラサルチ得サレハナリ

右ニテ職務ノ總則ニ付テノ御話ヲ終了セリ之ニ就テ御質問アレハ御答ニ及フ可シ

乙三十四番問 執達吏事務分配ハ執達吏規則ニ依レハ一人ノ判事若クハ監督判事ノ之ヲ定ムルノ規定アリシカ其一人ノ判事若クハ監督判事ハ唯今御説明ノ如ク一地方裁判所ノ各區裁判所ノ區域マテモ事務分配ヲ定ムルコトヲ得ルカ

答 勿論區裁判所ノ判事ノ事務分配ノ區域ヲ定ムルニハ裁判所構成法第九十七條ノ規定ニ依テ一地方裁判所ノ管轄内丈ケハ之ヲ定ムルノ權アリ若シ其執達吏ノ屬スル區裁判所ノ管轄外ニ於テノ事務ヲ取扱ハシメサルモノトスルトキハ裁判所構成法第九十七條ノ規定ハ徒法ニ屬ス可シ

乙四番問 執達吏職務細則第三條ニ官廳又ハ官吏ヨリ委任ヲ受ケタル云々トアルモノハ官廳ノ事務ヲ取扱フ官吏ト執達吏トノ間ノ關係ヲ云フ意味ナルカ

答 執達吏規則第八條ニ依リ除斥セラルハ其事務タルヤ官廳ヨリ委任シタルト人民ヨリ委任ヲ受ケタルトヲ問ハス其事件ニ付テ執達吏規則第八條ノ要件ノアル場合尙ホ復言スレハ其事件ノ當事者ト執達吏トノ間ニ右第八條ノ要件ノ存スル場合ニ除斥セラルハモノトスルノ謂ナリ

乙四番問 然ラハ例令ハ官廳又ハ官吏ヨリ委任ヲ受ケタル場合ニ於テ其官吏ト執達吏トノ間ニ於テ執達吏規則第八條ニ掲ケタル關係アル場合ニハ當事者ニ對シテハ全ク第三者ノ如ク見ユレトモ尙ホ除斥セラル可キヤ

答 除斥ハ執達吏ト其事件ノ當事者トノ間ニ關係アル場合ニ限ル

乙四番問 職務除斥ノ場合ハ法律上之ヲ退斥セラル、モノナルヲ以テ自身ノ之ニ關係スルコト能ハサルトキ代理人ヲ撰ミテ其者ニ委任ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得可キカ

答 執達吏規則第十一條ニ掲ケアル場合ニハ代理人ヲ委任

スルコトヲモ許ササル精神ナリ

乙三十四番問 祝祭日ノ場合ニ於テハ昨日例セラレタル神田祭或ハ祇園祭ノミナラス郷社又ハ村社ノ祭日モ尙ホ其日ハ安息日トシテ事務ヲ取扱フコト能ハサルカ

答 一般祭日トシテ休息スルニ於テハ御見込ノ通

丙一番問 日曜日ノ休日ハ勿論ナレモ土曜日ハ休日ニ入ラサルカ

答 裁判所構成法ノ精神ニ依レハ日曜日ノ外ハ休日ニ非ス土曜日ニモ他ノ日ト同様開廷日ト爲ス可キ筈ナリ例令ハ裁判所カ土曜日ニ何事件ノ期日ト定メ當事者ヲ呼出シタル上ハ夜ニ入ルモ調ヘサル可カラス隨テ他ノ裁判所ノ職員モ之ニ準ス

丙一番問 然ラハ執達吏モ右ニ準ス可キモノナルカ

答 然リ

丙一番問 夜間ハ日没ヨリ日出マテノ規定ナルカ佛蘭西ノ

訴訟法ニ依ルトキハ何月ヨリ何月マテハ何時ヨリ何時マテト云フカ如キ制限アリ去リナカラ日本ニ於テハ此ノ如キ制限ノナキモノト思考シ可然哉

答 我國ニ於テハ數年前ヨリ彼ノ治罪法ニ於テ夜間トハ日没ヨリ日出マテ云フコトニ定メアリテ今日モ尙ホ舊ノ如シ故ニ民事訴訟法第百五十條ノ規定ニ依ル可キモノトス(本則第八條)

丙一番問 財産差押ノ時ニ當リ日没前ニ着手シタル事務ノ日没後ニ涉ルトキハ別段許可ナキモ續行シ得ヘキモノナルカ

答 許可ヲ受クルニ非サレハ日没後ハ其執行ヲ爲スヲ得ス

丙一番問 許可ヲ受ケタルトキハ宜シキカ

答 然リ即チ本則第八條ノ規定アル所以ナリ

丙一番問 現今豫審ノ場合ニハ夜ニ入ルモ取調ヘ居ルハ如何

答 豫審ト執達吏ノ職務トハ區別アリ

乙七番問 本則第十三條第一號ニ各證書ニハ年月日時場所云々トアリ其證書ニハ住所ヲ記載スルモノナルカ

答 然リ

乙七番問 送達書若クハ訴狀ノ送達等ハ所謂證書ト看做シ是等ニモ住所ヲ記載スルモノナルカ

答 然リ尤モ是等ノ證書ニ付書式ヲ定メラルレハ其書式ニ基ケハ可ナリトス

乙四十七番問 本則第二十三條ニハ二十四時間内云々トアルハ夜間即チ日没ヨリ日出マテハ通算セサルカ又ハ之ヲ通算シテ二十四時ト爲ス可キモノナルカ例令ハ今日ノ十二時ニ委任ヲ受ケタルトキハ今日ノ日没マテノ時間ト翌日日出後ノ時間トチ計算シテ二十四時間ト爲ス可キモノナルカ又遅クトモ三日ヲ過ク可ラストアリシハ是亦右ノ例ニ依ルモノカ

答 民事訴訟法第六十五條第六十六條等ノ規定ニ從ヒ

計算セサルチ得サルハ勿論ナリ又三日ト云フモ其終リカ日曜日又ハ祝祭日ニ當レハ其日ハ除ク可キモノナリ

乙二番問 本則第十三條ノ各證書ヲ作ルニ當リ總テ證書ハ何通作ル可シト云フコトノ定メハ之レナキカ

答 然リ

乙二番問 或ル場合ニ於テ一通ノミ證書ヲ製スルコトアリテ執達吏ノ手許ニ殘シ置ク可キモノナキ場合モアリヤ

答 然リ

乙八番問 本則第七條ニ許可ノ命令ハ職務執行ノ際之ヲ示シ又同條後段ニ命令ノ謄本ヲ添付ス可シトアリシカ一度ヒ示シタルハ又謄本ヲ添附スルノ必要ハナキ様ニ思考ス此邊如何

答 職務施行ノ際ニ右命令ヲ示シタルトキ又ハ證書中ニシテ之ヲ示シタルコトヲ記入スルトキハ書類ヲ送達スルト

キハ場合ノ異ナルコトアル可シ命令ノ謄本ヲ添附スルハ書類ヲ送達スル場合ニ限ルノ意味ナリ

乙十八番問 本則第十三條ノ第五號ニ職務上ノ認證ト云フ

コトアリシカ此認證ハ總テ謄本ヲ渡ス場合ニハ認證ヲシテ渡スモノナルカ將タ當事者ノ求メニ依ルモノナルカ

答 謄本ニハ是非認證ヲ爲サ、ルヲ得サル場合ト又否ラサル場合トアリテ此第五號ハ職務上認證ヲ爲サ、ルヲ得サル場合ナリ

甲二十一番問 本則第五條ノ第三項ニ職權ヲ以テ命ス可キ事務トハ執達吏規則第三條ニ依ル可キ義務ヲ指シタルモノナルカ

答 然リ

乙十六番問 本則十七條ニ執達吏ハ強制執行ノ委任ヲ完結シタルトキハ債權者ヲ満足セシメタルト否トヲ問ハス其成績ヲ届出ルノ義務アリトアリシガ單ニ口頭ヲ以テ届出

ルモノナルカ將タ書面ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノナルカ  
答 書面タルコトヲ要ス

丙十一番問 晝間着手シタル事件ニ付キ夜間ニ及テ其事務ヲ取拂ヒシ場合ニ於テハ其成績ハ無効ナリヤ

答 異議ノ申立アルトキハ無効ニ歸ス

丙十一番問 其事件ノ永キ時間ヲ要スルコトノ豫知シタルトキハ其許可ヲ得テ爲セハ差支ナキモ豫知セサルトキ意外ノ時間ヲ要スル事件ナリシ場合ハ如何

答 其事務ニ着手シ未タ之ヲ終了セサル前ニ日没即チ夜間ニ至ルトキハ之ヲ停止シテ翌日亦始ムルヨリ外他事ナカル可シ

丙十一番問 數日ヲ要スル事件ニアラスシテ最早九分マテ其差押ヲ終リ今三十分乃至一時間ヲ要スレハ終了ス可キ其事務タルヤ近傍ナレハ格別不便ヲ感セサルモ五六里モ遠隔ノ地ニテ執行ヲ爲ストキ今僅々ノ時間ニテ其執行事



件ヲ終了スルニ當リ日没ノ爲メ之ヲ爲ス能ハサル場合ニハ甚タ不便ヲ感スルコト、思フ而シテ之ヲ正當ニ執行シ終ラントスレハ許可ヲ得サル可ラサルモ其裁判所ハ五六里モ遠隔ナルトキノ場合ハ如何

答 右等ノ場合ニハ執達吏ハ宜シク注意セサル可ラス初メ委任ヲ受ケシトキ此事件ハ何時間程ノ時日ヲ費ス可キヤハ其債權者及債務者ノ關係ニ依テ自ラ分リ得可キ故其職務施行ノ中途ニ於テ許可ヲ受ケサルヲ得サルカ如キ不都合ヲ生セサル様職務ヲ取扱フハ皆執達吏ノ巧者ニアルモノト思考ス

乙三十五番問 本則第四條ニ事實上ノ理由ニ依リ云々トアリ忌服ノ如キモ之ニ包含セシヤ

答 然リ

乙三十四番問 本則第八條ニ夜間ニ強制執行行爲ヲ爲ス可キトキハ執行裁判所ノ許可ヲ受ク可シトアリ實際執行ス

ル時間ニ於テ停止スルト停止セサルトハ其當事者へ非常ノ關係アリ其際ニ債務者カ承諾ナレハ執行スルモ差支ナキ精神ナルカ法文ニハ許可ヲ受ク可シトアルニ付キ果シテ當事者ノ承諾ヲ得ルトモ執行スル能ハサル精神ナルヤ答 許可ヲ受ケサレハ之ヲ許サ、ル精神ナリ

乙四十七番問 本則第九條ニ裁判所ノ休暇ト云フハ日曜日、祝祭日或ハ夏期休暇、冬期休暇等ノ一般ヲ指シタルモノナルヤ將々他ニ規定アリヤ

答 裁判所構成法ノ規定ニ依レハ休暇ナル語ハ同法第二百十七條ニ定ムル所ノ夏期休暇ノミ之ヲ用非日曜日又ハ一般ノ祝祭日ノ如キ休日ハ休暇トハ唱ヘサルノ精神ナリ

乙十八番問 本則第十七條ノ精神ハ執達吏カ強制執行ヲ爲スニ付キ裁判所書記ノ手ヲ經スシテ直ニ當事者ヨリ委任ヲ受ケタル場合ニ限ルモノナリヤ

答 強制執行ノ委任ハ當事者ヨリ直チニ委任ヲ受ケタルト

キモ裁判所書記ノ手ヲ經テ委任ヲ受ケタルトキモ此第十

七條ニ付テハ區別ナシ

甲四十二番問 本則第十五條ニ相當ノ封印トアルハ自己ノ

認印ノ如キヲ用ヰルモ宜シキカ將々別ニ封印ヲ調製スル

モノナルヤ

答 認印ヲ封印ト定メテ之ヲ封印トスレハ夫ニテ可ナリ

甲四十二番問 通信書類ノ封緘ニ用ヰル認印ヲ以テ差押物

杯ニ使用スルモ又其認印ヲ封印トスルモ差支ナキヤ

答 差支ナシ

甲四十二番問 右ハ一定ノ印ヲ用ユレハ宜シト云フコトナルヤ

答 然リ

丙一番問 官印ヲ以テ封印トスルモ宜シキカ又別ニ封印ヲ

是非拵ヘルノ精神ナルカ

答 別ニ封印ヲ作ル可キ精神ナリ

乙四番問 本則第三條中ニ除斥ト云フコトアリ之ハ若シ其

除斥ノ理由アリシトキハ自ラ退クノ義務アルモノナリヤ

答 然リ

甲二十番問 細則四條ノ事實上ノ理由ノ事ニ付キ御説明ア

リシカ人員ノ少ナキトキ又ハ病氣ノトキハ矢張正當ノ理

由トシテ執達吏規則第十二條ニ依テ申立テスルト云フノ

義ナルカ

答 然リ

甲二十番問 若シ遠方ニ私用ヲ以テ他出シ居ルカ又ハ病氣

、忌引ト云フトキ例ヘハ今日ノ如ク上京セシ場合ニハ事

務ヲ取扱フコト能ハス如斯場合ニハ代理ヲ爲サシムルモ

差支ナキ様ニ考ヘマスカ執達吏規則十三條「前條ノ場合

執達吏ナレハ一名ニ代理ヲ爲サシムルモ一名ヨリ他ニナ  
キトキハ此十一條ノ適當ト認メタル者ニ職權ヲ以テ代理  
ヲ爲サシムル場合アリ是レ正當ノ理由則チ他出シ居ルカ  
或ハ病氣等ノトキハ必スシモ右第十三條ニ依ルカ若クハ  
第十一條ノ一號ヨリ三號ニ至ルモノチシテ代理ヲ爲サシ  
メ宜シキカ

答 執達吏規則第十二條ノ又ハ之ヲ委任スルコトヲ得サル  
トキト云フ場合ニ非スシテ委任スルコトヲ得ル場合ハ勿  
論同規則第十一條ノ一號ヨリ四號ニ掲クル所ノモノニ代  
理ヲ爲サシメ若シ之ヲ爲シ得サルトキハ即チ第十二條ノ  
又ハ之ヲ委任スルコトヲ得サルトキト云フヲ適用ス可キ  
モノトス

乙十六番問 執達吏規則第十二條ノ之ヲ委任スルコトヲ得  
サルトキハ同第十一條ニ掲クル一號ヨリ四號マテノ者ア  
ルトモ其者ヲ信用シ安心シテ委任スルコトヲ得サル場合

モ矢張り同第十二條ノ委任スルコトヲ得サルトキト云フ  
中ニ包含セシカ

答 抑モ右規則第十一條ニ掲クル者ハ執達吏カ他ノ者ニ委  
任スルコトヲ得ル權利ヲ定メタルモノナルカ故其者ハ無  
論信用シテ委任シ得ヘキ者ヲ掲ケタル法理ナレトモ假令  
執達吏又ハ書記ノ登用試験ニ及第シタル者アリトモ此等  
ノ者ヲ信用セサルカ故チ以テ委任スルコトヲ得サレハ右  
第十二條ノ規定ニ從フヨリ外他事ナカル可シ

乙三十五番問 執達吏規則第十一條ニ特別ノ命令若クハ委  
任トアリ特別トアル以上ハ普通ノ命令ト普通委任ト云フ  
モノ、ナカラサル可カラスト考ヘマスカ其特別ノ場合ト  
普通ノ場合トニ於テ自己ノ責任ヲ以テ事務ヲ委任スル一  
例ヲ伺ヒマス

答 特別ノ命令ト云フハ例令ハ豫審判事カ此送達ハ至急ヲ  
要シ且重要ナル召喚狀ナルカ故執達吏自ラ之ヲ被告人ニ

送達ス可シト云フノ命ヲ受クレハ是レ即チ特別ノ命令ナリ又當事者カ此假差押ハ補助人ナドニ委任セスシテ執達吏自ラ至急ニ差押ヘテ貫ヒタシト云フカ如キハ即チ特別ノ委任ナリ

乙三十五番問 然ラハ其特別普通ノ區別ハ事件ノ輕重ニ依リマセンカ

答 特別トアルハ命令ニ付テモ委任ニ付テモ特ニ其規定アル場合ニ限ル

乙三十五番問 然ラハ夫レ丈ケノ事カ無ケレハ普通ノ委任ト看做シテ宜シキカ

答 御見込ノ通り

甲四十六番問 再ヒ執達吏規則第十二條ニ付キ伺ヒマス、

同條ニ「委任スルコトヲ得サル」トアリ之ハ執達吏カ代理人ニ委任スルコトヲ得サルト云フ意味ナリヤ

答 然リ

甲四十六番問 細則第四條ニ條執達吏委任ヲ受ケタル後法律上又ハ事實上ノ理由ニ因ル云々トアリ此法律上ノ理由トハ前條即チ第三條ノ除斥セラレタル場合カ法律上ノ理由ト心得可然哉

答 御見込ノ通り

甲二十八番問 細則第五條第四項ノ書函ノコトニ付テ段々御話アリシカ此書函ニ書記カ書類ヲ納ルレハ委任シタルモノト同様又執達吏カ函ヨリ出セハ口頭ヲ以テ委任ヲ受ケタルト同様ニ看做スト云フコトナリシカ之ハ是迄私ノ考ヘテ居ツタ所ヨリハ餘程便利ノ方法ト思ヒマス乍併實際上口頭ヲ以テスレハ宜シキカ此授受方法ヲ濫用シテ若シ間違ヒデモアレハ執達吏書記何レカ其責ヲ負フカ餘程面倒ニナラント思ヒマス此邊如何

答 間違アレハ其間違ヲ生セシメタリト認メラレタル者カ其責ヲ負ハサルヲ得ス